

2021年度 大学院政治学研究科 講義概要（シラバス）



法政大学

科目一覽

【発行日：2021/5/1】最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

政治学専攻_政治学特殊演習	【X5000】政治学特殊演習1 [山口 二郎] 春学期授業/Spring	1
政治学専攻_政治学特殊演習	【X5001】政治学特殊演習2 [山口 二郎] 秋学期授業/Fall	2
政治学専攻_修士専門科目	【X5002】政治理論研究1 [杉田 敦] 春学期授業/Spring	3
政治学専攻_修士専門科目	【X5003】政治理論研究2 [杉田 敦] 秋学期授業/Fall	3
政治学専攻_修士専門科目	【X5008】行政学研究 [土山 希美枝] 春学期前半/Spring(1st half)	4
政治学専攻_修士専門科目	【X5009】政治史研究1 [細井 保] 春学期授業/Spring	5
政治学専攻_修士専門科目	【X5010】政治史研究2 [細井 保] 秋学期授業/Fall	6
政治学専攻_修士専門科目	【X5011】日本政治史研究1 [明田川 融] 春学期授業/Spring	6
政治学専攻_修士専門科目	【X5012】日本政治史研究2 [明田川 融] 秋学期授業/Fall	7
政治学専攻_修士専門科目	【X5013】政治思想史研究1 [犬塚 元] 春学期授業/Spring	8
政治学専攻_修士専門科目	【X5014】政治思想史研究2 [犬塚 元] 秋学期授業/Fall	9
政治学専攻_修士専門科目	【X5017】公共哲学研究1 [西村 清貴] 秋学期前半/Fall(1st half)	10
政治学専攻_修士専門科目	【X5018】公共哲学研究2 [瀧元 初姫] 秋学期後半/Fall(2nd half)	11
政治学専攻_修士専門科目	【X5019】コミュニティ論研究1 [瀧元 初姫] 春学期後半/Spring(2nd half)	12
政治学専攻_修士専門科目	【X5020】コミュニティ論研究2 [西谷内 博美] 秋学期前半/Fall(1st half)	13
政治学専攻_修士専門科目	【X5025】公共政策研究1 [瀧元 初姫] 春学期前半/Spring(1st half)	14
政治学専攻_修士専門科目	【X5026】公共政策研究2 [瀧元 初姫] 秋学期前半/Fall(1st half)	15
政治学専攻_修士専門科目	【X5029】政治過程研究1 [山口 二郎] 春学期授業/Spring	16
政治学専攻_修士専門科目	【X5030】政治過程研究2 [山口 二郎] 秋学期授業/Fall	16
政治学専攻_修士専門科目	【X5031】行政理論研究1 [南島 和久] 春学期後半/Spring(2nd half)	17
政治学専攻_修士専門科目	【X5033】政策学研究1 [土山 希美枝] 春学期前半/Spring(1st half)	18
政治学専攻_修士専門科目	【X5034】政策学研究2 [鄭 智允] 秋学期後半/Fall(2nd half)	19
政治学専攻_修士専門科目	【X5042】連帯社会とサードセクター [中村圭介、柏木宏、伊丹 謙太郎] 春学期授業/Spring	20
政治学専攻_修士専門科目	【X5043】立法学研究1 [神崎 一郎] 春学期前半/Spring(1st half)	21
政治学専攻_修士専門科目	【X5047】自治体研究1 [土山 希美枝] 春学期後半/Spring(2nd half)	22
政治学専攻_修士専門科目	【X5051】公務員制度研究 [合田 秀樹] 秋学期後半/Fall(2nd half)	23
政治学専攻_修士専門科目	【X5056】雇用・労働政策研究 [濱口 桂一郎] 秋学期前半/Fall(1st half)	24
政治学専攻_修士専門科目	【X5057】政策法務論 [神崎 一郎] 春学期後半/Spring(2nd half)	25
政治学専攻_修士専門科目	【X5058】防災危機管理研究 [鍵屋 一] 春学期前半/Spring(1st half)	26
政治学専攻_修士専門科目	【X5063】自治体福祉政策論 [鏡 諭] 秋学期前半/Fall(1st half)	27
政治学専攻_修士専門科目	【X5064】自治体議会論 [鍵屋 一] 春学期後半/Spring(2nd half)	28
政治学専攻_修士専門科目	【X5065】NPO論1 [柏木 宏] 春学期前半/Spring(1st half)	29
政治学専攻_修士専門科目	【X5066】NPO論2 [柏木 浩] 春学期後半/Spring(2nd half)	30
政治学専攻_修士専門科目	【X5067】市民社会論 [菅原 敏夫] 春学期前半/Spring(1st half)	32
政治学専攻_修士専門科目	【X5068】シンクタンク論 [蒔田 純] 秋学期集中/Intensive(Fall)	33
政治学専攻_修士専門科目	【X5072】国際政治の基礎理論1 [森 聡] 春学期授業/Spring	34
政治学専攻_修士専門科目	【X5077】国際開発政策研究1 [武貞 稔彦] 秋学期前半/Fall(1st half)	35
政治学専攻_修士専門科目	【X5085】国際地域研究1 [熊倉 潤] 春学期授業/Spring	36
政治学専攻_修士専門科目	【X5086】国際地域研究2 [熊倉 潤] 秋学期授業/Fall	37
政治学専攻_修士専門科目	【X5091】アメリカ外交研究1 [森 聡] 春学期授業/Spring	38
政治学専攻_修士専門科目	【X5106】国際行政研究1 [坂根 徹] 秋学期授業/Fall	39
政治学専攻_修士専門科目	【X5107】国際行政研究2 [坂根 徹] 秋学期授業/Fall	40
政治学専攻_博士専門科目	【X5200】博士論文演習ⅠA [犬塚 元] 春学期授業/Spring	41
政治学専攻_博士専門科目	【X5201】博士論文演習ⅠB [犬塚 元] 秋学期授業/Fall	42
政治学専攻_博士専門科目	【X5202】博士論文演習ⅠA [山口 二郎] 春学期授業/Spring	43
政治学専攻_博士専門科目	【X5203】博士論文演習ⅠB [山口 二郎] 秋学期授業/Fall	44
政治学専攻_博士専門科目	【X5204】博士論文演習ⅡA [新川 敏光] 春学期授業/Spring	45
政治学専攻_博士専門科目	【X5205】博士論文演習ⅡB [新川 敏光] 秋学期授業/Fall	46
政治学専攻_博士専門科目	【X5207】博士論文演習ⅢB [本多 美樹] 秋学期授業/Fall	46
政治学専攻_博士専門科目	【X5220】政治学特別講義1 [犬塚 元] 春学期授業/Spring	47
政治学専攻_博士専門科目	【X5221】政治学特別講義2 [犬塚 元] 秋学期授業/Fall	48
政治学専攻_博士専門科目	【X5222】政治学特別講義1 [山口 二郎] 春学期授業/Spring	49
政治学専攻_博士専門科目	【X5223】政治学特別講義2 [山口 二郎] 秋学期授業/Fall	50

国際政治学専攻	[X5500]	国際政治理論 [森 聡] 春学期授業/Spring	51
国際政治学専攻	[X5501]	アメリカ外交史 [森 聡] 春学期授業/Spring	53
国際政治学専攻	[X5502]	政治理論研究 1 [杉田 敦] 春学期授業/Spring	54
国際政治学専攻	[X5503]	政治理論研究 2 [杉田 敦] 秋学期授業/Fall	54
国際政治学専攻	[X5507]	国際公共政策研究 1 [坂根 徹] 秋学期授業/Fall	55
国際政治学専攻	[X5508]	国際公共政策研究 2 [坂根 徹] 秋学期授業/Fall	56
国際政治学専攻	[X5509]	国際協力政策研究 1 [武貞 稔彦] 秋学期前半/Fall(1st half)	57
国際政治学専攻	[X5511]	非伝統的安全保障研究 [本多 美樹] 春学期授業/Spring	58
国際政治学専攻	[X5512]	Academic Reading (初級) [アラン メドウズ] 春学期授業/Spring	59
国際政治学専攻	[X5513]	Academic Reading (上級) [ザヘル・ハスン] 秋学期授業/Fall	60
国際政治学専攻	[X5514]	Thesis Writing (初級) [アラン メドウズ] 春学期授業/Spring	61
国際政治学専攻	[X5515]	Thesis Writing (上級) [ザヘル・ハスン] 秋学期授業/Fall	62
国際政治学専攻	[X5516]	Presentation & Debate (初級) [アラン メドウズ] 春学期授業/Spring	63
国際政治学専攻	[X5517]	Presentation & Debate (上級) [ザヘル・ハスン] 秋学期授業/Fall	64
国際政治学専攻	[X5521]	国際公共調達研究 2 [坂根 徹] 秋学期授業/Fall	65
国際政治学専攻	[X5526]	地球規模課題政策研究 [本多 美樹] 秋学期授業/Fall	66
国際政治学専攻	[X5530]	戦略と政策 [森 聡] 春学期授業/Spring	67
国際政治学専攻	[X5536]	ロシア政治外交研究 1 [溝口 修平] 春学期授業/Spring	68
国際政治学専攻	[X5537]	ロシア政治外交研究 2 [溝口 修平] 秋学期授業/Fall	69
国際政治学専攻	[X5538]	国際地域研究 (中国) (1) [熊倉 潤] 春学期授業/Spring	70
国際政治学専攻	[X5539]	国際地域研究 (中国) (2) [熊倉 潤] 秋学期授業/Fall	71
国際政治学専攻	[X5540]	国際地域研究 (朝鮮半島) (1) [権 鎬淵] 春学期授業/Spring	72
国際政治学専攻	[X5541]	国際地域研究 (朝鮮半島) (2) [権 鎬淵] 秋学期授業/Fall	73
国際政治学専攻	[X5542]	国際地域研究 (ロシア・中央アジア) (1) [片桐 俊浩] 春学期授業/Spring	74
国際政治学専攻	[X5543]	国際地域研究 (ロシア・中央アジア) (2) [片桐 俊浩] 秋学期授業/Fall	76
国際政治学専攻	[X5544]	国際地域研究 (東南アジア) (1) [浅見 靖仁] 春学期授業/Spring	77
国際政治学専攻	[X5545]	国際地域研究 (東南アジア) (2) [浅見 靖仁] 秋学期授業/Fall	78
国際政治学専攻	[X5546]	国際地域研究 (ヨーロッパ) (1) [宮下 雄一郎] 春学期授業/Spring	79
国際政治学専攻	[X5547]	国際地域研究 (ヨーロッパ) (2) [宮下 雄一郎] 秋学期授業/Fall	80
国際政治学専攻	[X5548]	日本政治外交研究 1 [高橋 和宏] 春学期授業/Spring	81
国際政治学専攻	[X5549]	日本政治外交研究 2 [高橋 和宏] 秋学期授業/Fall	82
国際政治学専攻	[X5553]	総合講座・外交総合講座 [本多 美樹] 秋学期授業/Fall	83

POL600A3

政治学特殊演習 1

山口 二郎

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学特殊演習 1 および 2 は、指導教員を中心に政治学研究科政治学専攻の教員の総力で、それぞれの院生が修士論文を書き上げていく上で必要な指導を行なう論文指導科目である。1 は春学期に開講される。

【到達目標】

最終目標はもちろんそれぞれが修士論文を完成させることである。修士 1 年春学期は、政治学の基礎を確立するとともに、修士論文の構想を練り上げること、その秋学期は修士論文執筆に必要な準備を行なっているかどうかを点検すること、修士 2 年春学期は、修士論文の構想を確定し、先行研究のフォローや必要な資料の洗い出しが終わっていること、その秋学期は、論文執筆が進行中であること、を目標にされたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」「DP2」「DP3」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】

政治学特殊演習 1 は、7 月初旬に行なう論文構想発表会が大きな軸となる。指導教員の指導を受けながらその準備と事後の振り返りをしっかり行なっていくことで、論文完成を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	この演習の概要、進め方について説明する。
第 2 回	研究倫理	研究倫理についての研修プログラムを受講する。
第 3 回	論文執筆の心構え	コースワークとは独自にどのように論文を準備していったらよいかを考える。
第 4 回	研究論文の基本	研究論文の基本を学習、確認する。
第 5 回	資料・文献の探索	図書館とオンラインデータベースの使い方に習熟する。
第 6 回	研究テーマと論文構想	自分なりの研究テーマを確定し、どんな論文を書いていくかを考える。
第 7 回	先行研究のフォロー	論文で扱うテーマについてどんな先行研究があるかを調べて整理していく。
第 8 回	資料収集	特に一次資料については、その所在や入手方法を確認し、収集計画を立てる。
第 9 回	主要文献・資料の読破	論文で扱うテーマにおいて主要文献ないし重要資料とされているものを読み解く。
第 10 回	問いと視点の明瞭化	資料・文献の読解、分析に基づいて、どのような研究上の問いと視点を採用するのかを検討する。
第 11 回	論文構想づくり	論文の構想をまとめて、報告資料を作成する。目次と参考文献リストは必ず準備する。

第 12 回	論文構想発表会（報告）	それぞれ構想していることについて報告し、全教員による指導を受ける。
第 13 回	論文構想発表会（精察）	他の院生がおこなう研究報告を把握、分析し、報告方法や研究の組み立て方などを参考にする。
第 14 回	論文構想発表会の振り返り	論文構想発表会で指摘されたことを振り返り、論文執筆の準備に生かす。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

上の「授業計画」に示した内容を参考に、普段の授業でのいわゆるコースワークとは独自に、論文執筆の準備を進められたい。そのために要する時間は通常、授業時間を大幅に上回るものになることから、計画的に進めること。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要なときに適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

1 年次生については、論文構想発表会での出席と報告（80%）、提出物（20%）で評価する。2 年次生については、論文構想発表会での出席と報告（100%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートの対象外である。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器（貸与パソコン等）

【その他の重要事項】

特になし。

【】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

【Outline and objectives】

The Seminar I and II are a course, which is instructed by your supervisor and the other members of the School of Politics, for preparing writing of master's thesis. You have the Seminar I in the spring semester.

POL600A3

政治学特殊演習2

山口 二郎

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学特殊演習1および2は、指導教員を中心に政治学研究科政治学専攻の教員の総力で、それぞれの院生が修士論文を書き上げていく上で必要な指導を行なう論文指導科目である。2は秋学期に開講される。

【到達目標】

最終目標はもちろんそれぞれが修士論文を完成させることである。修士1年春学期は、政治学の基礎を確立するとともに、修士論文の構想を練り上げること、その秋学期は修士論文執筆に必要な準備を行なっているかどうかを点検すること、修士2年春学期は、修士論文の構想を確定し、先行研究のフォローや必要な資料の洗い出しが終わっていること、その秋学期は、論文執筆が進行中であること、を目標にされたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」「DP2」「DP3」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】

政治学特殊演習2は、12月初旬に行なう論文構想発表会が大きな軸となる。指導教員の指導を受けながらその準備と事後の振り返りをしっかり行なっていくことで、論文完成を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	論文テーマの確定	秋学期のはじめには修士2年はもちろん、修士1年の院生もなるべく論文の大まかなテーマは決めるようにしたい。
第2回	先行研究のフォロー、分析	論文で扱うテーマについてどんな先行研究があるかを調べて整理していく。
第3回	文献・資料の読破	論文で扱うテーマにおいて必要な文献ないし重要資料を読み解く。
第4回	問いと観点の設定	資料・文献の読解、分析に基づいて、研究上の問いと観点を設定する。
第5回	研究史における位置づけ	論文で扱う（扱おうとしている）研究内容を、当該分野における研究史の文脈上に位置づける。
第6回	論文構想の彫琢	書こうとしている論文についてのレジメを作成してみる。特に修士2年生は詳しいレジメを作る。
第7回	論文執筆開始	書きやすいところから実際に論文を書き進めていく。
第8回	論文構成の調整	執筆過程で新たな考察要素を加えることの必要に気付いた場合などには、必要に応じて論文の構成を調整する。
第9回	文献・資料の補強	研究の深化に対応して、文献・資料の収集、分析を必要に応じて継続する。
第10回	校閲、推敲	論文の執筆過程における校閲、推敲の重要性を理解する。

第11回 論文構想発表会資料づくり
論文の構想をまとめて、報告資料を作成する。目次と参考文献リストは必ず準備する。

第12回 論文構想発表会（報告）
それぞれ構想していることについて報告し、全教員による指導を受ける。

第13回 論文構想発表会（精察）
他者の研究報告を把握、分析し、報告方法や研究の組み立て方などを参考にする。

第14回 論文構想発表会の振り返り
論文構想発表会で指摘されたことを振り返り、論文執筆の準備に生かす。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

上の「授業計画」に示した内容を参考に、普段の授業でのいわゆるコースワークとは独自に、論文執筆の準備を進められたい。そのため要する時間は通常、授業時間を大幅に上回るものになることから、計画的に進めること。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要ときに適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

論文構想発表会での出席と報告（100%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートの対象外である。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器（貸与パソコン等）

【その他の重要事項】

特になし。

【】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

【Outline and objectives】

The Seminar I and II are a course, which is instructed by your supervisor and the other members of the School of Politics, for preparing writing of master's thesis.

POL500A3

政治理論研究 1

杉田 敦

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治理論上の重要問題について、英語文献を講読し議論することで、知見を深める。

【到達目標】

権力、民主政治など政治理論上の重大な問題について、研究に必要な知識の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

毎回、英語文献を講読して議論する。対面で行う予定だが、感染症の状況次第では遠隔で実施することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	文献講読 1	テキストを読んでディスカッションする 1
第 2 回	文献講読 2	テキストを読んでディスカッションする 2
第 3 回	文献講読 3	テキストを読んでディスカッションする 3
第 4 回	文献講読 4	テキストを読んでディスカッションする 4
第 5 回	文献講読 5	テキストを読んでディスカッションする 5
第 6 回	文献講読 6	テキストを読んでディスカッションする 6
第 7 回	文献講読 7	テキストを読んでディスカッションする 7
第 8 回	文献講読 8	テキストを読んでディスカッションする 8
第 9 回	文献講読 9	テキストを読んでディスカッションする 9
第 10 回	文献講読 10	テキストを読んでディスカッションする 10
第 11 回	文献講読 11	テキストを読んでディスカッションする 11
第 12 回	文献講読 12	テキストを読んでディスカッションする 12
第 13 回	文献講読 13	テキストを読んでディスカッションする 13
第 14 回	文献講読 14	テキストを読んでディスカッションする 14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自が必要とする時間を用いて、事前にテキストを熟読し、事後に論点を整理する。

【テキスト（教科書）】

その都度指定する。

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

参加状況、知識の獲得状況を総合的に判断し、平常点100点。

【学生の意見等からの気づき】

今後、アンケートをふまえて対応する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>政治学
<研究テーマ>政治理論
<主要研究業績>
『権力論』、『境界線の政治学 増補版』（いずれも岩波現代文庫）

【Outline and objectives】

This class aims to help you have advanced knowledges in political theory through reading academic literature in English.

POL500A3

政治理論研究 2

杉田 敦

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治理論上の重要問題について、英語文献を講読し議論することで、知見を深める。

【到達目標】

権力、民主政治など政治理論上の重大な問題について、研究に必要な知識の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

毎回、英語文献を講読して議論する。対面で行う予定であるが、感染症の状況次第では、遠隔に切り替える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	文献講読 1	テキストを読んでディスカッションする 1
第 2 回	文献講読 2	テキストを読んでディスカッションする 2
第 3 回	文献講読 3	テキストを読んでディスカッションする 3
第 4 回	文献講読 4	テキストを読んでディスカッションする 4
第 5 回	文献講読 5	テキストを読んでディスカッションする 5
第 6 回	文献講読 6	テキストを読んでディスカッションする 6
第 7 回	文献講読 7	テキストを読んでディスカッションする 7
第 8 回	文献講読 8	テキストを読んでディスカッションする 8
第 9 回	文献講読 9	テキストを読んでディスカッションする 9
第 10 回	文献講読 10	テキストを読んでディスカッションする 10
第 11 回	文献講読 11	テキストを読んでディスカッションする 11
第 12 回	文献講読 12	テキストを読んでディスカッションする 12
第 13 回	文献講読 13	テキストを読んでディスカッションする 13
第 14 回	文献講読 14	テキストを読んでディスカッションする 14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自が必要とする時間を用いて、事前にテキストを熟読し、事後に論点を整理する。

【テキスト（教科書）】

その都度、指定する。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

参加状況、知識の獲得状況を総合的に判断し、平常点100点。

【学生の意見等からの気づき】

今後、アンケートをふまえて対応する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>政治学
<研究テーマ>政治理論
<主要研究業績>
『権力論』、『境界線の政治学 増補版』（いずれも岩波現代文庫）

【Outline and objectives】

This class aims to help you have advanced knowledges in political theory through reading academic literature in English.

POL500A3

行政学研究

土山 希美枝

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

行政学の基礎を学ぶ。都市型社会という社会構造と、そこでの（国・自治体）政府の役割、そこからみえる行政機構の役割を理解する。そのために、行政機構の成立を歴史的にふまえ、国・自治体の行政機構とその基礎理論を知り、行政と市民との関係性の展開を整理し、今日的課題を考察する。

【到達目標】

この講義の到達目標は以下のとおり。
・都市型社会における（国・自治体）政府と、その機構としての行政の構造について理解できること。
・行政機構とそれによって生み出される〈政策・制度〉を、歴史的、政策的、市民的な視角によってとらえることができること。
・今日的課題についての考察をすすめるための行政学の基礎的理解ができること、

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

基本的に、テキスト及び配布資料の読解と議論、考察により進行する。受講生は分担してテキストの指定された章または配布資料について要点と論点をまとめて講義で報告し、教員が解説しながら議論と考察をすすめる。導入や総括などでは教員による講義中心の回もある。報告、議論とそれらへのコメントによりフィードバックする。なお、原則として対面講義とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期前半

回	テーマ	内容
第1回	導入	講義の基本方針と進め方、テキスト読解の役割分担。
第2回	近代化と行政の歴史	政府（国・自治体）と行政機構の歴史を学ぶ（第1部）
第3回	行政組織の理論	行政の組織と管理の理論を学ぶ（第2部Ⅰ）
第4回	国政府の組織	国政府の行政機構と組織の編成を学ぶ（第2部Ⅱ、Ⅲ）
第5回	公務員制度と人事	公務員制度と公務員人事の動向を学ぶ（第2部Ⅳ）
第6回	官僚制の理論	官僚制の基礎理論を学ぶ（第3部Ⅱ）
第7回	自治体行政の歴史	自治体行政の位置付けとその変遷を歴史的に学ぶ（配布資料）
第8回	自治体行政と計画	自治体行政における計画を学ぶ（配布資料）
第9回	自治体行政と分権改革	分権改革と政府間関係を学ぶ（配布資料）
第10回	行政改革の潮流	行政改革のあゆみと現状、課題を学ぶ（第6部Ⅰ、Ⅱ）
第11回	行政と市民の関係	行政と市民の関係を学ぶ（第3部Ⅴ、配布資料）
第12回	行政と市民をめぐる制度	行政と市民の関係を制度から学ぶ（第3部Ⅴ、配布資料）
第13回	行政と評価	行政と評価（配布資料）
第14回	総括	行政の今日的課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。テキスト、配布資料、参考資料の精読を期待する。また、日頃から時事問題にたいする関心と良質な情報の収集に勤しむことを期待する。

【テキスト（教科書）】

村上弘・佐藤満編著『よくわかる行政学 第2版』ミネルヴァ書房、2016年。ほか、適宜指示する。

【参考書】

石橋章市朗・佐野亘・土山希美枝・南島和久『公共政策学』ミネルヴァ書房、2018年。

今村都南雄・武藤博己・沼田良・佐藤克廣・南島和久『ホーンブック基礎行政学 第3版』北樹出版、2015年。

松下圭一『政策型思考と政治』東京大学出版会、1991年。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加：議論への参加（25%）、コメント（25%）の様子、授業の成果：授業内での報告（25%）、期末レポート（25%）の各評価により判断する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度が科目の初年度であるため、反映するべき意見を受け取っていない。

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉公共政策、地方自治、政治学

〈研究テーマ〉社会構造と政策・政治の変容、自治体政策、自治体議会論。

〈主要研究業績〉『高度成長期「都市政策」の政治過程』日本評論社、2007年。

『質問力でつくる政策議会』公人の友社、2017年。

【Outline and objectives】

We'll learn the basics of administrative science.

It consists of such elements;

the administrative structure of the national and local governments and their basic theory,

development of the relationship between the administration and the citizens,

today's issue of local and national administration.

POL500A3

政治史研究 1

細井 保

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学専攻の「歴史・思想・理論」の分野に属する科目であり、ドイツ語を母語とする者が著した同分野についての文献を購読する。その際、ドイツ語のテキストを主とするか、和訳を主とするかは、受講者のドイツ語力によって決める。

現時点では Carl Schmitt: *Der Begriff des Politischen* (シュミット『政治的なものの概念』) の購読を予定している。同書でシュミットは *Die spezifisch politische Unterscheidung, auf welche sich die politischen Handlungen und Motive zurückführen lassen, ist die Unterscheidung von Freund und Feind* (政治的な行動や動機の基因と考えられる、特殊政治的な区別とは、友と敵という区別である) とのべ、その有名な友敵理論を展開する。本購読では、二〇世紀はじめに特殊政治的なものの起因を論じたこの政治学の古典をとりあげることによって、あらためて政治とは何か、ということを受講者とともに考察したい。

なお進み具合によっては、*Theorie des Partisanen Zwischenbemerkung zum Begriff des Politischen* (『バルチザンの理論』) も購読したいと考えている。

【到達目標】

ドイツ語系の政治思想・理論についての理解を深めること。ドイツ語圏の政治・社会・文化事象をめぐる知識の獲得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

本科目の授業形態は演習である。すなわち授業内での発表などを考えている。シラバス執筆段階では以下の授業計画を予定している。ドイツ語の難易度については、履修者のレベルに応じて決めるので、テーマとドイツ語に関心さえあれば、無理なく参加できるようにする方針である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	導入	準備情報
2	Der Begriff des Politischen	購読
3	Der Begriff des Politischen	購読
4	Der Begriff des Politischen	購読
5	Der Begriff des Politischen	購読
6	Der Begriff des Politischen	購読
7	Der Begriff des Politischen	購読
8	ふりかえり	前半の内容
9	Theorie des Partisanen	購読
10	Theorie des Partisanen	購読
11	Theorie des Partisanen	購読
12	Theorie des Partisanen	購読
13	Theorie des Partisanen	購読
14	ふりかえり	後半の内容

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文章を事前に読み、読書ノートを作成。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

独文については授業内で配布

【参考書】

授業内で紹介。

【成績評価の方法と基準】

平常点（報告および討論）を総合して評価。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

現下の状況に鑑みて、今年度の春学期の進め方等は、授業支援システムに記していきますので、履修者は必ず、同支援システムにも登録し、定期的に見察するようにしてください。

【Outline and objectives】

In diesem Seminar werden wir deutsche Texte über Kultur, Gesellschaft und Politik lesen.

English Keywords: German text, politics, society, culture

POL500A3

政治史研究 2

細井 保

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学専攻の「歴史・思想・理論」の分野に属する科目であり、ドイツ語を母語とする者が著した同分野についての文献を購読する。その際、ドイツ語のテキストを主とするか、和訳を主とするかは、受講者のドイツ語力によって決める。

現時点では Walter Benjamin: Zur Kritik der Gewalt (1920/1920:ベンヤミン『暴力批判論』)の購読を予定している。この文章をベンヤミンは、Die Aufgabe einer Kritik der Gewalt läßt sich als die Darstellung ihres Verhältnisse zu Recht und Gerechtigkeit unterschreiben (暴力批判論の課題は、暴力と、法および正義との関係をえがくことだ、といてよいだらう)という一文ではじめ、暴力の是非を、ある目的とその目的を達成するための手段と関連づけて考察することからはじめる。ほぼ同じ時期にウェーバーもまた『職業としての政治』のなかでこの論点に言及し、心情倫理と責任倫理について論じる。ベンヤミンは、かれの議論を、神話的暴力と神的暴力の対比へと展開させてゆく。本購読では、二〇世紀はじめに暴力・政治・法を考察したこの文章をとりあげることによって、あらためて政治における暴力について受講者とともに考察したい。

【到達目標】

ドイツ語系の政治思想・理論についての理解を深めること。ドイツ語圏の政治・社会・文化事象をめぐる知識の獲得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

本科目の授業形態は演習である。すなわち授業内での発表などを考えている。シラバス執筆段階では以下の授業計画を予定している。ドイツ語の難易度については、履修者のレベルに応じて決めるので、テーマとドイツ語に関心さえあれば、無理なく参加できるようにする方針である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	導入	準備情報
2	Zur Kritik der Gewalt	購読
3	Zur Kritik der Gewalt	購読
4	Zur Kritik der Gewalt	購読
5	Zur Kritik der Gewalt	購読
6	Zur Kritik der Gewalt	購読
7	Zur Kritik der Gewalt	購読
8	ふりかえり	前半の内容
9	Zur Kritik der Gewalt	購読
10	Zur Kritik der Gewalt	購読
11	Zur Kritik der Gewalt	購読
12	Zur Kritik der Gewalt	購読
13	Zur Kritik der Gewalt	購読
14	ふりかえり	後半の内容

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文章を事前に読み、読書ノートを作成。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

独文は授業内で配布

【参考書】

授業内で紹介。

【成績評価の方法と基準】

平常点（報告および討論）を総合して評価。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

In diesem Seminar werden wir deutsche Texte über Kultur, Gesellschaft und Politik lesen.

English Keywords: German text, politics, society, culture

POL500A3

日本政治史研究 1

明田川 融

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、あらためて日本政治史において対日占領期の持つ意味を問う研究が上梓されている。本授業は、連合国といっても主力は米国であったが一による対日占領と、米国による琉球／沖縄占領とを比較しながら、第二次大戦後の日本占領について再検討・再評価を試みるものである。いわゆる日本本土占領および琉球／沖縄占領にかかわる一次資料・研究論文・文献の精読を踏まえたうえで、受講生と議論を行いたい。

【到達目標】

受講生は、占領史に関する先行研究を踏まえたうえで、日本政治史における対日、対琉球／沖縄占領の光と影の所産を的確に把握・評価できるようにすることが求められる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

テキストとしては、福永文夫『日本占領史 1945-1952 東京・ワシントン・沖縄』（中央公論新社、2014 年）および櫻澤 誠『沖縄現代史 米国統治、本土復帰から「オール沖縄」まで』（中央公論新社、2015 年）を精読し、議論する。

なお、2 回目以降となるが、授業のはじめに課題（試験やレポート等）に対して講評し、受講生に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	対日占領性政策の立案	SWINCC150 シリーズ、JCS1380 シリーズ、ポツダム宣言、ブラックリスト作戦の形成
第 2 回	対日占領のはじまり	その究極目的
第 3 回	統治体制の変革	象徴天皇制と主権在民への道
第 4 回	双面神の憲法構想	「平和憲法」と沖縄要塞化の相関
第 5 回	対日早期講和の提唱と安保問題	いわゆる芦田メモと沖縄の将来に関する昭和天皇メッセージ
第 6 回	戦後政党政治の起動	占領初期における本土と沖縄の政党活動
第 7 回	対日政策の転換	PPS28 シリーズ～NSC13 シリーズの形成
第 8 回	講和論争	日米で二分される国論
第 9 回	講和準備研究作業	NSC60/1 への道、A・B・C・D 作業
第 10 回	講和交渉	日米の外交指導
第 11 回	対日講和条約の成立	第 3 条（潜在主権方式）の形成を中心に
第 12 回	日米安保条約の成立	「安保条約の論理」を中心に
第 13 回	サンフランシスコ体制	その光と影を考察する
第 14 回	日本、琉球／沖縄占領とは何だったのか	日本政治史における占領の意味を考察する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業を履修する大学院生は、自ら関連する文献や資料を読んだり、レポート課題に取り組んだりすることにより、各々が適当と判断する時間の、授業時間外学習が必要となる。参考までに、大学設置基準によれば、この授業の準備学習・復習時間は各 2 時間が標準となる。

【テキスト（教科書）】

福永文夫『日本占領史 1945-1952 東京・ワシントン・沖縄』中央公論新社、2014 年。

櫻澤 誠『沖縄現代史 米国統治、本土復帰から「オール沖縄」まで』中央公論新社、2015 年。

【参考書】

思想の科学研究会編『共同研究／日本占領』徳間書店、1972 年。

竹前栄治『GHQ』岩波書店、1983 年。

五百旗頭真『米国の日本占領政策 戦後日本の設計図』上・下、中央公論社、1985 年。

坂本義和・R. E. ウォード編『日本占領の研究』東京大学出版会、1987 年。

袖井林二郎『吉田茂＝マッカーサー往復書簡集 1945-1951』法政大学出版局、2000 年。

賀茂道子『ウォー・ギルト・プログラム GHQ 情報教育政策の実像』法政大学出版局、2018 年。

【成績評価の方法と基準】

平常点のみ（100％）。やや詳しくは、授業への積極的な貢献度（出席等）、報告（レジュメ）の内容やプレゼンテーションぶり、議論のようすなどをみて総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムやオンラインによる授業に参加できるような機器およびネット環境

【その他の重要事項】

重要なお知らせ（2021年2月20日）
新型コロナウイルスにより、授業の開始日や方法等につき重要な連絡がなされる可能性がありますので、受講生は本 Web シラバスおよび学習支援システムを小まめにチェックするようにしてください。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 日米関係史、日本政治外交史
<研究テーマ> 日米地位協定の成立過程
沖繩と日米安保体制の歴史
日本と核兵器との関係史

<主要研究業績および刊行物>

- 『日米行政協定の政治史—日米地位協定研究序説—』法政大学出版局、1999年。
 - 『沖繩基地問題の歴史—非武の島、戦の島—』みすず書房、2008年（第30回沖繩協会・沖繩研究奨励賞【社会科学部門】受賞）。
 - 『日米地位協定—その歴史と現在—』みすず書房、2017年。
 - 波多野澄雄・河野康子監修（明田川補）『沖繩返還関係資料』（第1回配本分、全7巻）現代史料出版、2017年。
 - 『核兵器と「国民の特殊な感情」』1-6（雑誌『みすず』に2013年6月号より2015年8月まで不定期連載）。
 - ジョン・ハーシー『ヒロシマ 増補版』法政大学出版局、2003年（共訳）。
 - ジョン・W. ダワー著『昭和 戦争と平和の日本』みすず書房、2010年（監訳）。
 - ジョン・W. ダワー／ガバン・マコーマック著『転換期の日本へ 「ボックス・アメリカナ」か「ボックス・アジア」か』NHK出版、2014年（共訳）。
 - 『占領期年表 1945-1952年 沖繩・憲法・日米安保』創元社、2015年（監修）。
- 近年、広島・長崎・ビキニを経験した日本の核兵器に対する「国民感情」と政府の安全保障政策との連関について研究をまとめるべく、資料収集や分析視覚の検討を行っている。

また、1950年代半ばの沖繩で米軍により強行された土地強制収用にさいして、住民代表である立法院（県議会のような組織）がなしたと、なしえなかったことの実証にも取り組んできた。

現在は、波多野澄雄・筑波大学名誉教授ならびに河野康子・法政大学名誉教授による監修で刊行が進められている沖繩施政権返還交渉関係資料集の編集補佐がおもな仕事となっている。

【Outline and objectives】

In recent years, remarkable literatures on Allied occupation of Japan proper and American occupation of Ryukyu (Okinawa) islands have been published. Political history of Japan 1 is an essay to revise and re-evaluate occupation of Japan. In this class, comparison perspective between occupation of Japan proper and that of Ryukyu (Okinawa) is used. Students must read a lot of articles, literatures, and historical documents.

POL500A3

日本政治史研究2

明田川 融

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第二次大戦後を扱った日本政治史において、一見して意外に思われるのが、沖繩・昭和天皇・安保を含む日米関係の連関である。そして、その生成および展開過程についての検証や考察が充分になされてきたとは言い難い。本授業では、当該期の日本を取り巻く国際環境や日本が置かれた地理的条件なども関連づけながら、戦後日本政治史においてあまり取りあげられてこなかった未解明の領域について知見を深め拡げていきたい。そのような作業は「昭和」の終焉から30年経ち、平成も終わろうとする今日、不可欠と考える。当該機にかかわる新発見史料、研究論文、文献の精読を踏まえたうえで、受講生と議論を行いたい。

【到達目標】

これまで、第二次大戦後を扱った日本政治史研究において最も欠落していたのは、沖繩および昭和天皇という、じつは密接な連関をもつ二つのファクターを十分に分析し、定位するという作業であった。本授業では、近年公開された沖繩をめぐる日米両政府の公文書や『昭和天皇実録』なども読み込みながら、戦後日本政治史についての知見をより深め、拡げることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

テキストとしては、当該問題をほぼ独力で掘り深めてきた豊下楯彦氏の『安保条約の成立』『昭和天皇・マッカーサー会見』『昭和天皇の戦後日本』や吉次公介氏の「知られざる日米安保体制の“守護者”」などを読み、議論する。
なお、2回目以降となるが、授業のはじめに課題（試験やレポート等）に対して講評し、受講生に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	講和・安保交渉の準備過程	『安保条約の成立』第1章の精読と同章をめぐるの議論
第2回	「池田ミッション」と吉田外交の展開	同上第2章および第4章の精読と同章をめぐるの議論
第3回	日米交渉の帰結	同上第3章の精読と同章をめぐるの議論
第4回	天皇・マッカーサー会見(1)	同上第5章の精読と同章をめぐるの議論
第5回	天皇・マッカーサー会見(2)	『昭和天皇・マッカーサー会見』第1章の精読と同章をめぐるの議論
第6回	昭和天皇にとつての危機(1)	『昭和天皇の戦後日本』第1部の精読と議論
第7回	昭和天皇にとつての危機(2)	『昭和天皇の戦後日本』第2部の精読と議論
第8回	「松井文書」を読み解く	『昭和天皇・マッカーサー会見』第3章の精読と同章をめぐるの議論
第9回	いわゆる天皇メッセージと日米交渉	『安保条約の成立』第6章の精読と同章をめぐるの議論
第10回	「二重外交」	同上第7章の精読と同章をめぐるの議論
第11回	「安保国体」の成立	『昭和天皇の戦後日本』第2部の精読と議論
第12回	「知られざる日米安保体制の“守護者”(1)	吉次論文の精読と同論文をめぐるの議論
第13回	「知られざる日米安保体制の“守護者”(2)	同上
第14回	「憲法・安保体制」のゆえ	『昭和天皇の戦後日本』第3部の精読と議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業を履修する大学院生は、自ら関連する文献や資料を読んだり、レポート課題に取り組んだりすることにより、各々が適当と判断する時間の、授業時間外学習が必要となる。参考までに、大学設置基準によれば、この授業の準備学習・復習時間は各2時間が標準となる。

【テキスト（教科書）】

豊下楯彦『安保条約の成立—吉田外交と天皇外交—』岩波書店、1996年。
同上『昭和天皇・マッカーサー会見』岩波書店、2008年。
同上『昭和天皇の戦後日本—（憲法・安保体制）にいたる道—』岩波書店、2015年。
吉次公介「知られざる日米安保体制の“守護者”—昭和天皇と冷戦—」『世界』第755号所収。

【参考書】

古川隆久『昭和天皇―「理性の君主」の孤独― 中央公論新社、2011年。
宮内庁『昭和天皇実録 第九』東京書籍、2016年。

【成績評価の方法と基準】

平常点のみ(100%)。やや詳しくは、授業への積極的な貢献度(出席等)、報告(レジュメ)の内容やプレゼンテーションぶり、議論のようすなどをみて総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムやオンラインによる授業に参加できるような機器およびネット環境

【その他の重要事項】

重要なお知らせ(2021年2月20日)
新型コロナウイルスにより、授業の開始日や方法等につき重要な連絡がなされる可能性がありますので、受講生は本 Web シラバスおよび学習支援システムを小まめにチェックするようにしてください。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 日米関係史、日本政治外交史

<研究テーマ> 日米地位協定の成立過程

沖縄と日米安保体制の歴史

日本と核兵器との関係史

<主要研究業績および刊行物>

・『日米行政協定の政治史―日米地位協定研究序説―』法政大学出版局、1999年。
・『沖縄基地問題の歴史―非武の島、戦の島―』みすず書房、2008年(第30回沖縄協会・沖縄研究奨励賞【社会科学部門】受賞)。

・『日米地位協定―その歴史と現在―』みすず書房、2017年。

・波多野澄雄・河野康子監修(明田川補)『沖縄返還関係資料』(第1回配本分、全7巻)現代史料出版、2017年。

・『核兵器と『国民の特殊な感情』』1-6(雑誌『みすず』に2013年6月号より2015年8月まで不定期連載)。

・ジョン・ハーシー『ヒロシマ 増補版』法政大学出版局、2003年(共訳)。

・ジョン・W. ダワー著『昭和 戦争と平和の日本』みすず書房、2010年(監訳)。

・ジョン・W. ダワー／ガバン・マコーマック著『転換期の日本へ 「ボックス・アメリカナ」か「ボックス・アジア」か』NHK出版、2014年(共訳)。

・『占領期年表 1945-1952年 沖縄・憲法・日米安保』創元社、2015年(監修)。

近年、広島・長崎・ビキニを経験した日本の核兵器に対する「国民感情」と政府の安全保障政策との連関について研究をまとめるべく、資料収集や分析視覚の検討を行っている。

また、1950年代半ばの沖縄で米軍により強行された土地強制収用にさいして、住民代表である立法院(県議会のような組織)がなしたと、なしえなかったことの実証にも取り組んできた。

現在は、波多野澄雄・筑波大学名誉教授ならびに河野康子・法政大学名誉教授による監修で刊行が進められている沖縄施政権返還交渉関係資料集の編集補佐がおもな仕事となっている。

【Outline and objectives】

Political history of Japan 2 is an essay to clarify the relation among Okinawa, Showa emperor and U.S.-Japan security arrangements. At a glance, students feel strange about the relation of the three. But recent years, some historical materials were discovered and have shown the evidences of the relation. Today-30 years after the Showa period- it is essential for us to examine newly found historical fact.

POL500A3

政治思想史研究 1

犬塚 元

備考(履修条件等): 隔週授業

実務教員:

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

政治学研究や政治思想研究の基礎となるスキルと知識を修得するために、英語で書かれた学術論文を丁寧に輪読する。Zoomを用いたオンライン授業を予定している。(本年度は、隔週で2時限連続開講となります。)

【到達目標】

(1) 英語で書かれた学術論文を正確に読解・理解する。(2) 政治思想・政治理論研究の基礎知識や基礎的方法論を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

指定文献を少しずつ読解する。各回は、担当者による報告と、ディスカッションによって構成される。報告者のみならず、すべての参加者が文献を精読していることを前提にして授業は行われる。Zoomを用いたオンライン授業を予定している。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の方法と内容
第2回	文献読解	文献1(1)
第3回	文献読解	文献1(2)
第4回	文献読解	文献1(3)
第5回	文献読解	文献1(4)
第6回	文献読解	文献2(1)
第7回	文献読解	文献2(2)
第8回	文献読解	文献2(3)
第9回	文献読解	文献2(4)
第10回	文献読解	文献3(1)
第11回	文献読解	文献3(2)
第12回	文献読解	文献3(3)
第13回	文献読解	文献3(4)
第14回	まとめ	前期の学習の総括

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

【参考】大学設置基準に鑑みた場合、準備・復習時間は講義及び演習(2単位)では1回につき4時間以上、実験、実習及び実技(1単位)では1回につき1時間以上が標準となる。

【テキスト(教科書)】

たとえば、The Oxford Handbook of Political Theory(2008)、The Oxford Handbook of the History of Political Philosophy(2013)、The Oxford Handbook of Political Philosophy(2016)などから、受講者の問題関心や研究テーマに即して講読文献を選定する。

【参考書】

使用するテキストに掲載された文献リストを参照。

【成績評価の方法と基準】

平常点(100点)。

【学生の意見等からの気づき】

受講者のニーズに応じてカスタマイズしたプログラムとします。

【学生が準備すべき機器他】

Zoomに接続するための情報機器。

【その他の重要事項】

他専攻所属の学生の履修可。

【担当教員の専門分野等】

専門領域：政治学史、ヨーロッパ政治思想史

主要研究業績：『デイヴィッド・ヒュームの政治学』（著書）東京大学出版会、2004、『岩波講座政治哲学2』（編著書）岩波書店、2014、ヒューム『自然宗教をめぐる対話』（翻訳）岩波文庫、2020 など

【Outline and objectives】

An introduction to political thought

POL500A3

政治思想史研究2

犬塚 元

備考（履修条件等）：隔週授業

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学研究、政治思想研究の基礎となるスキルと知識を修得するために、英語で書かれた学術論文を丁寧に輪読する。政治思想・政治理論分野における入門レベルの授業である。Zoomを用いたオンライン授業を予定している。（本年度は、隔週で2時限連続開講となります。）

【到達目標】

（1）英語で書かれた学術論文を正確に読解・理解する。（2）政治思想・政治理論研究の基礎知識や基礎的方法論を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

指定文献を少しずつ読解する。各回は、担当者による報告と、ディスカッションによって構成される。報告者のみならず、すべての参加者が文献を精読していることを前提にして授業は行われる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の方法と内容
第2回	文献読解	文献1（1）
第3回	文献読解	文献1（2）
第4回	文献読解	文献1（3）
第5回	文献読解	文献1（4）
第6回	文献読解	文献2（1）
第7回	文献読解	文献2（2）
第8回	文献読解	文献2（3）
第9回	文献読解	文献2（4）
第10回	文献読解	文献3（1）
第11回	文献読解	文献3（2）
第12回	文献読解	文献3（3）
第13回	文献読解	文献3（4）
第14回	まとめ	前期の学習の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【参考】大学設置基準に鑑みた場合、準備・復習時間は講義及び演習（2単位）では1回につき4時間以上、実験、実習及び実技（1単位）では1回につき1時間以上が標準となる。

【テキスト（教科書）】

たとえば、The Oxford Handbook of Political Theory（2008）、The Oxford Handbook of the History of Political Philosophy（2013）、The Oxford Handbook of Political Philosophy（2016）などから、受講者の問題関心や研究テーマに即して講読文献を選定する。

【参考書】

使用するテキストに掲載された文献リストを参照。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100点）。

【学生の意見等からの気づき】

受講者のニーズに応じてカスタマイズしたプログラムとします。

【担当教員の専門分野等】

専門領域：政治学史、ヨーロッパ政治思想史

主要研究業績：『デイヴィッド・ヒュームの政治学』（著書）東京大学出版会、2004、『岩波講座政治哲学2』（編著書）岩波書店、2014、ヒューム『自然宗教をめぐる対話』（翻訳）岩波文庫、2020 など

【Outline and objectives】

An introduction to political thought

POL500A3

公共哲学研究 1

西村 清貴

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「公共性」、「市民社会」といった公共哲学における基本的概念の歴史的由来と、現代公共哲学における意義を学ぶことを目的とする。

【到達目標】

「公共性」、「市民社会」といった公共哲学における基本的概念、そして「国家」、「共同体」、「個人」、「市場」といった公共哲学において重要な諸概念の思想史的意義について理解したうえで、現代の代表的公共哲学において、これらの諸概念にどのような意義が与えられているかを理解できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

公共政策研究科の「公共哲学基礎」と政治学研究科の「公共哲学研究Ⅰ」とを合併開講する。講義を行うほか、文献を講読する。

講義については、「国家」、「共同体」、「個人」、「市場」といった公共哲学にとって重要と思われる諸概念が生成されるにあたり大きく貢献した思想家を取り扱う。

文献購読については、トマス・ホブズ『リヴァイアサン』について各参加者に割り振られた箇所について報告してもらう。本書は、公共哲学や政治哲学の古典中の古典である。古典として今日においても読まれていることの意義をしっかりと味わってもらいたい。なお、分量の関係で全体を通読するのは難しいため、最もよく知られた箇所（13-30章）をゼミでの購読の対象とするが、可能であれば、その前後についても通読しておいてもらいたい。

本講義は、2コマ続きを8回行う4期制の科目であるが、以下の「授業計画」では、1コマずつ記載している。初日と最終日を除いて、1コマ目が講義、2コマ目が文献講読、というように進める予定である。

なお、今後のコロナ感染状況に関する大学の方針等により変更はあり得るが、原則として、対面で授業を行う。

なお、学期末にレポートを提出してもらう。レポートについては講評を付して返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期前半

回	テーマ	内容
第1回 (1日目 前半)	イントロダクション	講義の目的や内容について説明する
第2回 (1日目 後半)	政治社会の成立	古代や中世において政治がいかなる営みであったかを見る
第3回 (2日目 前半)	カントにおける啓蒙と公共性	公共哲学において頻繁に取り上げられる「理性の公共的使用」という用語法を中心にカントの思想を見る
第4回 (2日目 後半)	文献購読	テキスト13、14章
第5回 (3日目 前半)	アダム・スミスと市場	しばしば公共性と対立する概念として取り上げられる市場という概念についてアダム・スミスを中心として見る

第6回 文献購読 テキスト15、16章

(3日目

後半)

第7回 ヘーゲルと市民社会／近代的な意味での市民社会と国家との峻別を確立したヘーゲルの思想を見る

(4日目

前半)

第8回 文献購読 テキスト17、18章

(4日目

後半)

第9回 ハンナ・アレントと公今日の公共哲学において最も著名な論者の一人であるハンナ・アレントの公共性論を『人間の条件』を中心に見る

(5日目

前半)

第10回 文献購読 テキスト19、20、21章

(5日目

後半)

第11回 ハーバマスと公共性 「公共性の構造転換」を中心にクルゲン・ハーバマスの議論を見る

(6日目

前半)

第12回 文献購読 テキスト22、23、24章

(6日目

後半)

第13回 文献購読 テキスト25、26、27章

(7日目

前半)

第14回 文献購読 テキスト28、29、30章

(7日目

後半)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、報告者であるないにかかわらず、テキストの該当箇所を事前に読んでおき、授業における発言についてあらかじめ考えておくこと。

【テキスト（教科書）】

ホブズ、水田洋訳『リヴァイアサン』（岩波文庫）。全4巻本であるが、直接教科書とするのは第1巻および第2巻（1992年改訂）

【参考書】

西村清貴『法思想史入門』（成文堂、2020年）

【成績評価の方法と基準】

報告40パーセント、学期末レポート40パーセント、その他授業への貢献度（討論等）20パーセント。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 法思想史・法哲学

<研究テーマ> 19世紀ドイツ法思想

<主要研究業績> 西村清貴『近代ドイツの法と国制』（成文堂、2017年）

西村清貴『法思想史入門』（成文堂、2020年）

【Outline and objectives】

This lecture aims to learn the historical origins of basic concepts in public philosophy such as "publicness" and "civil society" and their significance in contemporary public philosophy.

POL500A3

公共哲学研究 2

淵元 初姫

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の「公共哲学研究」と政治学研究科の「公共哲学研究 2」とを合併開講する。政策論の理論的な基礎をなす考え方を培うことを目指して設置されている科目である。

「公共」ほかにいくつかの基礎的概念について、その原理的な内容、歴史、背景となっている社会構造や政策の方向性などについて、一定の理解を獲得するために、若干の基礎的な理論枠組を講義形式で確認した上で、主として文献講読を行う。

【到達目標】

目前の政策研究の対象としては近年「新しい公共」という政策用語が流行しているが、より広い原理的な見地から「公共」というものを発想できるようにしたい。そのために、基本的理解を助ける講義を行うほか、やや難解と思われる文献を講読するので、これの各章の内容をおおむね理解できるようにすること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

やや難解と思われる文献の講読を行なうが、どの文献を選択するかは、受講者のニーズを考慮して決めるのが適切であると考え。そこで、以下の授業計画では、仮に文献として、ロバート・パットナムの『哲学する民主主義：伝統と改革の市民的構造』を取り上げるとした場合の予定を記入している。文献講読の進め方をイメージする上で参考にさせていただきたい。受講者の希望に応じて文献を変更する場合、下記の授業計画は全く異なった進行になる。原則として授業では、受講者がそれぞれ章ごとにレジュメを作成し、各授業ではその報告に基づいて文献の検討を行う。報告に対しては、授業中に参加者全員による質疑・議論を行い、講評を行うことによってフィードバックする。授業方式は原則として対面授業とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期後半

回	テーマ	内容
第 1 回	導入的講義	現代日本の「公共」言説の特徴の確認を行う。
第 2 回	文献講読：ロバート・パットナム『哲学する民主主義：伝統と改革の市民的構造』第 1 章	「はじめに－制度パフォーマンスの研究」
第 3 回	文献講読：ロバート・パットナム『哲学する民主主義：伝統と改革の市民的構造』第 2 章	「ルールの変更－制度発展の 20 年」
第 4 回	文献講読：ロバート・パットナム『哲学する民主主義：伝統と改革の市民的構造』第 3 章	「制度パフォーマンスを測定する」
第 5 回	文献講読：ロバート・パットナム『哲学する民主主義：伝統と改革の市民的構造』第 4 章	「制度パフォーマンスを説明する」
第 6 回	文献講読：ロバート・パットナム『哲学する民主主義：伝統と改革の市民的構造』第 5 章	「市民共同体の起源を探る」
第 7 回	文献講読：ロバート・パットナム『哲学する民主主義：伝統と改革の市民的構造』第 6 章	「社会資本と制度の成功」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献を事前に精読してください。授業の後は、その内容について復習を行ってください。

文献の内容報告のための準備と、授業の最終回に提出する期末レポートの作成を行う必要があります。

【テキスト（教科書）】

ロバート・パットナム『哲学する民主主義：伝統と改革の市民的構造』（NTT出版）を文献講読の対象として仮置きしますが、第一回目の授業で受講者と相談の上、文献を変更することもあります。受講希望者は、どんな文献を読みたいかを考えておいてください。

【参考書】

上記のほか、リチャード・セネット『公共性の喪失』（晶文社）、ハンナ・アレント『人間の条件』（ちくま学芸文庫）などは、難解ながら基本文献として推奨されます。そのほかの参考書は、必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

レジュメによる報告（30%）及び期末レポート（50%）に加え、授業中の質疑や討論における発言（20%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一人につき各章を担当し、レジュメを持ち寄り検討するという進め方のほか、パラグラフごとに読み合わせを行ったり、場合によっては一文ごとに原著を確認しながら一冊の文献を丁寧に読んでいきます。一人では理解が難しかったり、誤読してしまうような点についても、複数人で検討をすることによる気づきにつながり、新たな視点を得ることに役立つと思います。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 比較政治学、コミュニティ政策、福祉政策
<研究テーマ> ポスト福祉国家時代の市民社会論、地域社会における社会的包摂、英国・スコットランドの地方自治・自治体内分権
<主要研究業績>

「スコットランドの地域評議会－制度の基本的構想とその機能の実際」名和田是彦編（2009）『コミュニティの自治－自治体内分権と協働の国際比較』pp.81-118、日本評論社

「スコットランドにおける権限移譲とジェンダー・クォータ」三浦まり・衛藤幹子編著（2014）『ジェンダー・クォーター世界の女性議員はなぜ増えたのか』pp.203-26、明石書店

「地域社会における社会的連帯の再編：居場所づくりにみる三人称的連帯の可能性」金安岩男・牧瀬稔編著（2019）『都市・地域政策研究の現在』pp.131-42、地域開発研究所

【Outline and objectives】

The course draws upon the developing international literature on public philosophy from Western Europe and North America. Reading materials will be selected in agreement with participants.

POL500A3

コミュニティ論研究 1

淵元 初姫

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の「市民社会とコミュニティ」と政治学研究科の「コミュニティ論研究 1」との合併開講で、地域コミュニティに関する政策論を学ぶための科目の一つとして設置されている。本科目ではコミュニティ・レベルで展開している諸主体の公共的な動きを、事例研究を通じて考え、理論的な整理を行う。

日本では、合併によって失われた制度枠組を自治会・町内会が民間的に回復するという特異な経過を辿ったほか、民間（「市民社会」）側の多彩な営為が生活を支えてきたことを論じていく。

【到達目標】

日本のコミュニティの基礎的組織（自治会・町内会や地区社会福祉協議会、地区民生委員協議会、消防団など）や地域で活動する NPO などについて理解し、その現代的、日本的特徴を理解することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

教員による講義と受講者による課題報告とで構成します。課題に対しては、授業中に参加者全員による質疑・議論を行い、講評を行うことによってフィードバックします。

授業方式は原則として対面授業とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期後半

回	テーマ	内容
第 1 回	福祉国家の変容とコミュニティ	福祉国家の形成と変容に伴い、人との間の「つながり」がどのように変化してきたかを論ずる。
第 2 回	市民社会の概念史	日本人の市民社会意識を考えるため、市民社会の概念史を確認する。
第 3 回	都市化とコミュニティ	都市の発展により、コミュニティにおけるネットワークがどのように変化したのかを考える。
第 4 回前 半	日本における自治会・町内会	自治会・町内会の基本的特質と歴史を論ずる。
第 4 回後 半	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、日本の自治会・町内会に関する論点など）について報告し、質疑応答を行う。
第 5 回前 半	スコットランドの住民組織	スコットランドの地域評議会について説明する。
第 5 回後 半	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、各国の住民組織に関する論点など）について報告し、質疑応答を行う。
第 6 回前 半	コミュニティにおける「居場所」づくり	近年活発に取組まれているサロン活動、コミュニティ・カフェなどの事例を検討する。
第 6 回後 半	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、コミュニティにおける居場所作りに関する論点など）について報告し、質疑応答を行う。
第 7 回前 半	コミュニティの「再生」	現代におけるコミュニティの「再生」について事例に基づいて検討を行う。
第 7 回後 半	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、コミュニティの「再生」に関する論点など）について報告し、質疑応答を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に提示された文献等がある場合は予習を行い、授業の後は、その内容や資料等について復習を行ってください。

課題報告のための準備と、授業の最終回に提出する期末レポートの作成を行う必要があります。

【テキスト（教科書）】

特に使用しません。

【参考書】

必要に応じて、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

課題報告（30%）及び期末レポート（50%）に加え、授業中の質疑や討論における発言（20%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

市民社会やコミュニティに対する受講生の分析視角が多様であり、その多様性を理解するためにも相互に議論する機会をより多く設けることが必要であると思いました。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 比較政治学、コミュニティ政策、福祉政策

<研究テーマ> ポスト福祉国家時代の市民社会論、地域社会における社会的包摂、英国・スコットランドの地方自治・自治体内分権

<主要研究業績>

「スコットランドの地域評議会－制度の基本的構想とその機能の実際」名和田彦編（2009）『コミュニティの自治－自治体内分権と協働の国際比較』pp.81-118、日本評論社

「スコットランドにおける権限移譲とジェンダー・クォータ」三浦まり・衛藤幹子編著（2014）『ジェンダー・クォーター世界の女性議員はなぜ増えたのか』pp.203-26、明石書店

「地域社会における社会的連帯の再編：居場所づくりにみる三人称的連帯の可能性」金安岩男・牧瀬稔編著（2019）『都市・地域政策研究の現在』pp.131-42、地域開発研究所

【Outline and objectives】

Community governance in many countries has gone through great transformations in the last half century. The course seeks to provide an understanding of these changes in community policy and why they have come about. The course analyses the ideological and political factors which have shaped the development of civil society in industrial countries in the past and are shaping it in the present.

POL500A3

コミュニティ論研究2

西谷内 博美

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コミュニティとは、合併によって制度的枠組を失った身近な地域的まとまりである。という観点から、このコミュニティを再制度化する政策ないし制度を国際比較的に考察する。これによってコミュニティ政策というものについて基礎的な理解を得ることが目的である。

【到達目標】

・「参加」と「協働」、「地域的まとまり」や「都市内分権」といった概念を獲得、あるいは再考・整理することで、さまざまなコミュニティの制度について比較考察することができる。
・コミュニティの制度について、それぞれの地域の歴史文化的特性を踏まえたうえで、制度の特徴や課題について考察し説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

対面授業。おおよそ、講義が2/3、受講生による課題発表が1/3程度です。講義は、think-pair-share等アクティブラーニングの手法を取り入れ、受講生の主体的な参加を促します。課題発表へのフィードバックは授業内で実施されます。すなわち、担当となる発表のさいに、発表された内容についてクラス全体で検討・議論をするなかで、課題の取り組みに対する量的・質的なフィードバックも行われます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期前半

回	テーマ	内容
第1回前 半	オリエンテーション	授業の内容と進め方を共有する。
第1回後 半	コミュニティ制度論の視 角	たとえば「参加」と「協働」といった、コミュニティの制度を分析するための本授業におけるキー概念を共有する。
第2回前 半	日本におけるコミュニ ティの制度化	日本におけるコミュニティの制度について概観し、考察する。
第2回後 半	地域運営の条件	ミルトン・コトラーの4条件について考察する。
第3回前 半	ドイツにおけるコミュニ ティの制度化	ドイツにおけるコミュニティの制度について概観し、考察する。
第3回後 半	自治会・町内会	日本の自治会・町内会に関して、民間原理の側面と、制度的な側面について考察する。
第4回前 半	スコットランドにおける コミュニティの制度化	スコットランドにおけるコミュニティの制度について概観し、考察する。
第4回後 半	ライティングの技法	期末レポートの課題を提示するとともに、英米型のライティングメソッドを共有する。
第5回前 半	フランスにおけるコミュニ ティの制度化	フランスにおけるコミュニティの制度について概観し、考察する。
第5回後 半	インドにおけるコミュニ ティの制度化I	インド農村部におけるコミュニティの制度について概観し、考察する。
第6回前 半	アメリカにおけるコミュニ ティの制度化	アメリカにおけるコミュニティの制度について概観し、考察する。
第6回後 半	インドにおけるコミュニ ティの制度化II	インド都市部におけるコミュニティの制度について概観し、考察する。
第7回前 半	フィリピンにおけるコ ミュニティの制度化	フィリピンにおけるコミュニティの制度について概観し、考察する。
第7回後 半	日本におけるコミュニ ティ政策の展開	日本におけるコミュニティ政策の展開を概観し、その制度的特徴及び今後の課題について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容を予習・復習し理解を深めてください。とりわけ第1回後半で実施するキー概念の共有は極めて重要です。また、各自、担当課題の報告準備（学習、調査、資料作成）をしてもらいます。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

名和田是彦編, 2009, 『コミュニティの自治』日本評論社。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 35%、課題報告（レジュメ作成を含む）35%、授業内での討論・発言 30%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

LMSを通じて資料配布を行います。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>環境社会学、コミュニティ論、国際協力論

<研究テーマ>廃棄物管理、開発と社会

<主要研究業績>

2018『白老における「アイヌ民族」の変容』東信堂。

2016『開発援助の介入論』東信堂。

2011『デリー準州のバギダリ（Bhagidari）政策』『国際開発研究』67-80。

【Outline and objectives】

I start in this lecture from the theoretical idea that the "community" in the context of Japanese policy making means the neighborhood unit which lost its institutional framework through the merge. I will analyze the history and the recent tendency of Japanese community policy, paying special attention to international comparison with those in European, American and Asian countries.

POL500A3

公共政策研究 1

淵元 初姫

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学からの政策研究へのアプローチについて、基礎的な知識と分析手法の習得を目指す、入門的な位置づけの科目である。学部までの段階で政治学を専攻していない受講生も想定し、政治学の基礎概念の習得ができるように配慮する。取りあげる主要な論点は、政策と政治過程の関係、政治的正統性と政策的合理性の関係、制度研究と政策研究の関係などである。

【到達目標】

政策研究一般の中で、政治学からのアプローチの特性を把握し、対象とする政策領域に対する適切な研究設問を立てることができるようになる。その上、学術論文の作成の際に、適切な文脈の中で活用することができることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

教員による講義と受講者による課題報告とで構成します。講義では、政策研究の基本的知識について整理します。受講者は、個人の研究関心に沿って課題を設定して報告します。課題に対しては、授業中に参加者全員による質疑・議論を行い、講評を行うことによってフィードバックします。

授業方式は原則として対面授業とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期前半

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	政策に関する諸学問分野の中で政治学からのアプローチの特徴とは何か。あわせて政策に関する諸学問分野の中で、政治学の隣接諸学の基本的な特徴を整理する。
第2回	公共政策学の誕生前史	公共政策学の誕生についてそのルーツを探る。
第3回	公共政策学の成立	公共政策がアメリカで成立したことの背景を整理する。
第4回	公共政策学の発展	公共政策学の発展とその挫折について検討する。
第5回	公共政策学の変容	公共政策学の変容と、多様な政策科学のアプローチについて学ぶ。
第6回	公共政策の構成と特徴	公共政策の構成要素及び公共政策がもつ特徴について整理する。
第7回	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、公共政策学の歴史に関する論点など）について報告・質疑を行う。
第8回	政策のライフ・ステージと政策過程	政策過程を段階に分けて整理する概念を検討する。
第9回	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、政策段階論に関する論点など）について報告・質疑を行う。
第10回	政策過程における参加者	政策過程におけるアクターの役割について考える。
第11回	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、政策過程におけるアクターに関する論点など）について報告・質疑を行う。
第12回	政策をめぐる価値の対立	政策がめぐるべき諸価値について検討し、それらの対立関係について考える。
第13回	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、政策をめぐる価値の対立に関する論点など）について報告・質疑を行う。
第14回	まとめ	講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しません。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

課題報告（30%）及び期末レポート（50%）に加え、授業中の質疑や討論における発言（20%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

公共政策学を理解するために、その歴史的な成り立ちを丁寧に説明することが重要であると思いました。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 比較政治学、コミュニティ政策、福祉政策

<研究テーマ> ポスト福祉国家時代の市民社会論、地域社会における社会的包摂、英国・スコットランドの地方自治・自治体内分権

<主要研究業績>

「スコットランドの地域評議会－制度の基本的構想とその機能の実際」名和田是彦編（2009）『コミュニティの自治－自治体内分権と協働の国際比較』pp.81-118、日本評論社

「スコットランドにおける権限移譲とジェンダー・クォータ」三浦まり・衛藤幹子編著（2014）『ジェンダー・クォータ－世界の女性議員はなぜ増えたのか』pp.203-26、明石書店

「地域社会における社会的連帯の再編：居場所づくりにみる三人称的連帯の可能性」金安岩男・牧瀬稔編著（2019）『都市・地域政策研究の現在』pp.131-42、地域開発研究所

【Outline and objectives】

The overall aim of this course is to introduce students to a range of political theories and concepts used in the academic study of public policy, such as rationalism, incrementalism and institutionalism. The course aims to be accessible for those who have not studied politics before, and is suitable for students looking for a multi-disciplinary experience.

POL500A3

公共政策研究2

淵元 初姫

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学からの政策研究へのアプローチについて、政策過程研究の方法論のうち、実証的な政策研究に必要なものを取りあげ、修士課程での研究の中で活用できるように、その特徴、適した分析対象、期待される分析結果などについて考察する。

【到達目標】

政策過程研究の主要な理論、枠組、モデルについて概要を把握し、研究テーマに応じた分析方法の的確な選択、応用ができるようになることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

教員による講義と受講者による課題報告とで構成します。講義では、政策研究一般におけるアプローチ方法について整理します。受講者は、個人の関心に沿って課題を設定し、政策研究の分析方法を応用して報告します。課題に対しては、授業中に参加者全員による質疑・議論を行い、講評を行うことによりフィードバックします。授業方式は原則として対面授業とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期前半

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	実証的な政策研究とは何か。また、なぜ政策の分析に理論・モデル・フレームワークを用いる必要があるのかを論じる。
第2回	政策研究のフレームワーク	政策研究における理論・モデル・フレームワークの概念を整理し、現代の政策研究の枠組みがどのように展開してきたかを振り返る。
第3回	政策研究におけるモデルの基礎1	アクターに着目したモデルについて学ぶ。
第4回	政策研究におけるモデルの基礎2	方法論に着目したモデルについて学ぶ。
第5回	政策決定における合理性と不確実性	合理性とは何か、合理的な意思決定は可能か検討する。
第6回	政策決定と制度・利益・アイデア	政策決定における3つの「I」について学ぶ。
第7回	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、政策決定と3つの「I」に関する論点など）について報告・質疑を行う。
第8回	アリソンの3つのモデル	G. アリソンによる対外政策決定研究のための3つの概念レンズから学ぶ。
第9回	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、アリソンの3つのモデルに関する論点など）について報告・質疑を行う。
第10回	キングダンの政策の窓モデル	J. キングダンの政策の窓モデルから学ぶ。
第11回	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、キングダンの政策の窓モデルに関する論点など）について報告・質疑を行う。
第12回	政策とデータ	政策立案に際してその根拠となる政府統計について考える。
第13回	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、政策とデータに関する論点など）について報告・質疑を行う。
第14回	まとめ	講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に提示された文献等がある場合は予習を行い、授業の後は、その内容や資料等について復習を行ってください。課題報告のための準備と、授業の最終回に提出する期末レポートの作成を行う必要があります。

【テキスト（教科書）】

特に使用しません。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

課題報告（30%）及び期末レポート（50%）に加え、授業中の質疑や討論における発言（20%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

受講生による課題報告については、少しテーマを絞ったほうがよいかと考えました。受講生の皆さんと相談しながら工夫したいと思います。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞ 比較政治学、コミュニティ政策、福祉政策
 ＜研究テーマ＞ ポスト福祉国家時代の市民社会論、地域社会における社会的包摂、英国・スコットランドの地方自治・自治体内分権
 ＜主要研究業績＞

「スコットランドの地域評議会－制度の基本的構想とその機能の実際」名和田是彦編（2009）『コミュニティの自治－自治体内分権と協働の国際比較』pp.81-118、日本評論社

「スコットランドにおける権限移譲とジェンダー・クォータ」三浦まり・衛藤幹子編著（2014）『ジェンダー・クォータ－世界の女性議員はなぜ増えたのか』pp.203-26、明石書店

「地域社会における社会的連帯の再編：居場所づくりにみる三人称的連帯の可能性」金安岩男・牧瀬稔編著（2019）『都市・地域政策研究の現在』pp.131-42、地域開発研究所

【Outline and objectives】

We now turn to more detail on how policies are actually made. The course will look at how policy agenda is set and how policy issues are constructed and framed. It will also explore how we can evaluate public policy. Important themes will include the role of ideas, institutions and interests in the policy-making process. The course will employ a number of case studies to give life to the theories and concepts explored.

POL500A3

政治過程研究 1

山口 二郎

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の民主政治において政策が立案、決定、実施される過程を理解するための基本的な理論枠組み、概念を理解する。

【到達目標】

日本の民主政治の特徴を理解することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

講義。

授業を補完するために課題を出しますので、提出してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	序章	冷戦崩壊とグローバル化によって、日本の戦後はどう変わったのかを論じる。
第2回	1 政治とは何か	政治という活動の定義を明らかにする。
第3回	1 政治とは何か2	政府の仕事とは何か、他のシステムとの対比で明らかにする。
第4回	1 市場と政府	市場に対する政府の任務を明らかにする。
第5回	2 政治に参加すること	政治参加と民主主義を論じる。
第6回	2 政治に参加すること	多数決と民主主義の関係について考える。
第7回	3 人間の不完全性と民主政治	人間の不完全性と民主政治－人間の認識におけるステレオタイプと言葉の問題について考える。
第8回	4 民主政治の理念とは何か	政治と生命の関係を考える。
第9回	4 民主政治の理念とは何か2	政治における自由と平等について考える。
第10回	4 民主政治の理念とは何か3	政治における共同体と国家について考える。
第11回	5 民主政治の基本的な原理と構成	民主政治と議会政治について考える。
第12回	5 民主政治の基本的な原理と構成2	民主政治における政党と政治家、官僚制について考える。
第13回	6 政治はどのように展開されるのか	政策形成の動態について観察し、そのメカニズムを明らかにする。
第14回	7 民主政治のこれから	これからの民主政治の可能性について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

山口二郎 今を生きるための政治学 岩波書店

【参考書】

文献リストを配布する

【成績評価の方法と基準】

課題レポートと期末レポートの総合による

【学生の意見等からの気づき】

双方向的な議論の時間を確保したい

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムから講義の資料をあらかじめダウンロードしておくこと。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>政治学、行政学

<研究テーマ>現代日本の政策過程、政官関係

<主要研究業績>

内閣制度（東京大学出版会、2007年）

政権交代とは何だったのか（岩波書店、2012年）

【Outline and objectives】

This lecture aims at providing basic theoretical framework and concepts to understand dynamics of modern democracy.

POL500A3

政治過程研究 2

山口 二郎

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカの代表的政治理論家、ロバート・ダールの名著を読むことを通して、現代民主主義に関する理論の探求を行う

【到達目標】

20世紀後半の欧米の政治学における民主主義論について、全体像を把握できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

英文テキストを精読する方式

なお、受講生の関心、能力によって、変更することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	Robert Dahl, Democracy and its Critics, Yale University Press, 1989 Chap 10	英語テキスト訳読と解釈
第2回	Chap 11	英語テキスト訳読と解釈
第3回	Chap 12	英語テキスト訳読と解釈
第4回	Chap 12	英語テキスト訳読と解釈
第5回	Chap 13	英語テキスト訳読と解釈
第6回	Chap 14	英語テキスト訳読と解釈
第7回	Chap 15	英語テキスト訳読と解釈
第8回	Chap 16	英語テキスト訳読と解釈
第9回	Chap 17	英語テキスト訳読と解釈
第10回	Chap 18	英語テキスト訳読と解釈
第11回	Chap 19	英語テキスト訳読と解釈
第12回	Chap 20	英語テキスト訳読と解釈
第13回	Chap 21	英語テキスト訳読と解釈
第14回	Chap 22,23	英語テキスト訳読と解釈

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回事前にテキストを読み、翻訳を準備すること。予習には標準とされる2時間を越える相当な時間が必要となるので覚悟のうえで参加すること。

【テキスト（教科書）】

Robert Dahl, Democracy and its Critics, Yale University Press, 1989

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

授業における課題の遂行状況を評価する

【学生の意見等からの気づき】

受講者の関心によってテキストを追加することもある。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

【Outline and objectives】

This seminar aims at understanding the basic arguments and concepts about contemporary democracy.

POL500A3

行政理論研究 1

南島 和久

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1990年代以降、日本の公的部門において評価がブームとなった。自治体では行政評価と呼ばれる手法が定着し、国では中央省庁等改革に伴い政策評価制度が導入された。しかし、そもそも政策評価が何であるのか、どのようにすればこれを活用できるのかといった点については、十分な議論が交わされてこなかった。この科目では、これら公的部門の評価について議論する。その際、歴史を踏まえつつ理論的な検討を行うとともに海外の取組との比較も視野に入れる。

【到達目標】

本科目では、政策評価論を構成する基礎概念を順次紹介する。これら基礎概念の理解を本科目の基礎的な到達目標とする。ポイントは以下の3点である。

- ①政策評価の類型に関する理解
政策分析、業績測定、プログラム評価の概念の理解
- ②政策評価の歴史に関する理解
PPBS、GAOのプログラム評価、GPRA/GPRAMAの史的展開
日本の政策評価の史的展開に関する理解
- ③政策評価の理論に関する理解
ロジックモデル、評価階層、アカウントビリティの理解
政策分析とプログラム評価、業績測定とプログラム評価の論争
政策評価にかかる実用主義と科学主義に関する論争など

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

授業は、1回2時間続きで実施する。スケジュールは授業計画の内容をイメージしているが、これは計画段階のものであり、各回のテーマは受講生の関心を考慮して変更することがある。テーマに沿った形の討論を交える。学生へのフィードバック方法については講義内もしくはメールにて行う。原則として講義は対面で実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期後半

回	テーマ	内容
第1回	導入	この科目について、成績評価の方法についてなど
第2回	政策の概念	政策の合理性、体系的性、循環性、ロジックモデル
第3回	評価の概念	政策分析、プログラム評価、業績測定の違い
第4回	政策分析	費用便益分析、公共事業評価、規制評価
第5回	業績測定と自治体①	事務事業評価、総合計画の評価
第6回	業績測定と自治体②	計画と評価、マニフェストと評価
第7回	業績測定と独立行政法人①	NPMと評価、独法の歴史、3つの独法形態と評価
第8回	業績測定と独立行政法人②	地方独立行政法人、公立大学の評価、公立病院の評価
第9回	国の府省の評価①	中央省庁等改革と評価、総務省の行政評価局調査、政策評価法
第10回	国の府省の評価②	府省の自己評価、3つの評価方式、行政事業レビューと政策評価、EBPM
第11回	アメリカの評価①	PPBS、プログラム評価、GPRA
第12回	アメリカの評価②	GPRAMA、データドリブン、エビデンスベースド、APGs、CAPGs、評価の日米比較
第13回	評価理論①	評価の類型論、評価階層の理論（システムティックアプローチ）
第14回	評価理論②	評価をめぐる学説、科学主義と実用主義の対立

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

南島和久『政策評価の行政学：制度運用の理論と分析』見洋書房、2020年。
南島和久編『JAXAの研究開発と評価』見洋書房、2020年。
山谷清志監修、大島嶺、源由理子編著『プログラム評価ハンドブック』見洋書房、2020年。

【参考書】

今村・武藤・佐藤・沼田・南島『ホーンブック基礎行政学（第3版）』北樹出版、2015年。
石橋・佐野・土山・南島『公共政策学』ミネルヴァ書房、2018年。
行政管理研究センター編『詳解・政策評価ガイドブック』ぎょうせい、2008年。
佐藤竺監修、今川晃・馬場健編著『市民のための地方自治入門（新訂版）』実務教育出版、2009年。
益田直子『アメリカ行政活動検査院』木鐸社、2010年。
松田憲忠・岡田浩編著『よくわかる政治過程』ミネルヴァ書房、2018年。
武藤博己編著『公共サービス改革の本質』、2014年。
広田照幸『組織としての大学』岩波書店、2013年。
山谷清志『政策評価の理論とその展開』見洋書房、1997年。
山谷清志『政策評価の実践とその課題』萌書房、2006年。
山谷清志編著『公共部門の評価と管理』見洋書房、2010年。
山谷清志『政策評価』ミネルヴァ書房、2012年。
山谷清志編『政策と行政』見洋書房、2021年（5月刊行予定）。

【成績評価の方法と基準】

平常点及び報告（40%）、期末レポート（60%）

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

【その他の重要事項】

初回の講義にて案内します。万が一初回講義に欠席する場合には連絡してください。メールアドレスは、najima@jura.niigata-u.ac.jp（「@」と「.」は全角となっています。）

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>行政学、公共政策学
<研究テーマ>政策評価の制度運用
<主要研究業績>『政策評価の行政学』（見洋書房）、『それでも大学が必要』と言われるために』（創成社）、『ホーンブック基礎行政学（第3版）』（北樹出版）、『公共サービス改革の本質』（敬文堂）、『東アジアの公務員制度』（法大出版）、『組織としての大学』（岩波書店）、『公共部門の評価と管理』（見洋書房）、『市民のための地方自治入門』（実務教育出版）など

【Outline and objectives】

Since 1990's, policy evaluation system become a boom in the Japanese public sector. In the municipality, performance measurement has become established. In central government, a policy evaluation system was introduced to the ministries and agencies. However, sufficient debate has not been exchanged. We will conduct a theoretical study while considering the history, and also consider comparison with overseas initiatives.

POL500A3

政策学研究 1

土山 希美枝

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政策は、こんにちの社会（都市型社会）で生きるひとびとの「いとなみの基盤」である。

都市型社会の構造と特質を知り、こんにちにいたるまで歴史的にどのような政策類型が蓄積されてきたかを理解し、政策主体と〈政策・制度〉のありかたを理解する。そのうえで、政策過程がどのように進むのかを学ぶ。

この講義を通じて、各自の研究対象とする政策分野を政策学からとらえるための視角を養うこととなる。

【到達目標】

この講義の到達目標は以下である。

- ・公共政策が展開される前提であるこんにちの社会構造（都市型社会）の特質を理解する
- ・歴史的に形成されてきた政策類型をふまえる
- ・公共政策の過程の基礎を学び
- ・各自の研究対象とする政策分野をとらえる政策学の視角を得る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

テキストの読解と議論、考察により進行する。受講生はテキストの指定された章について分担して要点と論点をまとめ、教員が解説しながら議論と考察をすすめる。必要に応じて補足資料が提供される。報告、議論とそれらへのコメントによりフィードバックする。なお、原則として対面講義とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期前半

回	テーマ	内容
第1回	導入	の講義の目的、テキストの概説と進めかた、報告の分担など
第2回	講義「政治・政策と市民」	都市型社会における〈政策・制度〉と市民の関係を学ぶ（第1章）
第3回	都市型社会の特性	都市型社会と政策の特性を学ぶ（第2章）
第4回	都市型社会の成立	政策の歴史と類型を学ぶ（第3章）
第5回	政策の資源：政策主体	都市型社会における政策主体の多様化を学ぶ（第6章）
第6回	政策の資源：政治技術と政策手法	政治技術と政策手法を学ぶ（第7章）
第7回	政策の資源：政府と資源の調達	政策の資源とその調達、政府の機能の転換を学ぶ（第8章）
第8回	政策型思考の特質	政策型思考の特質と論理を学ぶ（第9章）
第9回	政治思考の特質	政治思考と〈決断〉の特質を学ぶ（第10章）
第10回	政策過程：決定	政策決定を学ぶ（第12章）
第11回	政策過程：開発と管理	政策開発と管理を学ぶ（第13章）
第12回	政策過程：実施	政策実現の手法と手続きを学ぶ（第15章）
第13回	政策過程：評価	政策の効果、転換を学ぶ（第16章）
第14回	講義と総括	講義「都市型社会の政策過程とその理論」（第20章）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。テキスト、配布資料、参考資料の精読を期待する。また、日頃から時事問題にたいする関心と良質な情報の収集に勤しむことを期待する。

【テキスト（教科書）】

松下圭一『政策型思考と政治』東京大学出版会、1991年。

【参考書】

土山希美枝『高度成長期「都市政策」の政治過程』日本評論社、2007年。
石橋章市朗・佐野亘・土山希美枝・南島和久『公共政策学』ミネルヴァ書房、2018年。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加：議論への参加（25%）、コメント（25%）の様子、
授業の成果：授業内での報告（25%）、期末レポート（25%）の各評価により判断する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度が科目の初年度であるため、反映すべき意見を受け取っていない。

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉公共政策、地方自治、政治学

〈研究テーマ〉社会構造と政策・政治の変容、自治体政策、自治体議会論。

〈主要研究業績〉『高度成長期「都市政策」の政治過程』日本評論社、2007年。
『質問力で作る政策議会』公人の友社、2017年。

【Outline and objectives】

Policies (and their systems) are the "foundation of life" for people living in today's society (urban-type society).

We'll learn the structure and characteristics of urban-type society, and understand the policy process.

It will develop your perspective for your research from the perspective of policy studies.

POL500A3

政策学研究2

鄭 智允

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、政策過程理論を応用して個別行政分野の政策を考察する。まず、『政策形成の過程：民主主義の公共性』を用いて基本的な理論を確認する。次に事例研究を通じて政策過程についての理解を深める。例えば、市町村合併とその影響、災害と廃棄物処理などの事例から、各々のアクターが制度の中でどのように責任を負い対応していくのか。また、既存制度の中でアクターが外部もしくは内部の環境要因によって政策をどのように形成・漸進させていくのかを分析する。この過程を通じて政策過程に関する理解を高める。

【到達目標】

既存の政策形成過程の理法を理解し、個々の政策過程事例を考察する中で政策過程の視点・考え方など、政策過程に関する幅広い知識を習得することを旨とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

授業は対面で行う。まず政策過程の全対象について、事例を用いて復習する。その後、参加者の報告順を決め、報告およびそれについて質疑・討論の方法を進める。また、リアクションペーパーにおける質問事項等に対しては、次の授業で説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期後半

回	テーマ	内容
第 1.2 回	ガイダンス	授業の概要を説明し、講義の狙いとテーマを確認する。受講生各自の研究テーマ・関心分野を紹介する。
第 3.4 回	政策過程とその主体について	政策過程の理論を確認する。政策過程に参加する主体とその行動について各政策段階で検討する。
第 5.6 回	政策と官僚、そして規制	官僚はなぜ規制したがるのか、その原因について考える。
第 7.8 回	政策事例① 天災と人災	発災から 10 年目を迎える東日本大震災を事例として政策のあり方を考察する。
第 9.10 回	政策事例② 災害廃棄物	災害廃棄物の処理をめぐって、制度の構築と課題について考察する。
第 11.12 回	政策事例③ 合併と公共施設の再編	市町村合併がもたらしたことについて、公共施設の統廃合問題から考察。
第 13.14 回	政策事例④ 大都市制度と政策	大都市制度と政策のあり方について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

最初の授業で指示する。

【参考書】

C.E. リンドプロム、E.J. ウッドハウス著『政策形成の過程：民主主義と公共性』（東京大学出版会、2004 年）
ハーバート・カウフマン著『官僚はなぜ規制したがるのか』（勁草書房、2015 年）
松本三和夫『構造災』（岩波新書、2012 年）
その他、必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業における積極的議論参加（60%）、レポート（40%）を判断して、評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 行政学、地方自治、環境政策
<研究テーマ> 国策と地方自治
<主要研究業績>

「合併政令市の引力と遠心力」浜松市行政区再編住民投票で問われた行革と自治区意識」『自治総研』2020 年（第 499 号 pp.86 - 122）

「土砂災害危険区域と行政改革による行政の撤退戦略—浜松市北区引佐町鎮玉地域を事例に一」『年報中部の経済と社会』2019 年（pp.69 - 80）
「指定廃棄物処理における自治のテリトリー」『自治総研』2019 年（第 489 号 pp.45 - 82）
「『自区内処理の原則』と広域処理」『自治総研』2014 年（第 428 号 pp.29-46、第 429 号 pp.45-65、第 430 号 pp.35-53）
「災害廃棄物の処理をめぐって」『月刊自治研』2012 年（第 637 号 pp.56-65）
「『漂着ごみ』に見る古くて新しい公共の問題」小原・寄本編著『新しい公共と自治の現場』コモンズ 2011 年（pp.202-216）
「廃棄物問題から考える合併・参加・住民組織の論点」『環境自治体白書 2008 年版』環境自治体会議編 2008 年（pp.40-52）
『市民参加・合意形成手法事例とその検証』（共著）市民がつくる政策調査会 2005 年

【Outline and objectives】

In this lecture, we will consider policy in individual administrative fields by applying policy process theory. First, we confirm the basic theory by using "Policy-Making Process" (Charles E. Lindblom and Edward J. Woodhouse 2004). Next, we will deepen our understanding of policy processes through case studies. We analyze what kind of responsibility is taken care of in the system and how the main actor forms and progresses policies by external or internal environmental factors in existing system. This process enhances understanding of policy processes.

POL500A3

連帯社会とサードセクター

中村圭介、柏木宏、伊丹 謙太郎

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では連帯社会とは何か、それを担うサードセクター（労働組合、協同組合、NPO、社会的企業など）の役割は何かを学ぶ。

【到達目標】

連帯社会は、これまでの社会とはどこが違うのか、また連帯社会の構築と存続を担う主体であるサードセクターはどのような役割を果たし、どう協力しあうのかを理論的、実践的に学ぶことを目標とする。この授業を履修することによって、本インスティテュートの学生にふさわしい姿勢、知識を獲得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

授業は講師（専任、非常勤）および実践家による講義を行ったうえで、討論を行うという形で進める。

授業形式については、一応、Zoom によるオンライン授業を予定している。Zoom の ID・パスワード等については、初回授業までに学習支援 システム（Hoppii）に掲載する。

最終授業では、これまでの授業を踏まえて、連帯社会の構築、存続のために何が必要かについて、学生が各自報告する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	連帯社会とサードセクター	専任教員による問題提起
第 2 回	連帯社会の研究テーマ	院生の自己紹介と問題意識の交流
第 3 回	サードセクター論	サードセクターのプラットフォーム（外部講師による講義）
第 4 回	労働組合活動（1）（2）	労働組合の活動（実践家による講義）
第 5 回	協同組合活動（1）（2）	生活協同組合の活動（実践家による講義）
第 6 回	NPO 活動（1）（2）	NPO の活動（実践家による講義）
第 7 回	フィールドスタディ	NPO を訪問し、NPO 活動の実践を学ぶ。
第 8 回	労働組合活動（3）（4）	労働組合の活動（実践家による講義）
第 9 回	協同組合活動（3）（4）	全労済、労働金庫の活動（実践家による講義）
第 10 回	NPO 活動（3）（4）	NPO の活動（実践家による講義）
第 11 回	労働組合活動（5）（6）	労働組合の活動（実践家による講義）
第 12 回	協同組合活動（5）（6）	医療生協、労協の活動（実践家による講義）
第 13 回	NPO 活動（5）（6）	NPO の活動（実践家による講義）
第 14 回	総括	これまでの授業を踏まえて、連帯社会の構築、存続のために何が必要かを各自が報告する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。「リポート」（最終報告書）の作成は 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

特に指定しない。

随時、授業中に関連文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点が 60 %、授業への貢献が 20 %、最終報告 20 %。なお、平常点は、予習をしたうえで授業に出席しているかどうかで測り、授業への貢献は討議への積極的な参加で測る。最終報告は、提出されたレポートとその発表内容で判断する。

【学生の意見等からの気づき】

連帯社会、サードセクターの理論的枠組みを考察するとともに各分野における実践例を提示する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

非常勤講師、実践家に報告をしてもらうために、上記の授業計画を変更することがある。

【担当教員の専門分野等】**中村圭介**

＜専門領域＞労使関係論、人事管理論

＜研究テーマ＞労働組合、労使関係、人事管理、共助と連帯

＜主要研究業績＞

・『壁を壊す－非正規を仲間に 新装版』教育文化協会、2018 年

・『地方連合会・地域協議会の組織と活動に関する調査研究報告書』連合総合生活開発研究所、2018 年

伊丹謙太郎

＜専攻＞

協同組合論、公共哲学

＜研究テーマ＞

協同組合思想、協同組合運動史、デジタル経済と協同主義、

非営利組織連携論、賀川豊彦研究

＜主要業績＞

『協同組合 未来への選択』（共著）日本経済評論社、2014

柏木宏

＜専門領域＞NPO 論、地域社会論、市民社会ガバナンス論

＜研究テーマ＞社会的企業、社会的協働、NPO プラットフォーム

＜主要研究業績＞

・『創造都市経済と都市地域再生』（共著）大阪公立大学共同出版会、2011 年

・『みんなで考える広域複合災害』（共著）大阪公立大学共同出版会、2013 年

【Outline and objectives】

In this course students learn the concept of solidarity-based society and roles of third sector actors such as trade unions, co-operatives, NPOs and social enterprises.

POL500A3

立法学研究 1

神崎 一郎

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業概要】

我が国の法学は、もっぱら法解釈を中心に発展してきた。昭和 21 年に、既に末弘謙太郎博士は、法令立案の作業がもっぱら関係官僚の職業的な熟練によって行われているのみであって、立法者としての優れた能力とはいかなるものであり、その能力をどのようにして養成すればよいかといった問題についての科学的な考究が全くなされていないことを指摘している。以降、様々な研究成果が蓄積されてきているが、本講義は、それらを踏まえ、「立法学」を体系化する作業を試みるものである。「立法」を政治評論的に見るにとどまるのではなく、法的視点も含めて検討していきたい。

【授業目的】

我が国の国家作用を基礎付ける法律について、企画・制定から運用にいたるまでについて、立体的な知識を得るとともに思考の訓練をする。

【到達目標】

- 我が国の立法について、企画立案段階から制定施行段階までの正確な知識を得る。
- 法令の構造や政策目的達成手段に関する知識を得、簡単な制度設計・条文化作成を行うことができるようになる。
- なお、立法学や政策法務論の現状として、政治的分析や組織論的なものにとどまるものが多く見られる。本講義では、法律による行政の原則にのっとり、すべての立法面、行政面における事象には条文の根拠があるという発想に立ち、逐一、条文の根拠に立ち戻って考察していきたいと考えている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

①本講義においては、立法過程の諸段階の分析にとどまらず、立法作業の際に依拠すべき「立法事実」、規制立法を設計する上での行政手法の選択、実際の立法作業の現場における思考などにも立ち入りたい。

②授業は、講義を中心とするが、必要に応じて、参加者の調査と発表、ディスカッションを組み合わせて行う。

③本講義の最大の特徴は、最後の 2 回に行う立法演習である。講義において会得した発想法、ツールを用いて、与えられた課題に対し、合理的な法制度設計を行い、自分が設計した法制度について報告し、討議を行う。これに対する講評が学生へのフィードバックの位置付けになる。

※本講義は、原則として対面で実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期前半

回	テーマ	内容
1-2	立法学総論～立法学とは	1. 序論～立法学とは 2. 現代立法の状況と特質～我が国の法体系、法令の数、戦後日本の立法動向など
3-4	立法過程論①～国会提出前の企画立案段階	1. 内閣による法案提出プロセス 2. 政党内の意思決定システム 3. 議員立法のプロセスの特徴 4. 民主党政権下における立法過程の変容～ウエストミンスター・モデルとの比較
5-6	立法過程論②～国会審議段階	1. 国会審議過程の現状と課題 2. 内閣提出法案・議員提出法案それぞれの役割と課題 3. ねじれ国会下における立法傾向 4. ねじれ国会を経験して、ねじれ解消後に何が起きたか
7-10	法律とは何か～法律の一般性と抽象性	1. 「法律」とは何か 2. 現実の法律の傾向～個別特例法の増加など 3. 「法律事項」とは何か
11-12	政策目的の設定と目的達成手段の選択	立法を行う上で重要となる政策目的の設定と目的達成手段の選択について検討する。
13-14	立法演習	提示した事例について制度設計を行う（演習形式）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前配付資料又は文献を読むこと。

【テキスト（教科書）】

講義録を配付する予定である。

【参考書】

大森政輔・鎌田薫編『立法学講義（補遺）』商事法務（2011 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 % ・ 立法演習 40 % ・ 報告 30 %。

立法演習は、演習に参加した上で、自分の成果物の発表・他の学生との議論を評価する。自らの設計した法制度の合理性をいかに説得力をもって発表できるか、自らの成果物を踏まえて他の学生の成果物に対する批判や評価を合理的に行うことができるかが評価のポイントである（「授業の到達目標」の 2 点目）。本講義の成績評価に当たり、立法演習への参加は必須である。

なお、随時、指定した課題について事前に検討し、講義において報告する機会を設ける（「授業の到達目標」の 3 点目）。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【その他の重要事項】

コンパクトなものでよいので六法を持参することが望ましい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>立法学

<研究テーマ>立法過程論・自治体政策法務論・条例論

<主要研究業績>

- 「法律と条例の関係における『比例原則』『合理性の基準』『立法事実』」（自治研究 2009 年 8 月・第一法規）
- 「『政策法務』試論～自治体と国のパララックス (1)(2)」（自治研究 2009 年 2 月・3 月・第一法規）
- 「地方議会の立法機関性―議会による立法事実の構築・審査の視点から」北村喜宣ほか編集『鈴木庸夫先生古稀記念・自治体政策法務の理論と課題別実践』第一法規（2017 年）
- 「基本法と基本条例」自治実務セミナー 2018 年 3 月号

【Outline and objectives】

In this class, we will study lawmaking process. In last 2 lectures, sutudents will draft articles as the climax of the class.

POL500A3

自治体研究 1

土山 希美枝

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政策は、こんにちの社会（都市型社会）で生きるひとびとの「いとなみの基盤」である。

都市型社会の構造と特質を知り、こんにちにいたるまで歴史的にどのような政策類型が蓄積されてきたかを理解し、政策主体と〈政策・制度〉のありかたを理解する。そのうえで、政策過程がどのように進むのかを学ぶ。

この講義を通じて、各自の研究対象とする政策分野を政策学からとらえるための視角を養うこととなる。

【到達目標】

この講義の到達目標は以下である。

- ・公共政策が展開される前提であるこんにちの社会構造（都市型社会）の特質を理解する
- ・歴史的に形成されてきた政策類型をふまえる
- ・公共政策の過程の基礎を学び
- ・各自の研究対象とする政策分野をとらえる政策学の視角を得る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

テキストの読解と議論、考察により進行する。受講生はテキストの指定された章について分担して要点と論点をまとめ、教員が解説しながら議論と考察をすすめる。必要に応じて補足資料が提供される。報告、議論とそれらへのコメントによりフィードバックする。なお、原則として対面講義とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期後半

回	テーマ	内容
第1回	導入	の講義の目的、テキストの概説と進めかた、報告の分担など
第2回	講義「政治・政策と市民」	都市型社会における〈政策・制度〉と市民の関係を学ぶ（第1章）
第3回	都市型社会の特性	都市型社会と政策の特性を学ぶ（第2章）
第4回	都市型社会の成立	政策の歴史と類型を学ぶ（第3章）
第5回	政策の資源：政策主体	都市型社会における政策主体の多様化を学ぶ（第6章）
第6回	政策の資源：政治技術と政策手法	政治技術と政策手法を学ぶ（第7章）
第7回	政策の資源：政府と資源の調達	政策の資源とその調達、政府の機能の転換を学ぶ（第8章）
第8回	政策型思考の特質	政策型思考の特質と論理を学ぶ（第9章）
第9回	政治思考の特質	政治思考と〈決断〉の特質を学ぶ（第10章）
第10回	政策過程：決定	政策決定を学ぶ（第12章）
第11回	政策過程：開発と管理	政策開発と管理を学ぶ（第13章）
第12回	政策過程：実施	政策実現の手法と手続きを学ぶ（第15章）
第13回	政策過程：評価	政策の効果、転換を学ぶ（第16章）
第14回	講義と総括	講義「都市型社会の政策過程とその理論」（第20章）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。テキスト、配布資料、参考資料の精読を期待する。また、日頃から時事問題にたいする関心と良質な情報の収集に勤しむことを期待する。

【テキスト（教科書）】

松下圭一『政策型思考と政治』東京大学出版会、1991年。

【参考書】

土山希美枝『高度成長期「都市政策」の政治過程』日本評論社、2007年。
石橋章市朗・佐野亘・土山希美枝・南島和久『公共政策学』ミネルヴァ書房、2018年。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加：議論への参加（25%）、コメント（25%）の様子、
授業の成果：授業内での報告（25%）、期末レポート（25%）の各評価により判断する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度が科目の初年度であるため、反映すべき意見を受け取っていない。

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉 公共政策、地方自治、政治学

〈研究テーマ〉 社会構造と政策・政治の変容、自治体政策、自治体議会論。

〈主要研究業績〉『高度成長期「都市政策」の政治過程』日本評論社、2007年。
『質問力をつくる政策議会』公人の友社、2017年。

【Outline and objectives】

Policies (and their systems) are the "foundation of life" for people living in today's society (urban-type society).

We'll learn the structure and characteristics of urban-type society, and understand the policy process.

It will develop your perspective for your research from the perspective of policy studies.

POL500A3

公務員制度研究

合田 秀樹

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の公務員制度について、国家公務員制度を中心に、国際比較（英米独仏）の中で、その制度及び実態について考察する。

【到達目標】

日本の公務員制度について、国際比較の中で、その制度がどのようなものかという理解を得る。また、実際の運用がどうなっているかについて理解を深める。さらに、今後のあるべき姿について提言を考える能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

対面で行う。日本の公務員制度について、総論の後に、いくつかの主要分野について、現行の制度を解説するとともに、運用についても紹介する。学生の理解を踏まえて、それらの制度及び運用が、どのような目的、要因によって行われているかを考える。参照軸として、主要諸外国の例との比較を行う。近年進められている公務員制度改革についても考察を行う。各回の授業の前半では教員がその回取り上げる分野について解説し、後半ではその分野の中で学生が取り上げたい個別テーマについて学生及び教員による討議を行う。授業の中で学生から提起された質問や論点に対しては、授業の中で教員から説明するとともに、学生が更なる研究を進めるために役立つ助言を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期後半

回	テーマ	内容
1.2	公務員制度の総論及び歴史	日本の公務員制度の全体像を示すとともに、第2次世界大戦後の国家公務員法の成立過程を見る。
3.4	採用と昇進	国家公務員の採用、昇進について考える。2009年度から実施の新人事評価制度も取り上げる。
5.6	給与	国家公務員の給与の決定過程について考える。
7.8	サービスと倫理、研修	国家公務員に課せられているサービス規定や、公務員倫理の問題について考える。あわせて、研修による人材育成について考える。
9.10	身分保障と公平審査	国家公務員の身分保障について考えるとともに、救済制度としての公平審査について考える。派遣・出向も扱う。
11.12	退職管理、天下り	国家公務員の退職管理の問題について考えるとともに、天下り問題について考える。
13.14	公務員制度改革	公務員制度改革のこれまでの展開について検証し、今後の改革について検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。

【参考書】

村松岐夫編著「公務員人事改革—最新米・英・独・仏の動向を踏まえて—」（2018学陽書房）
 村松岐夫編著「最新公務員制度改革」（2012学陽書房）
 西尾勝著「行政学 [新版]」（2001有斐閣）
 森園幸男ほか編「逐条国家公務員法全訂版」（2015学陽書房）
 人事院HP <https://www.jinji.go.jp/top.html>
 内閣官房内閣人事局HP
<http://www.cas.go.jp/jp/gaiyou/jimu/jinjiyoku/>
 内閣官房（旧）国家公務員制度改革推進本部HP <http://www.gyoukaku.go.jp/koumuin/>

【成績評価の方法と基準】

平常点50%（毎回の授業において、その回における課題を理解して自らの理解の上で議論に貢献しているか）

小論文（レポート）50%（自ら選択する課題について考察を行った小論文）

【学生の意見等からの気づき】

学生自らが問題点を発見し考察を深めることができるようにしています。

【その他の重要事項】

中央人事行政機関である人事院に30年以上在職し、国家公務員の人事行政の制度及び運用を実際に担当している。さらに、国際連合日本政府代表部において国際機関職員の人事にも関わった。これらの経験を踏まえて、日本の国家公務員の人事管理の制度及び運用がどのように行われているかを、国際比較の観点も踏まえながら、学生に紹介し、議論を行っていく。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 公務員制度

<研究テーマ> 国際比較の中の我が国公務員制度

<主要研究業績>

「有為で多様な人材の育成・確保」2014年度日本行政学会研究会報告（「有為で多様な人材の確保・育成」日本行政学会編「年報行政研究 50 行政の専門性と人材育成」（2015年、ぎょうせい）所収）

「公務員に求められる資質・能力」2008年度日本行政学会研究会報告

村松岐夫編著「公務員人事改革」（2018年、学陽書房）

森園幸男ほか編「逐条国家公務員法全訂版」（2015年、学陽書房）（共著）

【Outline and objectives】

This class studies the Japanese civil service system, especially national one, in international comparison – compared with that of the U.K., U.S.A., Germany and France. In this class, not only the system but also its actual implementation will be analysed.

POL500A3

雇用・労働政策研究

濱口 桂一郎

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公労使三者構成の審議会において労使団体と政府（厚生労働省）の間で行われる対立と妥協のメカニズムを中心に、その延長戦としての国会における審議や修正も含め、具体的な労働立法の政策決定過程を跡づける形で、労働法制の内容を説明する。いわば、完成品としての労働法ではなく、製造過程に着目した労働法の講義である。

【到達目標】

現代日本におけるさまざまな雇用労働問題を、表層的なマスコミ報道等に踊らされることなく、雇用システムと労働法制の複雑な関係を踏まえて理解し、説明できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

この授業は原則として対面授業を予定している。
各コマとも、前半は下記テキスト（『日本の労働法政策』）に沿って概略の説明を行い、後半はそれに基づきフリーディスカッションとする。
あらかじめテキストを読んできたことを前提に、毎回のトピックについて各自の職業経験に基づく意見を尋ねることがあるので、各自用意しておくことが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期前半

回	テーマ	内容
第 1.2 回	イントロダクション、労働力需給調整システム、労働市場のセーフティネット	全体の概観、労働者派遣事業と職業紹介事業、雇用保険、生活保護、求職者支援制など
第 3.4 回	雇用政策の諸相、高齢者・障害者の雇用就業政策	雇用政策思想、外国人雇用対策、高齢者、障害者など
第 5.6 回	職業教育訓練政策、労働基準監督システム、労災保険、労働安全衛生政策	職業訓練、職業教育、若年者、過労死・過労自殺、過重労働・メンタルヘルス・受動喫煙など
第 7.8 回	労働時間政策、賃金処遇政策	時間外・休日労働、年休、裁量労働制、最低賃金など
第 9.10 回	賃金処遇政策、労働契約政策	非正規均等待遇、解雇規制、有期契約、労働条件変更、フリーランスなど
第 11.12 回	男女平等政策、ワークライフバランス、ハラスメント	男女平等、育児・介護休業、セクハラ・パワハラなど
第 13.14 回	集团的労使関係システム	労働組合、労使協議制、個別労使紛争など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『日本の労働法政策』労働政策研究・研修機構（2018 年）

なお、刊行から若干時間が経っているため、アップデートした PDF ファイルを受講者に配布する予定。

【参考書】

濱口桂一郎『新しい労働社会』岩波新書（2009 年）

濱口桂一郎『日本の雇用と労働法』日経文庫（2011 年）

濱口桂一郎『若者と労働』中公新書ラクレ（2013 年）

濱口桂一郎『日本の雇用と中高年』ちくま新書（2014 年）

濱口桂一郎『働く女子の運命』文春新書（2015 年）

濱口桂一郎・海老原嗣生『働き方改革の世界史』ちくま新書（2020 年）

なお、関連する論文等が講師ホームページにアップされているので、適宜読むこと。

<http://hamachan.on.coocan.jp/>

【成績評価の方法と基準】

参加人数にもよるが、今のところレポート作成を予定している。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【担当教員の専門分野等】

< 専門領域 >

労働法政策

< 研究テーマ >

日本と EU の労働法政策、日本の個別労働紛争の分析

< 主要研究業績 >

『EU の労働法政策』、『日本の労働法政策』、『日本の雇用終了』、『日本の雇用紛争』、『団結と参加』（いずれも労働政策研究・研修機構）

【Outline and objectives】

Explain the contents of labor legislation in such a way as to trace the decision making process. It is not a lecture on labor law as a finished product, but one on labor law focusing on the manufacturing process.

POL500A3

政策法務論

神崎 一郎

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業概要】

第一次分権改革以降、自治体の法務担当者を中心に、「政策法務」ということが唱えられている。しかしながら、国の中央官庁の法務担当者の中で「政策法務」という言葉は一般的ではない。この差に着目し、自治体政策法務について解き明かしつつ、自治体法務が直面する問題点等を検討する。

【授業目的】

現在の自治体法務が直面している問題点を検討するとともに、条例論を学ぶ。

【到達目標】

- ・自治体政策法務のイメージをつかむ。
- ・条例案立案のポイントをつかむ。
- ・条例に関する基礎的な知識を得、簡単な制度設計・条文作成を行うことができるようになる。
- ・なお、立法学や政策法務論の現状として、政治的分析や組織論的なものにとどまるものが多く見られる。本講義では、法律による行政の原則にのっとり、すべての立法面、行政面における事象には条文の根拠があるという発想に立ち、逐一、条文の根拠に立ち戻って考察していきたいと考えている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

- ①本講義においては、自治体法務を全般的に取り扱うが、中心は条例論となる。
 - ②授業は、講義を中心とするが、立法演習の回については、参加者をいくつかのグループに分け、グループ内で議論しつつ、与えられた条件において、与えられた政策目的を達成するための行政規制システムを設計し、発表・議論を行う。
 - ③本講義の最後の2回を立法演習（条例演習）に当てる。立法演習が、講義内容の総まとめとなる。立法演習において、提示した事例を解決するための制度設計をしてもらい、各学生が報告する。報告に対する講評が学生へのフィードバックとなる。
- ※講義は、原則として対面で実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期後半

回	テーマ	内容
1-2	政策法務論総論	1. はじめに～「政策法務」とは？ 2. 自治体法務の歴史～戦前から戦後の連続性、第一次分権改革前の自治体法務の実情、自治体の立法技術の課題など
3-4	憲法第八章（地方自治）をめぐる日本政府とGHQの攻防	1. GHQ 民政局内における条文の変遷とその意味するところ～ホームルール制とチャーター 2. 日本側草案の起草～民政局案との対比 3. チャーター制定権の変貌
5-6	基本法・基本条例について～特に、自治基本条例を中心に	1. 基本法・基本条例の法規範的性格の稀薄性 2. 法体系上の位置づけ 3. 自治基本条例の意義 4. 民主的契機としての住民投票 5. 議会基本条例の意義
7-8	条例論	1. 条例の定義 2. 条例の類型 3. 法律と条例の関係～徳島市公安条例事件最高裁判決の基準とそのあてはめ
9-10	立法事実と比例原則	1. 分権改革前の判例 2. 比例原則 3. 分権改革後の判例 4. 違憲審査基準論と合理性の基準 5. 合理性を基礎づけるものとしての立法事実
11-12	政策目的の設定と目的達成手段の選択	政策法務にとって重要な「政策目的の設定」と「目的達成手段の選択」について検討する。
13-14	条例案立法演習	提示した事例について制度設計・条文作成まで行う（演習形式）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前配付資料又は文献を読むこと。

【テキスト（教科書）】

講義録を配付する予定である。

【参考書】

大森政輔・鎌田薫編『立法学講義（補遺） 商事法務（2011年）』
神崎一郎『「政策法務」試験～自治体と国のパララックス（1）（2）』（自治研究 2009年2月・3月・第一法規）
「地方議会の立法機関性—議会による立法事実の構築・審査の視点から」北村喜宣ほか編集『鈴木庸夫先生古稀記念・自治体政策法務の理論と課題別実践』第一法規（2017年）

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%・立法演習 40%・報告 30%。

立法演習は、演習に参加した上で、自分の成果物の発表・他の学生との議論を評価する。自らの設計した法制度の合理性をいかに説得力をもって発表できるか、自らの成果物を踏まえて他の学生の成果物に対する批判や評価を合理的に行うことができるかが評価のポイントである（「授業の到達目標」の2点目）。本講義の成績評価に当たり、立法演習への参加は必須である。なお、随時、指定した課題について事前に検討し、講義において報告する機会を設ける（「授業の到達目標」の3点目）。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【その他の重要事項】

コンパクトなものでよいので六法を持参することが望ましい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>立法学

<研究テーマ>立法過程論・自治体政策法務論・条例論

<主要研究業績>

- ①「法律と条例の関係における『比例原則』『合理性の基準』『立法事実』（自治研究 2009年8月・第一法規）
- ②『「政策法務」試験～自治体と国のパララックス（1）（2）』（自治研究 2009年2月・3月・第一法規）
- ③「地方議会の立法機関性—議会による立法事実の構築・審査の視点から」北村喜宣ほか編集『鈴木庸夫先生古稀記念・自治体政策法務の理論と課題別実践』第一法規（2017年）
- ④「基本法と基本条例」自治実務セミナー 2018年3月号

【Outline and objectives】

As the transfer of central government authorities to local governments progresses, local governments will wield more administrative power. To decentralize administrative powers, it is vital that municipal governments merge to improve their legal capabilities. In this class, we will study how to develop legal ability of local authorities.

POL500A3

防災危機管理研究

鍵屋 一

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

東日本大震災の発生以後、国土強靱化など防災対策の重要性が叫ばれている。そして、災害には大地震、風水害、火山など自然災害、原子力災害など大規模な事故、テロなど人為的災害など多様に存在する。現代は危機の時代であり、防災危機管理は、市民、行政、団体、企業にとって避けて通れないテーマとなっている。本授業は、大学院生が防災危機管理に強い人材になるよう支援する。

【到達目標】

- ①日本の国・自治体の防災危機管理の現状と課題を理解する。
- ②現状の政策と被害軽減の具体例を研究する。
- ③今後の国・自治体の防災危機管理政策のあるべき姿を研究する。
- ④大学院生自身の危機対応力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

授業形式☑️対面授業

授業では、自然災害を中心に防災対策の現状と課題を理解し、現実的な解決政策を研究する。その際、わが国の防災文化、法制度、行政構造、市民意識を念頭において政策的アプローチを重視した講義を行う。

また、ワークショップ形式も併用し、自らの頭で考え、仲間や講師と議論することで、より深い理解につながるように努めていく。

授業の最後には、学生からの質問、コメントを求め、その場でフィードバックを行う。また、授業後であってもメール等による質問も受け付けてフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

春学期前半

回	テーマ	内容
1	ガイダンス及び国・自治体の防災危機管理政策の概観	講師の自己紹介、防災危機管理の講義の狙い、概要の説明。PPTおよび中央防災会議資料を使用して国、自治体の防災危機管理政策の全体像を説明する。
2	大災害時の市民、行政の活動	阪神淡路大震災時の対応をした行政職員の生々しい記録を読む。その後、グループワークでKJ法を使用しながら大災害の市民、行政の行動の実態を理解し、課題を抽出する。
3	地震防災と耐震化	地震防災の最重要課題である耐震化の政策の変遷について解説する。現在の、専門家や地域の取り組みを紹介しながら、今後の推進方策を検討する。
4	災害時要配慮者支援	高齢者や障害者は、災害時には特別な支援が必要である。事前にどのような準備が必要かを説明し、それが日常生活の延長上にあり、また地域コミュニティの絆を高めた事例を検討する。

- | | | |
|---|------------------|---|
| 5 | 防災教育、ボランティア | 東日本大震災では、防災教育に取り組んだ岩手県沿岸地域の子ども生存率が極めて高かった。防災教育の内容と効果を考える。また被災地においてボランティアの存在感が高まっている。ボランティアがどのように進化したかを議論する。 |
| 6 | 地域防災計画、防災条例、政策評価 | 東日本大震災を受けて地域防災計画の見直しが進んでいる。その具体例を検討する。また防災条例の制定過程とその効果について議論する。防災の政策評価のあり方と活用について検討する。 |
| 7 | 企業の事業継続（BCP） | 企業は災害時に災害対応するだけでなく、自らの事業を継続していかなければならない。その計画がBCPであり、その内容と効果について検討する。 |
| 8 | 行政のBCPと地域継続計画 | 行政も災害対応だけでなく通常の業務もBCPで継続する必要がある。さらに、行政の業務だけでなく地域全体が持続可能な計画を作成する可能性について検討する。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

防災政策は生きているものであり、最新の状況を把握することが重要である。内閣府「防災情報のページ」「防災白書」を事前に見ておいていただきたい。

また、ボランティアなどの活動体験があれば望ましい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。授業では、PPTや論文を使用するが、その資料を毎回配付する。

【参考書】

鍵屋一「地域防災力強化宣言」ぎょうせい・2005年

鍵屋一「よくわかる自治体の地域防災・危機管理」学陽書房・2019年令和2年「防災白書」

【成績評価の方法と基準】

質疑への参加 70%（講義中の質疑、意見表明などを積極的に行ったものを高く評価する）

リアクションペーパー等 30%

【学生の意見等からの気づき】

実務体験が評価されているので、今後もリアリティある講義を行いたい。また、学生と積極的に議論していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

地域防災、危機管理

<研究テーマ>

防災危機管理政策、建築物の耐震化、災害時要援護者支援、防災教育、人材育成、事業継続（BCP）

<主要研究業績>

・『都市災害を生き残る』『現代用語の基礎知識 2009』2008年、自由国民社

・『ひな型でつくる福祉防災計画』（共著）2020年、東京都福祉保健財団

・『地域防災力強化宣言』2005年、ぎょうせい

【Outline and objectives】

The modern age is an age of crisis, and disaster risk management has become an unavoidable theme for citizens, governments, organizations, and businesses. This class will help graduate students to become strong in disaster prevention and crisis management.

POL500A3

自治体福祉政策論

鏡 論

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在社会保障給付費は100兆円を超えている。国の予算においては、社会保障関係費として一般会計の4割近くを支弁している。自治体において、介護保険制度や高齢者福祉制度の運営が課題となっている。高齢者の生活を支える自治体政策を通して、これからの更なる高齢社会に向かう人々の暮らしに、どのような給付と負担の関係を構築する必要があるのかを考える。

今日の社会保障制度改革においては、給付の縮減を是とした改正が続いているが、安心できる暮らしを維持していく事が可能かを議論する。財源負担の在り方や世代間の給付と負担のバランス等を学ぶ。

【到達目標】

2000年に制度化された介護保険は、今や10兆円を超える規模の給付となり、この後もさらに拡大を続けようとしている。この介護保険制度を中心とした社会保障における給付と負担の形について研究をして、政策の在り方を議論する。

キーワードは次の通り。

- ・介護保険制度の課題と市町村対応
 - ・地域包括ケアの課題
 - ・介護予防日常生活支援事業の可能性
 - ・介護と医療の連携の課題
 - ・判断能力を欠く状況になった場合の意思決定
 - ・成年後見制度の効果と課題
- 上記それぞれの項目について理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

本授業は対面授業で、実施する。しかし、社会情勢により、対面授業が難しい場合は、ブレンド型授業を実施し、通学が困難な状況にも対応する、また、次の各項目等について講義と院生の発表により研究する。

授業における質問やレポートにかかる解説は、質問等があった次の回の授業で対応する。

さらに、映像資料を用いた分かり易い説明を行う。

各項目については、以下の通り。

- ・日本の将来予測から社会保障のあり方について
- ・介護保険制度創設と自治体高齢者福祉行政の変化の理解
- ・措置制度から契約への変化が意味するものの理解
- ・2006年・2012年・2015年・2018年制度改正の課題
- ・介護予防と地域支援事業の課題把握
- ・在宅医療と地域包括ケアの機能と役割の理解
- ・一人暮らし高齢者・認知症高齢者支援乃実態把握
- ・意思能力のない人の医療同意についての問題提起

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期前半

回	テーマ	内容
第 1.2 回	オリエンテーション&高齢者をとりまく諸情報の整理と社会保障・自治体福祉政策	(1) 社会変化と社会保障 (2) 自治体福祉政策の必然性 (3) 2020年介護保険改正後の議論
第 3.4 回	介護保険制度 (1) ☆介護保険制度の理念と課題 (介護保険によって自治体福祉政策がどのように変わったか)	発表 A (1) 措置から契約へ (2) 介護の社会化 (3) サービスの質の担保と効率（民間サービスの参入と課題・ケアマネジメントの課題） (4) 介護保険事業計画・高齢者保健福祉計画の策定 (5) 給付と負担・保険料決定の仕組み
第 5.6 回	介護保険制度 (2) ☆介護保険改正のめざしたものの (介護保険における給付と負担)	発表 B (1) 介護保険と地方分権（三位一体改革の影響） (2) 介護予防・日常生活支援総合事業とは何か（地域支援事業創設） (3) 崩れた給付と負担のバランス (4) 自立支援介護とは何か

第 7.8 回 介護保険制度 (3)
☆地域包括支援センターと介護予防の政策的効果

発表 C
(1) 地域包括支援センターの創設
(2) 地域包括ケアとは何か
(3) 介護予防・日常生活支援総合事業の課題
(4) 医療との連携の形
(5) 地域の見守りネットワーク

第 9.10 回 介護保険制度 (4)
☆介護サービス事業の現状と課題
(介護保険外の高齢者ケアの課題は何か・地域ネットワークについて)

発表 D
(1) 高齢者虐待・介護放棄
(2) 独居の認知症高齢者
(3) 生活支援の難しさ
(4) 精神疾患者の支援

第 11.12 回 介護保険制度 (5)
☆施設サービスと地域密着サービス
(在宅と施設高齢者サービスの選択)

発表 E
(1) 高齢者福祉施設の種類と目的
(2) 特養を利用する人とは
(3) ユニット個室化の課題
(4) 地域密着サービスとは
(5) 住んでみたい施設づくり

第 13.14 回 高齢者ケア
☆判断能力を欠く状況における権利擁護
(介護保険外の高齢者ケアの課題と地域ネットワークについて)

発表 F
(1) 成年後見制度の概要
(2) 成年後見制度利用支援事業・生活支援事業（旧地域福祉権利擁護制度）
(3) 市民後見制度の課題
(4) 任意後見制度と法人後見
(5) 判断能力を欠く者の医療侵襲行為の阻却事例

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

内容としては、テキストを読み問題をまとめる。

事後学習は、授業の内容から質問をまとめ、次の授業時に質問をする。

【テキスト（教科書）】

教科書は、「介護保険制度の強さと脆さ」、鏡論編著、公人の友社刊、2017年4月発行、定価2600円＋税を使用する。

さらに適宜参照資料としてプリント配布する。

【参考書】

「総介護社会」岩波新書刊 小竹雅子著

「総括・介護保険の10年～2012年改正の論点～」公人の友社刊 鏡論編著

「自治体現場から見た介護保険」公人の友社刊 鏡論著

【成績評価の方法と基準】

授業での発表及びディスカッションによる総合評価とする。課題発表については、70%以上の配点とする。その他は講義中の発言及び質問、さらにディスカッション等を30%の評価対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートによる要望に沿うように対応する。また、初回のオリエンテーションの際に、院生からの要望について意見を徴収する。

【学生が準備すべき機器他】

適宜映像資料を活用する。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは、授業終了後実施する。

自治体福祉行政に身を置き、介護保険制度の創設及び運営にかかわった実務経験を生かして、現場での知見を基に院生に情報提供していく。

【担当教員の専門分野】

自治体福祉政策、介護保険制度、地方自治

【Outline and objectives】

We discuss and understand issues and responses based on actual issues in local government sites on the issues of care insurance system and the elderly care of local governments.

The social welfare policy in the municipality begins with the history that the benefit is provided to the poor and the anti-poverty as the agency delegation clerical work and measures are limited to the target person. However, it became a system to support the life of the elderly, etc. by the universal social insurance system today. Moreover, the subject is a municipality. The policy that the elderly can live with peace of mind is about the balance of benefits and burdens between generations. In local Government policy "Benefits and Burdens" discuss the relationship between.

POL500A3

自治体議会論

鍵屋 一

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自治体議会の歴史、意義を学び、議会の課題、国内外における先進事例を調査研究することにより、二元代表機関としての議会・議員のあり方について理解を深める。これにより、執行機関との緊張関係の下で住民福祉の向上を図る議会・議員となることを目指す。

【到達目標】

研究活動の基本となる議会の意義、歴史、先進事例を調査研究し、学生間、講師とともに討議を行いそれぞれの問題意識に合わせて課題を深掘りしていく。これにより、現実の自治体議会の抱える課題と今後の議会改革方策を浮き彫りにする。学生の洞察力を深め、討議による集合知を紡ぎ出す。学生が積極的に討議に参加し、自らと他者の理解を深める主体となっているかを評価する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

授業形式☑️対面授業。主として松下圭一「政策型思考と政治」の議会関係部分を講師が解説し、重要部分について討議、集合知の紡ぎ出しを行う。また、現実の自治体議会のニュース、トピックスを積極的に取り上げ、解説、討議を行うことで学生の洞察力を高める。授業の最後には、学生からの質問、コメントを求め、その場でフィードバックを行う。また、授業後にメール等による質問も受け付けてフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期後半

回	テーマ	内容
第 1.2 回	議会の成立、歴史、意義と歴史	議会の成立過程、歴史、意義を学ぶ
第 3.4 回	各国の議会	わが国、および各国の議会の歴史、意義を学ぶ
第 5.6 回	各国の自治体議会の歴史	わが国、および各国の自治体議会の歴史、意義を学ぶ
第 7.8 回	各国の自治体議会の課題	わが国、および各国の自治体議会の現状と課題を学ぶ
第 9.10 回	自治体議会のあり方について	現実の自治体議会の課題、今後の方向性を学ぶ
第 11.12 回	自治体議会改革について	自治体改革の歴史と概要を学ぶ
第 13.14 回	災害時の自治体議会・議員について	災害時の自治体議会・議員のあるべき行動規範について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生の住む自治体議会のホームページ、直近の議事録を読む。直近の自治体改革の動向を示す書籍、ホームページ等を調査しておく。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

政策型思考と政治、松下圭一、東京大学出版会、1991 年、4,644 円
なお、講師が必要な部分を資料として提供するので、購入する必要はない。

【参考書】

江藤俊昭「自治体議会学 議会改革の実践手法」等
自治体議会改革フォーラムホームページ、www.gikai-kaikaku.net

【成績評価の方法と基準】

討議への参加など平常点 70 %

振り返りシート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

学生からは、講義内容が濃密であるとの意見があった。理解が難しいと思われる部分については、質疑を促すとともに丁寧に解説していきたい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>自治体、防災

<研究テーマ>自治体議会・議員の災害対策

<主要研究業績>紀要論文、議員研修

【Outline and objectives】

Learn the history and significance of the local council and study and study the issues of the council and advanced cases in and outside of Japan to deepen the understanding of the council and members of parliament as a dual representative body. In this way, we aim to become a member of parliament and parliamentarians who will improve the welfare of residents under tensions with the local government enforcement agencies.

POL500A3

NPO論 1

柏木 宏

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

NPO（民間非営利組織）は、サービス活動の提供による社会・地域問題への対応と、社会変革に向けたアドボカシー活動の両輪によって成り立っている。これらの活動により、NPOは、市民セクターの形成・発展の中心的な役割を担うとともに、市民社会を構築するための重要なツールとして機能している。日本におけるNPOは、1998年のNPO法成立によって具体化、顕在化したといえるが、「NPOの先進国、アメリカ」では、1世紀以上前から生成し、1960年代以降、急速に発展している。本授業では、NPOに関する基本的な概念の整理、こうした日米におけるNPOの歴史的背景や意義、現状と課題などについて理解することを目的とする。

【到達目標】

上記の授業の概要と目的を踏まえ、NPOに関する基本的な知識を幅広く獲得するとともに、コロナ禍における現状や課題を含めた理解を深めることを目標とする。

なお、政治学専攻「NPO論1」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。公共政策学専攻「NPO論」においては、ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻市民社会ガバナンスコースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。連帯社会インスティテュート「NPO論（現状と課題）I」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

・教員による講義
各回の講義の資料は、事前にウェブにアップしておく。これを読み、講義内容のイメージをえるとともに、質問、意見などを考えておく。この予習を行っていることを前提として、授業を進めていく。毎回の講義は、原則として3分の2程度を教員からのプレゼンテーションとする。残りの時間で質疑応答を含めた議論を行い、最後にまとめをする。

・学生の発表
講義への理解度を確認するとともに、不明瞭な点を明確にするため、期間中に講義のまとめ（ふりかえり）のセッションを実施する。また、授業に関連したテーマのレポートの作成を行う。作成に先立ち、アウトラインを作成、授業で発表する。レポートは、レジュメに基づいて発表を行う。ふりかえり、アウトライン、レポートの発表の際には、教員・受講生からフィードバックを受ける。

・オフィス・アワー
講義の疑問点やふりかえり、レポートの作成に関する指導を受ける。

・授業の形式
授業は、Zoomを使用し、オンライン授業形式で行う。ZoomのID・パスワード等については、初回授業までに学習支援システム（Hoppii）に掲載する。授業開始後、新型コロナウイルスの感染状況が改善し、対面授業が可能となった場合は、対面授業に切り替える。その場合、事前通知を行い、2週間後より対面授業に切り替える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本授業の進め方や評価方法などについて説明するとともに、受講生のNPOに関する知識や関心を開き、今後の授業に反映させる。
第2回	非営利と公益の概念整理	NPOにとって最も重要といえる「非営利」と「公益」というふたつの概念を整理、理解する。
第3回	ボランティア活動とNPO	ボランティア活動とNPO活動の同質性と異質性、また関係性について検討、理解する。
第4回	NPO法の成立とその後	阪神淡路大震災後のボランティア活動の広がり、その影響もあり1998年に成立したNPO法の背景と成立過程、法の概要を整理するとともに、同法の成立後のNPOの発展や税制優遇制度の導入など、同法に関連した重要な動きやコロナ禍にNPOが直面した課題などを概観する。

第5回	世界のNPO	ジョンズ・ホプキンス大学の調査をベースに、世界のNPOを概観する
第6回	アメリカのNPO	世界最大のNPOセクターをもつアメリカで、NPOがどのように発展し、制度が築かれてきたのかについて考える。そのうえで、コロナ禍を含めたアメリカのNPOセクターの現状について最新のデータを用いて把握するとともに、課題についても検討する。
第7回	授業のふりかえり	第2回から6回までの授業で興味を持った点と分かりにくかった点を事前に提出させ、それらの内容を議論、検討し、授業内容の深化をはかる。最終回に発表を行うレポートのアウトラインを示し、フィードバックを受ける。
第8回	レポートのアウトラインの発表	NPOのサービス活動とアドボカシー活動が、どのように関連して展開され、NPOのサービスの充実や社会課題に関する政策の形成に寄与しているのか、理論的に検討する。
第9回	NPOのサービス活動	日本とアメリカにおけるNPOのサービス活動とアドボカシー活動について、その実態について事例を含め、検討、理解する。
第10回	NPOのアドボカシー活動	NPOと行政・企業との関係の理論的な枠組みを検討する。日米においてNPOと行政・企業の間で、どのように協働が展開されているのか、事例を含め、検討する。
第11回	NPOの協働に関する理論の検討	第9回から12回までの授業で興味を持った点と分かりにくかった点を事前に提出させ、それらの内容を議論、検討し、授業内容の深化をはかる。
第12回	NPO協働に関する事例研究	授業に関連したテーマで作成したレポートを発表し、教員と院生からのフィードバックを受けるとともに、NPOの社会的役割や現状、課題などについて、議論する。
第13回	授業のふりかえり	
第14回	レポートの発表	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・講義に関する学習
事前にウェブにアップされた授業資料を読み、授業内容のイメージをえるとともに、質問、意見などを考えておく。この予習に加え、復習として、講義のメモや授業中の質問、回答、議論などについて、毎回、簡単に整理しておく。

・発表に関する学習
授業期間中に2回ふりかえりを提出する。さらに、レポートに関して、アウトラインとレポート（発表用レジュメと本文）を期限（オリエンテーションで提示）までに提出する。なお、これらの学習時間については、予習・復習が各回30分程度、ふりかえりの作成が1回につき1時間（2回なので2時間）、レポートのアウトラインは2時間、レポートの作成（発表用レジュメと本文）は10時間程度を要する。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは定めない。授業中に配布する資料を用いて、授業を行う。

【参考書】

柏木宏共編著『コロナ禍における日米のNPO』明石書店、2020年。
その他、受講生の希望と必要に応じて、随時、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

配分：平常点（授業中の議論への参加度など）50%、「ふりかえり」とレポート50%。
レポートの評価基準：授業内容との関連性、学術性、創意工夫、表記、論旨。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業に必要なPCやWi-Fi設備などを用意したうえで、学習支援システム利用できる環境の準備が必要。

【その他の重要事項】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
NPO論、NPOマネジメント
<研究テーマ>
日米のNPO、社会運動
<主要研究業績>
・『アメリカの外国人労働者』明石書店、1991年
・『企業経営と人権』解放出版社、1993年
・『アメリカのなかの日本企業』日本評論社、1994年
・『災害ボランティアとNPO』共編著、朝日新聞社、1995年
・『ボランティア活動を考える』岩波書店、1996年
・『NPOインターンシップの魅力』共編著、アルク、1998年
・『アメリカの労働運動の挑戦』労働大学、1999年
・『NPOマネジメントハンドブック』明石書店、2004年
・『指定管理者制度とNPO』明石書店、2007年
・『NPOと政治』明石書店、2008年

- ・『創造都市経済と都市地域再生』共著、大阪公立大学共同出版会、2011年
- ・『みんなで考える広域複合災害』共著、大阪公立大学共同出版会、2013年
- ・『高齢者が動けば社会が変わる』共著、ミネルヴァ書房、2017年
- ・『未来を切り拓く女性たちのNPO活動』共著、明石書店、2019年
- ・『コロナ禍における日米のNPO』共編著、明石書店、2020年

【Outline and objectives】

Nonprofit organizations (NPOs) have two primary roles; to deal with social and community problems by providing services and to advocate these problems to solve them. By these works, NPOs take a leading role in developing civil society. NPOs in Japan were recognized in 1998 through the law promoting nonprofit activities. In the US, NPOs started more than a century ago and have developed rapidly since the 1960s. This class analyzes their significance and examines the history and current situations in the US and Japan.

POL500A3

NPO論2

柏木 浩

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

NPO論ⅠをNPOに関する歴史や制度、現状と課題などの概論、入門編とすると、NPO論ⅡはNPOをどのように運営していくのかを示す、マネジメント編として位置づけることができる。したがって、NPOのマネジメントの基本である、ヒト、カネ、プランを中心に、具体的な手法を提示し、議論、NPOの運営能力の基本を獲得する。なお、以上の点について、コロナ禍において、NPOのマネジメントに生じた変化を含めた考察を行う。

【到達目標】

上記の授業の概要と目的を踏まえ、NPOマネジメントの基礎となる、ヒューマンリソース、資金、プランニングなどを中心に、マネジメント手法を理解することで、NPOの運営状況の分析や経営を担う基礎的な能力を獲得する。なお、政治学専攻「NPO論2」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。公共政策学専攻「市民社会ガバナンス論」においては、ディプロマポリシーのうち、公共政策学公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学政策研究（市民社会ガバナンス）コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。連帯社会インスティテュート「NPO論（現状と課題）Ⅱ」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連、特に「DP1」に強く関連している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

・教員による講義

各回の講義の資料は、事前にウェブにアップしておく。これを読み、講義内容のイメージをえるとともに、質問、意見などを考えておく。この予習を行っていることを前提として、授業を進めていく。毎回の講義は、原則として3分の2程度を教員からのプレゼンテーションとする。残りの時間で質疑応答を含めた議論を行い、最後にまとめる。

・学生の発表

講義への理解度を確認するとともに、不明瞭な点を明確にするため、期間中に講義のまとめ（ふりかえり）のセッションを実施する。また、授業に関連したテーマのレポートの作成を行う。作成に先立ち、アウトラインを作成、授業で発表する。レポートは、レジュメに基づいて発表を行う。ふりかえり、アウトライン、レポートの発表の際には、教員・受講生からフィードバックを受ける。

・オフィス・アワー

講義の疑問点やふりかえり、レポートの作成に関する指導を受ける。

・授業の形式

授業は、Zoomを使用し、オンライン授業形式で行う。ZoomのID・パスワード等については、初回授業までに学習支援システム（Hoppii）に掲載する。授業開始後、新型コロナウイルスの感染状況が改善し、対面授業が可能となった場合は、対面授業に切り替える。その場合、事前通知を行い、2週間後より対面授業に切り替える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期後半

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本授業の進め方や評価方法などについて説明するとともに、受講生のNPOマネジメントの知識や関心を聞き、今後の授業に反映させる。
第2回	NPOマネジメントの特色	NPOのマネジメントが企業や行政のマネジメントとどう異なるかについて検討することを通じて、その特色を理解する。
第3回	ヒューマンリソースのマネジメント1	NPOが活用するヒューマンリソースは、ボランティアとスタッフ、理事に大別できる。この三者がどのように連携することで、効果的な組織運営が可能になるか考える。
第4回	ヒューマンリソースのマネジメント2	ボランティアとスタッフ、理事のそれぞれに対するマネジメントの手法について考える。
第5回	資金のマネジメント1	NPOの事業の受益者の多くは、十分な支払い能力がない。このため、非営利の社会的企業は、ファンドレイジングが必要となる。ファンドレイジングをどのように行うか、考える。

第 6 回	資金のマネジメント 2	ファンドレイジングで獲得した資金も含め、適切な財務管理を行う必要がある。これらの意義や手法について検討する。
第 7 回	授業のふりかえり	第 2 回から 6 回までの授業で興味を持った点と分かりにくかった点を事前に提出させ、それらの内容を議論、検討し、授業内容の深化をはかる。
第 8 回	レポートのアウトラインの発表	最終回に発表を行うレポートのアウトラインを示し、フィードバックを受ける。
第 9 回	プログラムプランニング	NPO の実態は、個々の事業、すなわちプログラムである。これをいかに企画立し、実施していくのかについて検討する。
第 10 回	戦略計画	変化の激しい現代において、NPO も内外の変化に対応していかなければ、継続、発展はできない。このため、組織の内外環境を分析し、優先順位をつけて運営を進めるための戦略計画について検討する。
第 11 回	NPO の設立	組織は、設立しなければ機能しない。営利であれば株式会社、非営利であれば NPO 法人や一般社団・財団など法人格の取得を行うことになる。ここでは、NPO 法人の設立について考える。
第 12 回	NPO の世代交代	NPO においても、設立から時間が経過すると、世代交代の問題が出てくる。営利企業との比較も含め、これらを進める手法を検討する。
第 13 回	授業のふりかえり	第 9 回から 12 回までの授業で興味を持った点と分かりにくかった点を事前に提出させ、それらの内容を議論、検討し、授業内容の深化をはかる。
第 14 回	レポートの発表	授業に関連したテーマで作成したレポートを発表し、教員と院生からのフィードバックを受けるとともに、NPO の運営方法や運営の現状、課題などについて、議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・講義に関する学習

事前にウェブにアップされた授業資料を読み、授業内容のイメージをえるとともに、質問、意見などを考えておく。この予習に加え、復習として、講義のメモや授業中の質問、回答、議論などについて、毎回、簡単に整理しておく。

・発表に関する学習

授業期間中に 2 回ふりかえりを提出する。さらに、レポートに関して、アウトラインとレポート（発表用レジュメと本文）を期限（オリエンテーションで提示）までに提出する。なお、これらの学習時間については、予習・復習が各回 30 分程度、ふりかえりの作成が 1 回につき 1 時間（2 回なので 2 時間）、レポートのアウトラインは 2 時間、レポートの作成（発表用レジュメと本文）は 10 時間程度を要する。

【テキスト（教科書）】

柏木宏著『NPO マネジメントハンドブック』明石書店、2004 年。

【参考書】

柏木宏共編著『コロナ禍における日米の NPO』明石書店、2020 年。

受講生の希望と必要に応じて、随時、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

配分：平常点（授業中の議論への参加度など）50%、「ふりかえり」とレポート 50%。

レポートの評価基準：授業内容との関連性、学術性、創意工夫、表記、論旨。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業に必要な PC や Wi-Fi 設備などを用意したうえで、学習支援視システム利用できる環境の準備が必要。

【その他の重要事項】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

NPO 論、NPO マネジメント

<研究テーマ>

日米の NPO、社会運動

<主要研究業績>

- ・『アメリカの外国人労働者』明石書店、1991 年
- ・『企業経営と人権』解放出版社、1993 年
- ・『アメリカのなかの日本企業』日本評論社、1994 年
- ・『災害ボランティアと NPO』共編著、朝日新聞社、1995 年
- ・『ボランティア活動を考える』岩波書店、1996 年
- ・『NPO インターンシップの魅力』共編著、アルク、1998 年
- ・『アメリカの労働運動の挑戦』労働大学、1999 年
- ・『NPO マネジメントハンドブック』明石書店、2004 年
- ・『指定管理者制度と NPO』明石書店、2007 年
- ・『NPO と政治』明石書店、2008 年
- ・『創造都市経済と都市地域再生』共著、大阪公立大学共同出版会、2011 年

- ・『みんなで考える広域複合災害』共著、大阪公立大学共同出版会、2013 年
- ・『高齢者が動けば社会が変わる』共著、ミネルヴァ書房、2017 年
- ・『未来を切り拓く女性たちの NPO 活動』共著、明石書店、2019 年
- ・『コロナ禍における日米の NPO』共編著、明石書店、2020 年

【Outline and objectives】

This class focuses on how to manage a nonprofit organization. By learning management of its human resources, financial resources and planning methods, students would obtain basic skills to manage a nonprofit organization.

POL500A3

市民社会論

菅原 敏夫

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代市民社会の実相と市民社会論の再検討。自由、平等、信頼、互酬を理念とする市民社会の劣化と危機を見据えて、再構築を急ぐ。

【到達目標】

市民社会の強化につながる論点を習得する。市民社会の現代的構築の論点を習得する。現代市民社会形成の批判的主体となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

世界的に市民社会への関心が高まっている。政治的民主主義と開放経済のもとで、市民社会をよりよくガバニングしていくことの意味を捉え、市民社会論が果たすべき役割を考える。現代市民社会の考察（観察と研究）は参与的で、社会と観察者個人は相互的な役割を果たす。そのただなかでの、市民社会、個人、集団の相互連関について考察する。現代の市民社会をその変化の中で主体的にとらえる。また、市民社会論形成の思想史を体験し検証をおこなう。事前に示す文献を元に講義と討論を行う。志願した報告者が報告をする方式が望ましい。基本的内容は講義形式を予定する。市民社会の歴史的存在形態を一瞥し、近代以降の市民社会（狭義の市民社会）に関心を集中する。ジョン・ロックを出発点とし、米国、日本の市民社会論の特徴を明らかにする。討論の中から問題点が浮かび上がるように工夫したい。2015年は、松下圭一が亡くなり、ベネディクト・アンダーソンも亡くなった年だった。それから6年目、市民社会を歴史的に振り返る必要が強まっている。そうした課題の探求にもこたえたい。

毎授業時とも「討議」の時間が確保されているので、グループディスカッション、ディベートのような運用を工夫し、「討議」から学ぶ学習のフィードバック、思考のループを体験的に感得する方法の現れに留意する。

授業は原則対面で実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期前半

回	テーマ	内容
第1回	市民社会の歴史俯瞰	シュテファン＝ルートヴィヒ・ホフマン『市民結社と民主主義 1750-1914』を参考に市民社会と市民結社の関係を最新の研究動向から考える。
第2回	市民社会の歴史と現代への課題・問題機制	『市民結社と民主主義 1750-1914』以後、現代の課題。民主主義の危機。コミュニティ・オーガナイズングも参考に。市民社会と市民結社の関係を最新の研究動向から考える。
第3回	市民社会の思想史	ジョン・ロックとともに考える。『統治二論』
第4回	市民社会の思想史と市民社会論の受容、展開	ジョン・ロックとともに考える。『統治二論』 松下圭一『ロック「市民政府論」を読む』も参照しつつ。
第5回	市民社会の哲学	市民社会の反省、ロバート・D・パットナムとともに考える。『孤独なボウリング』
第6回	市民社会の哲学の変容と反省	市民社会の反省、ロバート・D・パットナムとともに考える。『孤独なボウリング』併せて、『哲学する民主主義』、『われらの子ども』も参照する。
第7回	現代の市民社会と公共性の構造転換	ユルゲン・ハバーマスとともに考える。『第2版公共性の構造転換』
第8回	現代の市民社会と公共性の再構築へ向けて	ユルゲン・ハバーマス『コミュニケーション的行為の理論』も参照。公共性、公共圏のその後。
第9回	リバタリアニズムとコミュニティニズム	自由と共同体に関する制度。ロールズ『正義論』。
第10回	リバタリアニズムとコミュニティニズム	自由と共同体に関する制度。ウォルツァー『正義の領分』。普遍主義と特定主義。
第11回	ソーシャルチェンジの理論	CSO（市民社会団体）の実践から学ぶ。
第12回	ソーシャルチェンジの実践	国家的なものとの市民社会の相克。ナショナリズムの再定義。「想像の共同体」の再発見。

第13回 市民社会ガバナンス

ソーシャル・ガバナンスと市民社会ガバナンス。「新しい公共」。東日本震災で問われる市民社会の復興と構築。傷ついた市民社会。市民社会の現代的再構築。まとめ。

第14回 市民社会ガバナンス再構築

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シュテファン＝ルートヴィヒ・ホフマン『市民結社と民主主義 1750-1914』、ジョン・ロック『統治二論』、ロバート・D・パットナム『孤独なボウリング』、ユルゲン・ハバーマス『第2版公共性の構造転換』、ロールズ『正義論』、ウォルツァー『正義の領分』は市民社会を考えるための必須の文献となっている。新訳等も現れて学びやすい分野である。事前の学習として一定の密度で目を通しておくことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業計画で示した文献をその講義のテキスト（議論の基点となる材料）とする。

【参考書】

テキストと同じ。

【成績評価の方法と基準】

平常点10%、各回の授業において各自の報告発表・討議を行った場合50%の枠内で加点、各回の討論への参加・貢献を40%で評価。

【学生の意見等からの気づき】

学生の議論を適切に構築し、各自の気づきを尊重する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>公共性論・市民社会論・市民経済学

<研究テーマ>公私協働領域の研究

<主要研究業績>「参院選と両院のねじれ」[ハンギョレ経済研究所レビュー]

2010年9月号

・「公益法人改革の行方」[日経グローバル] 2010年7月号

・「新しい公共と信頼の再構築」[JP総研リサーチ] 2010年12月。「公共サービスと地域資源」[DIO] 2018年1月号「地域を支える公共サービスと共同の仕組み」[労働の科学] 2019年12月号

2010年9月号

・「新しい公共と信頼の再構築」[JP総研リサーチ] 2010年12月。「公共サービスと地域資源」[DIO] 2018年1月号「地域を支える公共サービスと共同の仕組み」[労働の科学] 2019年12月号

【Outline and objectives】

Our objectives are observation of modern Civil society and reconsideration on Civil society theory. We try to reconstruct the Civil society theory.

POL500A3

シンクタンク論

詩田 純

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政策形成過程、統治機構、政官関係、国家-社会関係等、公共政策に関わる基礎的要素の概念的な意味と具体的な成り立ちに関する理解を踏まえ、それらにおいてシンクタンクがどのように位置づけられ、どのような役割を果たしているか、について考察する。

【到達目標】

・海外および国内の主要なシンクタンクについて、その機能と政策形成過程における役割について把握することができる。
 ・政策形成過程、統治機構、政官関係、国家-社会関係等、公共政策に関わる基礎的概念を踏まえた上で、シンクタンクという視点を通して、それらの仕組みや特徴、課題等について理解することができる。
 ・「仮説」⇒「検証」という科学的思考の基礎を踏まえて、公共政策の文脈の中で、シンクタンクと他の諸要素との因果関係について論理的に説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

基本的に対面授業とする。

授業前半では、「シンクタンクとは何か」「シンクタンク論を学ぶ意義とは何か」について踏まえた上で、国家-社会間関係や政策形成過程等、公共政策の概念をシンクタンクの視点から考察し、加えて、政策形成への人材供給や資金の在り方等、シンクタンクをめぐる主要な論点について検討する。これに基づき後半では、機能や母体等の観点からシンクタンクを分類した上で、海外・日本のそれぞれにおけるシンクタンクについて、その政策形成における位置づけや役割について具体的に論ずる。

特定の教科書は使用せず、毎回、レジュメを配布する。授業を行う上では、概念的な説明のみではなく、できるだけ具体的に現実における動きを踏まえた講義とすることを心掛けたい。場合によっては、実際にシンクタンクで働く方やその関係者等、各回のテーマに沿うゲストスピーカーを招聘し、実際におけるシンクタンクの働きをお話いただく。

授業は一方的な講義ではなく、受講者による質問・意見交換を歓迎する。一つの質問を基に教室中に議論が起こるような、参加型の学習空間としたい。授業後半では受講者に何らかのプレゼンテーションを行ってもらおう。

受講者には授業の最後にリアクションペーパーを提出してもらい、次回講義時に口頭にて、あるいは、講義後にメール等にて、それに対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期集中

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業内容・日程等の説明、講師の自己紹介など
第2回	シンクタンクとは	シンクタンクの定義、歴史、機能など
第3回	国家と社会	国家-社会間関係、「政策ネットワーク論」など
第4回	政策形成とシンクタンク	政策形成過程の基礎、シンクタンクから見た政策形成過程
第5回	シンクタンクの人材	リボルビングドア、政治任用など
第6回	シンクタンクの資金	フィランソロピー、501(C)3 など
第7回	シンクタンクの分類	コントラクト、アカデミック、アドボカシーなど
第8回	海外のシンクタンク①	米国を中心に海外のシンクタンクについて
第9回	海外のシンクタンク②	欧州を中心に海外のシンクタンクについて
第10回	日本のシンクタンク	日本のシンクタンクについて
第11回	立法補佐機関とシンクタンク	議会の立法活動を補佐する機関としての立法補佐機関とシンクタンクの関係性について
第12回	団体とシンクタンク	利益集団・圧力団体とシンクタンクの関係性について
第13回	自治体シンクタンク	自治体が創設したシンクタンクについて
第14回	まとめ	全体のまとめと今後の展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない。

【参考書】

Alex Abella, 2009. *Soldiers of Reason: The RAND Corporation and the Rise of the American Empire*, Mariner Books.

船橋洋一. 2019. 『シンクタンクとは何か—政策起業力の時代』中央公論新社.

飯尾潤. 2007. 『日本の統治構造』中央公論新社.

小池洋次（編著）. 2010. 『政策形成』ミネルヴァ書房.

宮田智之. 2017. 『アメリカ政治とシンクタンク—政治運動としての政策研究機関—』東京大学出版会.

Shimizu, Mika. 2015. “Think Tanks and Policy Analysis: Meeting the Challenges of Think Tanks in Japan”, in Yukio Adachi, Sukehiro Hosono and Jun Iio eds., *Policy Analysis in Japan*, Policy Press at the University of Bristol, Chap.14.

Smith, James A. 1991. *The Idea Brokers: Think Tanks and the Rise of the New Policy Elite*, Free Press.

鈴木崇弘. 2007. 『日本に民主主義を起業する—自伝的シンクタンク論』第一書林.

鈴木崇弘. 2011. 「日本になぜ（米国型）シンクタンクが育たなかったのか？」『季刊政策・経営研究』pp.30-50.

鈴木崇弘・上野真城子. 1993. 『世界のシンク・タンク—「知」と「治」を結ぶ装置』サイマル出版会.

鈴木崇弘・風巻浩・中林美恵子・上野真城子・成田喜一郎. 2005. 『シズン・リテラシー—社会をよりよくするために私たちにできること』教育出版

Smith, James. 1993. *The Idea Brokers: ThinkTanks And The Ruse if The New Policy Elite*, Free Press.

Suzuki, Takahiro. 2015. “Policy Analysis and Policymaking by Japanese Political Parties”, in Yukio Adachi, Sukehiro Hosono and Jun Iio eds., *Policy Analysis in Japan*, Policy Press at the University of Bristol, Chap.11.

建林正彦・曾我謙悟・待鳥聡史. 2008 『比較政治制度論』有斐閣.

横江公美. 2008. 『アメリカのシンクタンク 第五の権力の実相』ミネルヴァ書房.

横江公美. 2004. 『第五の権力 アメリカのシンクタンク』文藝春秋.

Weaver, R., 2002. *Think Tanks and Civil Societies: Catalysts for Ideas and Action*, Routledge.

【成績評価の方法と基準】

出席・質疑・討論参加 40 %、レポート 30 %、プレゼンテーション 30 %

< 評価基準 >

質疑・討論参加：積極性、分析力、批判力、問題提起性等

レポート・プレゼンテーション：分析力、論理性、新規性、簡潔性等

【学生の意見等からの気づき】

基本的な政治学用語、政治学的な考え方についても適宜、解説を行う。

【その他の重要事項】

レポートの提出期限、内容等については適宜指定する。

やむを得ず授業を欠席する際は、事前あるいは事後にその理由につき連絡すること。

【担当教員の専門分野等】

< 専門領域 > 政治過程、議会、利益団体、政治教育、政策分析

< 研究テーマ > 政治過程における民間アクターの役割、政策形成における政策ネットワークの役割、テクノロジーと政治、主権者教育の効果 など

< 主要研究業績 >

「地方議員のなり手不足問題と直接民主制型の意思決定—ブロックチェーンを用いた新たな投票システムの検討—」『季刊行政管理研究』170号、2020年、pp.38-47.

「政治をいかに教えるか—知識と行動をつなぐ主権者教育—」弘前大学出版会、2019年.

「暗号資産による政治献金「合法」解釈と今後の展開」『月刊選挙』73巻1号、2019年、pp.15-19.

「政府—議会関係から見た行政組織編成権に関する一考察」『季刊行政管理研究』No.155, pp.29-39、2016年.

「団体形成から見る政策ネットワークの変化—医薬品ネット販売の規制緩和を事例として—」『政治社会論叢』第4号、pp.55-70、2016年.

“Chap.8, A Policy Analysis of the Japanese Diet from the Perspective of Legislative Supporting Agencies”, in Yukio Adachi, Sukehiro Hosono and Jun Iio eds., *Policy Analysis in Japan*, Policy Press at the University of Bristol, 2015, pp.123-138.

『立法補佐機関の制度と機能—各国比較と日本の実証分析』晃洋書房、2013年.

【Outline and objectives】

Examining how think-tanks play a role in the political process, based on the understandings regarding the concept meanings and concrete structures of fundamental factors about public policy including policy process, political structure, politician-bureaucrats relationship and nation-society relationship.

POL500A3

国際政治の基礎理論 1

森 聡

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義の目的は、国際政治学に関する基礎知識を修得するとともに、専門知識を体系的に学習するための準備を行うことにある。

複雑さを増してやまない国際社会の諸問題を、広い視野から理解したり説明したりするのに必要な国際政治学や国際関係論と呼ばれる学問分野の基本概念や理解・認識の枠組み（パラダイムないしリサーチ・プログラム）を解説する。現在進行中の国際政治経済、国際安全保障の話題を随時取り上げる。

【到達目標】

次の三つの到達目標を目指して、＜国際政治学ないし国際関係論の主要パラダイム＞について学ぶ。

第一に、国際政治学における基本的な用語・概念や主要なテーマについての知識を身につける。

第二に、国際政治学ないし国際関係論を捉えるための分析枠組みにまつわる諸々のポイントを正確に理解する。

第三に、現実の国際社会の諸事象を、基本的な概念や分析枠組みを使って理解し、諸資料を活用しながら実証的に説明できる初歩的な能力を修得する。

また、2年次以降に、国際政治の専門的なテーマに関する理論を扱う学術論文を正確に理解するための基礎理解力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

春学期は、Zoomによるライブ形式での開講とする。

授業計画を変更する場合には、学習支援システムでその都度告知する。学習支援システムからの授業に関する通知メールを確認されたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	国際政治学のあゆみ	主要パラダイムの概観。学問としての国際政治学の発展の歴史。
2	国際政治学における分析の枠組み	理論とは何か。分析レベルの問題。リサーチ・プログラムとは何か。
3	競争の国際政治—理論編	リアリズムの中核概念。古典的リアリズムとは何か。構造的リアリズムとは何か。攻撃的・防衛的リアリズム。
4	競争の国際政治—事例編	米中対立、米露対立の原因と展開。
5	協調の国際政治—理論編	リベラリズムの中核概念。観念的・商業的・共和的リベラリズムとは何か。ネオリベラル制度論とは何か。ネオ・ネオ論争。リベラリズムへの批判。
6	協調の国際政治—事例編	国際貿易・金融システムの仕組み。気候変動をめぐる国際政治。
7	観念の国際政治—理論編	コンストラクティビズムの中核概念。適切性の論理と結果の論理とは何か。規範と文化に関する諸理論。コンストラクティビズムへの批判。

8	観念の国際政治—事例編	人権と制裁・介入の国際政治。
9	中間レビュー	前半の諸理論の振り返り
10	対外政策の理論—「点」からみる国際政治	対外政策を動かす国内要因を理解する。指導者、政党、利益集団、世論など。
11	対外政策の事例	第三次世界大戦を回避した米ソの危機外交
12	国際秩序の理論—「面」からみる国際政治	国家が共通の規則や制度に拘束されていると考えている時に生まれる国際関係を理解する。
13	国際秩序の事例	冷戦終結後の大国間秩序の変容
14	総括	学期中の主要課題に関する解説・講評を行う。学期末レポート課題の説明など。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は2時間程度を目安とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しない。学習支援システムで講義用資料を配信する。

【参考書】

必要に応じて授業中に示す。以下を購入する義務はないが、要すれば適宜参照されたい。

・田中明彦・中西寛編『新・国際政治経済の基礎知識（新版）』、有斐閣ブックス、2004年、2400円。

・小笠原高雪・栗栖薫子・広瀬佳一・岡坂直史・森川幸一編『国際関係・安全保障用語辞典』、ミネルヴァ書房、2013年、3000円。

・世界地図。

【成績評価の方法と基準】

成績は、レポート課題により評価する予定。

【学生の意見等からの気づき】

・毎回、授業の冒頭で、前回後半の講義内容を振り返って、記憶を喚起する。

・複雑な概念を扱う際には、二回の講義を利用して説明を行う。

【学生が準備すべき機器他】

講義用アウトライン（見出し入りレジюме）を学習支援システムにアップロードするので、履修者は各自でそれをダウンロードして、授業に持参するとよい。アウトラインに、授業で使用するパワーポイントや講義の内容を書き込んでいくとよい。

【国際政治学、現代アメリカの対外政策】

＜専門領域＞ 国際政治学、戦後アメリカの外交と安全保障

＜研究テーマ＞ 先端技術と国際政治、パワーシフトと国際秩序、現代アメリカのインド太平洋戦略など

＜主要研究業績＞

・川島真・森聡編著『アフターコロナ時代の米中関係と世界秩序』、東京大学出版会、2020年。

・"US Technological Competition with China: The Military, Industrial and Digital Network Dimensions," *Asia Pacific Review*, Vol.26, No.1 (2019), pp.77-120.

・"U.S. Defense Innovation and Artificial Intelligence," *Asia Pacific Review*, Vol.25, No.2 (Fall 2018), pp.16-44.

・「統合作戦構想と太平洋軍—マルチ・ドメイン・バトル構想の開発と導入」、土屋大洋編著、『アメリカ太平洋軍の研究—インド・太平洋の安全保障』、千倉書房、2018年7月。

・「リベラル国際主義への挑戦—アメリカの二つの国際秩序観の起源と融合」、『レヴァイアサン』第58号（2016年4月）、23-48頁。

・「アメリカのアジア戦略と中国」、北岡伸一・久保文明監修『希望の日米同盟—アジア太平洋の海洋安全保障』、中央公論社、2016年、39-91頁。

・『ヴェトナム戦争と同盟外交—英仏の外交とアメリカの選択 1964-1968年』、東京大学出版会、2009年（日本アメリカ学会清水博賞受賞）。

など

【Outline and objectives】

This is an introductory course on international politics. The objective of this course is to gain knowledge of basic concepts of international relations in order to lay the foundation for systematically learning advanced theories of international relations. Students would be exposed to the main paradigms or research programs relating to international politics.

POL500A3

国際開発政策研究 1

武貞 稔彦

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義のテーマは貧困削減のための国際協力、開発援助のありようである。SDGs（持続可能な開発目標）に示されているように、戦後国際社会の大きな課題の一つ-貧困-に立ち向かうために行われている営みである開発援助や国際協力は、どのような動機や意図をもって行われ、どのような効果をこれまでもたらしてきたかを検討し、将来の国際協力のあり方、さらには国際社会のあり方についても議論する。

【到達目標】

授業の到達目標は、(1) 現代の国際社会の中で行なわれる様々な国際協力や援助、特に、貧困、開発、環境をめぐる国際協力や援助の歴史と制度について基礎的な知識を獲得すること、(2) 国際協力や援助をめぐる現代の主要なトピックに関する基礎的な知識を獲得すること、および、(3) 誰が何のためにどのような国際協力や援助を行なっているのか、について批判的に見る目を養うことである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

各回の講義は、①教員による講義、②基本的な文献に関する学生の報告、③ディスカッションで構成する。事前に指定された文献を読んで各回の授業に参加することが必須であり、予習に十分な時間を割くことが必要となる。ただし、講義の方法や内容については、受講者の数や関心などに応じて変更する可能性がある。

報告対象とする文献については、2021 年度秋学期開始前に学習支援システム（Hoppii）を通じて通知／配布予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期前半

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 国際協力はなぜ行なわれるのか	国際協力という取り組みが必要とされる理由や背景-途上国の貧困と先進国との格差-について概観する
第 2 回	国際協力をめぐる歴史と制度 (1) 経済成長と国際協力	第二次世界大戦後の国際社会秩序形成と、その後 1970 年代までの国際協力の取り組みを、国際社会の政治／歴史の文脈に位置づけて概観する。
第 3 回	国際協力をめぐる歴史と制度 (2) 経済成長路線から人間開発路線へ	1980 年代、90 年代の国際協力の変遷をたどり、基本的な考え方／取り組みの重点の変化を概観する。
第 4 回	国際協力をめぐる歴史と制度 (3) 環境と持続可能な開発	2000 年代以降の国際協力の変遷を国際社会における課題設定や変動の中に位置づける
第 5 回	日本による国際協力	日本による国際協力の歴史と制度について概観する。そのうえで、その成果および評価を検討する。
第 6 回	「開発」とは何か: 開発と文化、社会科学	現在すすめられている開発の到達目標（行き着く先）について文化や社会科学の方法論の観点も含め批判的に検討する。
第 7 回	アフリカ	国際協力における近年の「大きな課題（問題）」であるアフリカについて、何が「問題」となっているのか、その由来や対応を含めて概観する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

斎藤文彦『国際開発論』（日本評論社）、下村恭民他『国際協力』（有斐閣）、外務省『日本の経済協力』（ODA 白書）を基本書とします。他は適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、期末レポート（50%）、各回の担当報告の内容（30%）、授業やディスカッションへの貢献（20%）を総合的に判断して行う。

【学生の意見等からの気づき】

過去には議論の時間の充実（拡大）を求める声があったことから、授業運営には留意することとする。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 開発の自然環境・社会環境への影響、開発援助、開発と倫理
 <研究テーマ> 「望ましい（望ましくない）「開発」とは何か」「ダム建設に伴う立ち退きと補償、生活再建」

<主要研究業績>

"Japanese Experience of Involuntary Resettlement: Long-Term Consequences of Resettlement for the Construction of the Ikawa Dam," *International Journal of Water Resources Development*, Routledge, Vol. 25, Issue 3, September 2009, pp. 419- 430,

「開発介入と補償：ダム立ち退きをめぐる開発と正義論」勁草書房 2012 年, "Participation and diluted stakes in river management in Japan: the challenge of alternative constructions of resource governance" in Sato, J. ed., *Governance of Natural Resources: Uncovering the social purpose of materials in nature*. United Nations University Press, pp.141-161, July 2013

【実務経験のある教員による授業】

担当者は、途上国への経済協力を携わっていた経験がある。本講義においては、途上国駐在も含めた経済協力実務で得られた知見が活用されている。

【Outline and objectives】

This course is an advanced course for International Development and Development Assistance. Development is one of the global issues in the current world as shown in the Sustainable Development Goals (SDGs). International Development Assistance has been perceived not only as a strong tool for development of many societies and/or economies but also as a way to strengthen world peace. The class consists of lectures and readings focusing on the history and the objectives of international development efforts and relationship between rich countries and poor countries putting a special emphasis on Japan's role in the international society.

Completing the course, students are expected;

- 1) to acquire basic knowledge on history and institutions in international development efforts,
- 2) to acquire basic knowledge on current/important issues in international development, and
- 3) to critically analyze who engages in international development efforts and why.

POL500A3

国際地域研究 1

熊倉 潤

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国の政治及び現代史について学ぶ。中国の政治・社会の特徴、歴史の形成過程等についてゼミ形式で論じ、認識を深める。

【到達目標】

本授業の目標は、中国語の研究書、論文等の読解を通じて、中国政治、現代史に関する学術論文を執筆する基礎的な力を養うことにある。また中国語がネイティブでない学生の中国語力、日本語がネイティブでない学生の日本語力を高めることにある。研究者を目指す学生に関しては、特に本授業での学問的修練を経て、次代の中国地域研究を担う人材となることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

本授業は演習（ゼミ）形式で、【授業計画】に沿って中国語、日本語の研究書、論文等を輪読する。

授業形式は、ひとまず対面授業を想定する（新型コロナウイルス感染状況、学生の人数等によっては、オンラインに変更する可能性もある）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	初回ガイダンス	講義の進行方法／受講者の研究テーマの紹介
第 2 回	受講者による文献の読解と報告（1）	中国共産党の成立（1）
第 3 回	受講者による文献の読解と報告（2）	中国共産党の成立（2）
第 4 回	受講者による文献の読解と報告（3）	中国共産党とコミンテルン（1）
第 5 回	受講者による文献の読解と報告（4）	中国共産党とコミンテルン（2）
第 6 回	受講者による文献の読解と報告（5）	中華人民共和国の建国（1）
第 7 回	受講者による文献の読解と報告（6）	中華人民共和国の建国（2）
第 8 回	受講者による文献の読解と報告（7）	中ソ同盟下の中国（1）
第 9 回	受講者による文献の読解と報告（8）	中ソ同盟下の中国（2）
第 10 回	受講者による文献の読解と報告（9）	中ソ同盟下の中国（3）
第 11 回	受講者による文献の読解と報告（10）	中ソ同盟下の中国（4）
第 12 回	受講者による文献の読解と報告（11）	中ソ同盟下の中国（5）
第 13 回	受講者による文献の読解と報告（12）	中ソ同盟下の中国（6）
第 14 回	フィールドワーク（学外図書館での調査研究）	アジア経済研究所図書館を訪問し、その実地研修を予定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

以下の重要文献から抜粋を配布する。価格は参考まで。
沈志主『中关系史：1917-1991』北京：新出版社、2007年、55.80元。

【参考書】

参考書は指定しないが、参考となる論文等については授業内で適宜必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

報告の内容（50%）、議論への参加度（50%）

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

履修に際しては、中国政治、現代史に関する基礎的な文献を読んでおくこと。また中国語の文献を扱うため、中国語が読めることが望ましい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>中国、旧ソ連の政治、現代史
<研究テーマ>中ソ関係、民族問題
<主要研究業績>『民族自決と民族団結——ソ連と中国の民族エリート』東京大学出版会、2020年。

【Outline and objectives】

In this class, we will study Chinese politics and modern history, and discuss characteristics of Chinese politics and society, and the historical process.

POL500A3

国際地域研究 2

熊倉 潤

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国の政治及び現代史について学ぶ。中国の政治・社会の特徴、歴史的な形成過程等についてゼミ形式で論じ、認識を深める。

【到達目標】

本授業の目標は、中国語の研究書、論文等の読解を通じて、中国政治、現代史に関する学術論文を執筆する基礎的な力を養うことにある。また中国語がネイティブでない学生の中国語力、日本語がネイティブでない学生の日本語力を高めることにある。研究者を目指す学生に関しては、特に本授業での学問的修練を経て、次代の中国地域研究を担う人材となることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

本授業は演習（ゼミ）形式で、【授業計画】に沿って中国語、日本語の研究書、論文等を輪読する。

授業形式は、ひとまず対面授業とする（新型コロナウイルス感染状況、学生の人数等によっては、オンラインに変更する可能性もある）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
第1回	初回ガイダンス	講義の進行方法／受講者の研究テーマの紹介
第2回	受講者による文献の読解と報告（1）	中ソ対立下の中国（1）
第3回	受講者による文献の読解と報告（2）	中ソ対立下の中国（2）
第4回	受講者による文献の読解と報告（3）	中ソ対立下の中国（3）
第5回	受講者による文献の読解と報告（4）	中ソ対立下の中国（4）
第6回	受講者による文献の読解と報告（5）	中ソ対立下の中国（5）
第7回	受講者による文献の読解と報告（6）	中ソ対立下の中国（6）
第8回	受講者による文献の読解と報告（7）	中ソ対立下の中国（7）
第9回	受講者による文献の読解と報告（8）	1980年代以降の中国（1）
第10回	受講者による文献の読解と報告（9）	1980年代以降の中国（2）
第11回	受講者による文献の読解と報告（10）	1980年代以降の中国（3）
第12回	受講者による文献の読解と報告（11）	1980年代以降の中国（4）
第13回	受講者による文献の読解と報告（12）	1980年代以降の中国（5）
第14回	フィールドワーク（学会図書館を訪問しての実地研修）	外図書館での調査研究を予定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

以下の重要文献から抜粋を配布する。価格は参考まで。
沈志主『中关系史』北京：新出版社、2007年、55.80元。

【参考書】

参考書は指定しないが、参考となる論文等については授業内で適宜必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

報告の内容（50%）、議論への参加度（50%）

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

履修に際しては、中国政治、現代史に関する基礎的な文献を読んでおくこと。また中国語の文献を扱うため、中国語が読めることが望ましい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>中国、旧ソ連の政治、現代史
<研究テーマ>中ソ関係、民族問題
<主要研究業績>『民族自決と民族団結——ソ連と中国の民族エリート』東京大学出版会、2020年。

【Outline and objectives】

In this class, we will study Chinese politics and modern history, and discuss characteristics of Chinese politics and society, and the historical process.

POL500A3

アメリカ外交研究 1

森 聡

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカの建国から第二次世界大戦までの政治と外交の歴史について、国内政治上の変化が対外政策にいかなる変化を生じさせたのかを解説する。また、アメリカの対外関与が、いかなる国際的な要因の変化を受けながら射程を広げていったのかを説明する。さらに、資料を活用しながら、重要な歴史的局面における政策転換に作用した諸要因を明らかにする。

【到達目標】

次の到達目標を目指す。第一に、アメリカの政治制度の特徴と由来についての専門的な知識を習得する。第二に、アメリカ外交を国内政治と対外政策との相互連関という視点から理解できる能力を身につける。

また、授業で紹介する資料について、その文脈や位置づけについて考察する能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

学期開始当初は、オンライン（Zoomによるライブ授業）で開始する予定であるが、具体的な授業方法などは、学習支援システムで告知する。学習支援システムの「お知らせ」サイトを随時確認されたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	合衆国憲法の政治制度	連邦制と三権分立。
2	大統領と連邦議会の外交権限	大統領の権限。連邦議会の権限。官僚機構の役割。
3	独立革命	植民地から合衆国憲法の制定まで。
4	フランス革命への対応と1812年の米英戦争	米国内における権力闘争と外交。
5	モンロー・ドクトリン	欧州諸国との駆け引き。
6	南北戦争と対外関係	南北戦争と米国の外交
7	領土拡張と門戸開放政策	西方への拡張。アジアへの関与。
8	革新主義と対アジア政策	ローズヴェルト、タフト、ウィルソンの時代の政治と外交。
9	第一次世界大戦とパリ講話会議	第一次世界大戦への参戦過程と戦後処理。
10	1920年代の共和党政権の内政と外交、中南米での善隣外交	戦間期の政治。ドル外交の展開。
11	大恐慌とニューディール	1930年代の政治。ニューディール連合の結成。
12	1930年代のアジアとヨーロッパ	台頭する日本とドイツへの対応。
13	第二次世界大戦をめぐる外交と戦略	レンド・リース法の制定。戦争準備。日米交渉。
14	戦時体制と終戦外交	第二次世界大戦期の内政と外交。学期中の主要課題に関する解説・講評を行う。学期末レポート課題の説明など。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

斎藤眞、古矢旬『アメリカ政治外交史（第二版）』、東京大学出版会、2012年。

斎藤眞、久保文明編『アメリカ政治外交史教材・英文資料選（第二版）』、東京大学出版会、2008年。

【成績評価の方法と基準】

成績は、レポート課題により評価する予定。

【学生の意見等からの気づき】

前回の授業のポイント、を、次の講義の冒頭で確認のために解説する。

【現代アメリカ外交、国際政治学】

<専門領域> 国際政治学、戦後アメリカの外交と安全保障

<研究テーマ> 先端技術と国際政治、パワーシフトと国際秩序、現代アメリカのインド太平洋戦略など

<主要研究業績>

・川島真・森聡編著『アフターコロナ時代の米中関係と世界秩序』、東京大学出版会、2020年。

・"US Technological Competition with China: The Military, Industrial and Digital Network Dimensions," *Asia Pacific Review*, Vol.26, No.1 (2019), pp.77-120.

・"U.S. Defense Innovation and Artificial Intelligence," *Asia Pacific Review*, Vol.25, No.2 (Fall 2018), 16-44.

・「統合作戦構想と太平洋軍—マルチ・ドメイン・バトル構想の開発と導入」、土屋大洋編著、『アメリカ太平洋軍の研究—インド・太平洋の安全保障』、千倉書房、2018年7月。

・「リベラル国際主義への挑戦—アメリカの二つの国際秩序観の起源と融合」、『レヴァイアサン』第58号（2016年4月）、23-48頁。

・「アメリカのアジア戦略と中国」、北岡伸一・久保文明監修『希望の日米同盟—アジア太平洋の海洋安全保障』、中央公論社、2016年、39-91頁。

・『ヴェトナム戦争と同盟外交—英仏の外交とアメリカの選択 1964-1968年』、東京大学出版会、2009年（日本アメリカ学会清水博賞受賞）。

など

【Outline and objectives】

This is a lecture course on the history of American politics and diplomacy covering the period from the founding of the nation to the Second World War. It will shed light on how domestic political factors and international factors affected U.S. foreign engagement. Documents will be used from time to time to explain how historically significant decisions were influenced by various factors.

POL500A3

国際行政研究 1

坂根 徹

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この国際公共政策研究1では、「グローバル・リージョナルな国際公共政策：Global and Regional International Public Policy」をテーマとする。そして以下の諸項目で記載した要領で学んでいくことを通して、標記のテーマに関して、関連の専門知識を得るとともに、政策的思考力も涵養していくことを目的とする。

【到達目標】

本科目の到達目標は、国際公共政策について、グローバル・リージョナルな見地から理解を深めた上で、各自が関心を持つ具体的なテーマや課題について調査研究を行い、その考察結果を発表し議論するとともに文章にまとめることができるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

まずガイダンスで、本科目のテーマや進め方について説明した後、各自の問題関心や関連科目・文献等の既習状況を確認する。そして、国際公共政策に関して全般的な説明を行い、これを歴史的視点からみていく。その後、国際公共政策の推進主体としてよく取り上げられる国連システム・EUと、推進する上で必要となる資金・人材という代表的な資源について検討する。また、履修者が各自の関心に基づき選定したテーマについて、調査研究を行い、その中間及び最終結果を発表して議論するとともに、レポートを完成させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本科目のテーマや進め方について説明した後、各自の問題関心を述べる
2	国際公共政策	グローバル・リージョナルな国際公共政策の概説についての検討
3	国際公共政策の歴史	国際公共政策の史的展開の概説
4	調査研究テーマの選定	調査研究テーマについての各自の説明を踏まえた選定
5	調査研究テーマの中間発表に向けての検討	各自の調査研究テーマに関する中間発表に向けての検討
6	国際公共政策の推進主体	国連システムについての検討
7	国際公共政策の推進主体	EUについての検討
8	調査研究テーマの中間発表	各自の調査研究テーマに関する進捗状況についての中間発表
9	調査研究テーマの最終発表に向けての検討	各自の調査研究テーマに関して中間発表を踏まえて最終発表に向けての検討
10	国際公共政策の必要資源	資金についての検討
11	国際公共政策の必要資源	人材についての検討
12	調査研究テーマの最終発表	各自の調査研究テーマに関する最終発表
13	調査研究テーマの議論	各自の調査研究テーマに関して最終発表を受けての議論

- 14 調査研究テーマの議論 各自の調査研究テーマに関して最
の継続と全体のまとめ 終発表を受けてレポート完成に向
けての検討や全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回授業テーマの学習に加えて、特に調査研究発表とレポート提出
に向けての事前準備にまとめた時間を充当してしっかり行うこと。
本授業の準備・復習に要する時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

福田耕治・坂根徹『国際行政の新展開：国連・EUとSDGsのグロー
バル・ガバナンス』法律文化社、2020年。

【参考書】

開講時やその後の授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度（出席等）・平常点を50%、発表・レポ
ートを50%として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【学生が準備すべき機器他】

該当なし。

【その他の重要事項】

上記の授業計画は、実際の授業の進捗、履修生の数や関心テーマ等
により修正・変更されることがある。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>国際公共政策・国連研究・行政学等
<研究テーマ>国際公共政策・国連システムの行財政・国際行政・
調達行政等
<研究業績の例（単著論文から3篇を抜粋）>
・「国連システム諸機関の財政の変容—加盟国からの財政収入に焦点
を当てた分析」（日本国際連合学会編『変容する国際社会と国連』国
連研究第20号、国際書院、2019年に所収）
・「国連PKOの財政支出構造と政府・企業からの調達」（日本国際連
合学会編『日本と国連—多元的視点からの再考』国連研究第13号、
国際書院、2012年に所収）
・“Public Procurement in the United Nations System” (in Khi
V. Thai ed., International Handbook of Public Procurement,
Taylor and Francis, 2008)

【Outline and objectives】

Main theme of this course (International Public Policy 1) is
to learn and consider about global and regional international
public policy. By taking this course, students are expected
to acquire related specialized knowledge and also foster the
ability to consider and analyze various policies.

POL500A3

国際行政研究2

坂根 徹

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この国際公共政策研究2では、「国際公共政策分野：International
Public Policy Areas」をテーマとする。そして以下の諸項目で記載
した要領で学んでいくことを通して、標記のテーマに関して、関連
の専門知識を得るとともに、政策的思考力も涵養していくことを目
的とする。

【到達目標】

本科目の到達目標は、国際公共政策について、複数の政策分野を取り
上げ理解を深めた上で、各自が関心を持つ具体的なテーマや政策
分野について調査研究を行い、その考察結果を発表し議論すると
ともに文章にまとめることができるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針 に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に
「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

まずガイダンスで、本科目のテーマや進め方について説明した後、
各自の問題関心や関連科目・文献等の既習状況を確認する。そして、
具体的な国際公共政策分野について関係する国連システム諸機関に
注目して日本との関係を含めて検討する。また、履修者が各自の関
心に基づき選定したテーマについて、調査研究を行い、その中間及
び最終結果を発表して議論するとともに、レポートを完成させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本科目のテーマや進め方について 説明した後、各自の問題関心を述 べる
2	国際公共政策分野	持続可能な開発 (SDGs) 政策につ いての検討
3	国際公共政策分野	地球環境・エネルギー政策につ いての検討
4	調査研究テーマの選定 と検討	調査研究テーマの選定と調査の進 め方の検討
5	調査研究テーマの中間 発表に向けての検討	各自の調査研究テーマに関する中 間発表に向けての検討
6	国際公共政策分野	防災・人道・危機管理政策につ いての検討
7	国際公共政策分野	国際安全保障政策についての検討
8	調査研究テーマの中間 発表	各自の調査研究テーマに関する進 捗状況についての中間発表
9	調査研究テーマの最終 発表に向けての検討	各自の調査研究テーマに関して中 間発表を踏まえて最終発表に向 けての検討
10	国際公共政策分野	国際保健衛生政策についての検討
11	国際公共政策分野	国際教育・文化・電気通信政策に ついての検討
12	調査研究テーマの最終 発表	各自の調査研究テーマに関する最 終発表
13	調査研究テーマの議論	各自の調査研究テーマに関して最 終発表を受けての議論
14	調査研究テーマの議論 の継続と全体のまとめ	各自の調査研究テーマに関して最 終発表を受けてレポート完成に向 けての検討や全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回授業テーマの学習に加えて、特に調査研究発表とレポート提出に向けての事前準備にまとまった時間を充当してしっかり行うこと。本授業の準備・復習に要する時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

福田耕治・坂根徹『国際行政の最新展開：国連・EUとSDGsのグローバル・ガバナンス』法律文化社、2020年。

【参考書】

開講時やその後の授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度（出席等）・平常点を50%、発表・レポートを50%として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【学生が準備すべき機器他】

該当なし。

【その他の重要事項】

上記の授業計画は、実際の授業の進捗、履修生の数や関心テーマ等により修正・変更されることがありうる。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>国際公共政策・国連研究・行政学等
 <研究テーマ>国際公共政策・国連システムの行財政・国際行政・調達行政等
 <研究業績の例（単著論文から3篇を抜粋）>
 ・「国連システム諸機関の財政の変容—加盟国からの財政収入に焦点を当てた分析」（日本国際連合学会編『変容する国際社会と国連』国連研究第20号、国際書院、2019年に所収）
 ・「国連PKOの財政支出構造と政府・企業からの調達」（日本国際連合学会編『日本と国連—多角的視点からの再考』国連研究第13号、国際書院、2012年に所収）
 ・“Public Procurement in the United Nations System” (in Khin V. Thai ed., International Handbook of Public Procurement, Taylor and Francis, 2008)

【Outline and objectives】

Main theme of this course (International Public Policy 2) is to learn and consider about international public policy areas. By taking this course, students are expected to acquire related specialized knowledge and also foster the ability to consider and analyze various policies.

POL700A3

博士論文演習 I A

犬塚 元

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文の作成に必要な学問の手法を学ぶ。オンライン型（Zoom使用）で実施予定。

【到達目標】

博士論文の作成に必要となる（1）学術論文にて守るべき形式的なルールについてのノウハウ、（2）当該分野における内容・方法にかかる知見、（3）外国語能力、（4）研究倫理、について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」は特に強く関連、「DP1」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

演習形式。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
第1回	研究指導（1）	学術論文にて守るべき形式的なルールについて1
第2回	研究指導（2）	学術論文にて守るべき形式的なルールについて2
第3回	研究指導（3）	当該分野における内容・方法について1
第4回	研究指導（4）	当該分野における内容・方法について2
第5回	研究指導（5）	当該分野における内容・方法について3
第6回	研究指導（6）	当該分野における内容・方法について4
第7回	研究指導（7）	当該分野における内容・方法について5
第8回	研究指導（8）	当該分野における内容・方法について6
第9回	研究指導（9）	外国語能力1
第10回	研究指導（10）	外国語能力2
第11回	研究指導（11）	研究倫理1
第12回	研究指導（12）	研究倫理2
第13回	研究指導（13）	論文添削1
第14回	研究指導（14）	論文添削2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【参考】大学設置基準に鑑みた場合、準備・復習時間は講義及び演習（2単位）では1回につき4時間以上、実験、実習及び実技（1単位）では1回につき1時間以上が標準となる。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

毎回指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100点）

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器

【担当教員の専門分野等】

専門領域：政治学史、ヨーロッパ政治思想史

主要研究業績：『デイヴィッド・ヒュームの政治学』（著書）東京大学出版会、2004、『岩波講座政治哲学2』（編著書）岩波書店、2014、ヒューム『自然宗教をめぐる対話』（翻訳）岩波文庫、2020 など

【Outline and objectives】

Intensive Seminar for PhD students

POL700A3

博士論文演習 I B

犬塚 元

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文の作成に必要な学問の手法を学ぶ。オンライン型（Zoom 使用）で実施予定。

【到達目標】

博士論文の作成に必要な（1）学術論文にて守るべき形式的なルールについてのノウハウ、（2）当該分野における内容・方法にかかる知見、（3）外国語能力、（4）研究倫理、について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」は特に強く関連、「DP1」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

演習形式。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	研究指導（1）	学術論文にて守るべき形式的なルールについて1
第2回	研究指導（2）	学術論文にて守るべき形式的なルールについて2
第3回	研究指導（3）	当該分野における内容・方法について1
第4回	研究指導（4）	当該分野における内容・方法について2
第5回	研究指導（5）	当該分野における内容・方法について3
第6回	研究指導（6）	当該分野における内容・方法について4
第7回	研究指導（7）	当該分野における内容・方法について5
第8回	研究指導（8）	当該分野における内容・方法について6
第9回	研究指導（9）	外国語能力1
第10回	研究指導（10）	外国語能力2
第11回	研究指導（11）	研究倫理1
第12回	研究指導（12）	研究倫理2
第13回	研究指導（13）	論文添削1
第14回	研究指導（14）	論文添削2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【参考】 大学設置基準に鑑みた場合、準備・復習時間は講義及び演習（2単位）では1回につき4時間以上、実験、実習及び実技（1単位）では1回につき1時間以上が標準となる。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

毎回指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100点）

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器

【担当教員の専門分野等】

専門領域：政治学史、ヨーロッパ政治思想史

主要研究業績：『デイヴィッド・ヒュームの政治学』（著書）東京大学出版会、2004、『岩波講座政治哲学2』（編著書）岩波書店、2014、ヒューム『自然宗教をめぐる対話』（翻訳）岩波文庫、2020 など

【Outline and objectives】

Intensive Seminar for PhD students

POL700A3

博士論文演習 I A

山口 二郎

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、博士論文作成のために必要な技能を学習するとともに、論文の進捗状況を確認することを目的とする。

【到達目標】

博士論文執筆のためのスケジュールを立て、それを自ら達成すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」は特に強く関連、「DP1」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

最初に論文のテーマを設定し、毎回、必要な文献の紹介、論文の道筋に関する構想を報告してもらい、教員がそれについて講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
第1回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 1
第2回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 2
第3回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 3
第4回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 4
第5回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 5
第6回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 6
第7回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 7
第8回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 8
第9回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 9
第10回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 10
第11回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 11
第12回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 12
第13回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 13
第14回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点

【学生の意見等からの気づき】

院生との対話を深めていきたい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
<研究テーマ>
<主要研究業績>

【Outline and objectives】

This seminar aims at building a plan for dissertation and confirming gradual progress for that goal.

POL700A3

博士論文演習 I B

山口 二郎

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、博士論文作成のために必要な技能を学習するとともに、論文の進捗状況を確認することを目的とする。

【到達目標】

博士論文執筆のためのスケジュールを立て、それを自ら達成すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」は特に強く関連、「DP1」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

最初に論文のテーマを設定し、毎回、必要な文献の紹介、論文の道筋に関する構想を報告してもらい、教員がそれについて講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント1
第2回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント2
第3回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント3
第4回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント4
第5回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント5
第6回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント6
第7回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント7
第8回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント8
第9回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント9
第10回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント10
第11回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント11
第12回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント12
第13回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント13
第14回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点

【学生の意見等からの気づき】

院生との対話を深めていきたい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
<研究テーマ>
<主要研究業績>

【Outline and objectives】

This seminar aims at building a plan for dissertation and confirming gradual progress for that goal.

POL700A3

博士論文演習Ⅱ A

新川 敏光

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のために必要な知識と技能の習得を目指す。

【到達目標】

博士論文執筆

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」は特に強く関連、「DP1」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

文献講読と論文構想発表。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
第1回	文献講読と論文指導	対面もしくはズームにて行う。
第2回	同上	同上
第3回	同上	同上
第4回	同上	同上
第5回	同上	同上
第6回	同上	同上
第7回	論文構想会	学生の論文構想の報告と質疑応答
第8回	文献講読と論文指導	対面もしくはズームで行う。
第9回	同上	同上
第10回	同上	同上
第11回	同上	同上
第12回	同上	同上
第13回	同上	同上
第14回	同上	同上

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

論文執筆の準備

【テキスト（教科書）】

論文執筆に必要な先行業績（複数）

【参考書】

論文執筆に役立つ先行業績（複数）

【成績評価の方法と基準】

平常点

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していない。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>比較政治学
<研究テーマ>福祉国家・日本政治・多文化主義
<主要研究業績>

『福祉国家変革の理路』（ミネルヴァ書房、2014）

『国民再統合の政治』（ナカニシヤ、2017）

『田中角栄』（ミネルヴァ書房、2018）

【Outline and objectives】

This class offers knowledge and skills necessary for writing a doctoral thesis.

POL700A3

博士論文演習Ⅱ B

新川 敏光

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論文執筆に必要な知識と技能の習得を目指す。

【到達目標】

論文執筆

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」は特に強く関連、「DP1」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

文献講読と論文指導

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	文献講読と論文指導	対面もしくはズームで行う。
第2回	同上	同上
第3回	同上	同上
第4回	同上	同上
第5回	同上	同上
第6回	同上	同上
第7回	論文構想会	論文構想の報告と質疑応答
第8回	文献講読と論文指導	対面もしくはズームで行う。
第9回	同上	同上
第10回	同上	同上
第11回	同上	同上
第12回	同上	同上
第13回	同上	同上
第14回	論文報告	博士論文の完成原稿の報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

論文執筆

【テキスト（教科書）】

論文執筆に必要な先行業績（複数）

【参考書】

論文執筆に役立つ先行業績（複数）

【成績評価の方法と基準】

平常点

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していない。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>比較政治学

<研究テーマ>福祉国家・日本政治・多文化主義

<主要研究業績>

『福祉国家変革の理路』（ミネルヴァ書房、2014）

『国民再統合の政治』（ナカニシヤ、2017）

『田中角栄』（ミネルヴァ書房、2018）

【Outline and objectives】

This class offers knowledge and skills necessary for writing a doctoral thesis.

POL700A3

博士論文演習Ⅲ B

本多 美樹

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習は、博士後期課程の学生が博士論文を書き上げていくうえで必要な指導を行なう論文指導科目である。

【到達目標】

最終目標は博士論文を完成させることである。

- ・論文執筆の際に必要なアカデミック・スキルを身に付けること。
- ・関連分野の先行研究をしっかりと行うこと。
- ・研究発表を繰り返し、論文を練り上げていくこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」は特に強く関連、「DP1」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

指導教員の指導を受けながら、先行研究の読破と整理、論文構想の彫琢、論文執筆、とじっくりと時間をかけながら進めていく。学内の研究発表会および学外の研究会や学会での発表報告にもチャレンジしてコメントを得ることによって、論文の加筆・修正を繰り返しながら、論文完成へとステップを踏む。

対面での授業を予定しているが、新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては zoom で授業を行う可能性もある。詳しくは、Hoppii でお知らせする。

対面での授業を予定しているが、新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては zoom で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	執筆計画の提出	修士論文執筆のための計画書を提出する。
2	論文構想の彫琢①	論文の構想を練る。
3	論文構想の彫琢②	論文の構想を練る。
4	論文構想についての発表	論文構想について発表を行い、フィードバックを受け、論文執筆の準備に生かす。
5	論文の執筆	論文執筆に取り掛かる。
6	執筆部分の発表①	執筆した部分の発表を行い、コメントを得る。次回までに加筆・修正などを行い、論文のブラッシュアップをする。
7	執筆部分の発表②	執筆した部分の発表を行い、コメントを得る。次回までに加筆・修正などを行い、論文のブラッシュアップをする。
8	執筆部分の発表③	執筆した部分の発表を行い、コメントを得る。次回までに加筆・修正などを行い、論文のブラッシュアップをする。
9	執筆部分の発表④	執筆した部分の発表を行い、コメントを得る。次回までに加筆・修正などを行い、論文のブラッシュアップをする。
10	執筆部分の発表⑤	執筆した部分の発表を行い、コメントを得る。次回までに加筆・修正などを行い、論文のブラッシュアップをする。

11	執筆部分の発表⑥	執筆した部分の発表を行い、コメントを得る。次回までに加筆・修正などを行い、論文のブラッシュアップをする。
12	執筆部分の発表⑦	執筆した部分の発表を行い、コメントを得る。次回までに加筆・修正などを行い、論文のブラッシュアップをする。
13	執筆部分の発表⑧	執筆した部分の発表を行い、コメントを得る。次回までに加筆・修正などを行い、論文のブラッシュアップをする。
14	まとめ	一年間の講評と今後の計画について話し合う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「授業計画」に示した内容を参考に論文執筆の準備を進められたい。機会をみて、学外での研究会や学会に参加し、研究報告を行うことが望ましい。したがって、論文執筆に向けての文献の購読、先行研究の整理、コメントを踏まえての論文の修正などに充てる時間は毎回4時間以上、それ相当の時間を要する。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

出席状況（20%）、課題の提出（30%）、報告内容（50%）をふまえて総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

国際関係論、国際機構論、伝統的・非伝統的安全保障研究、国連研究<研究テーマ>

国際社会による「平和」のための協働と確執、アジア太平洋地域の伝統的・非伝統的安全保障

<主要研究業績>

主な著書として、『国連による『スマート・サンクション』と金融制裁：効果の追求と副次的影響の回避を模索して』『国連の金融制裁：法と実務』（東信堂、2018年）、「平和構築の新たな潮流と『人間の安全保障』：ジェンダー視座の導入に注目して』『東南アジアの紛争予防と『人間の安全保障』』（明石書店、2016年）、「国連による経済制裁と人道上の諸問題：『スマート・サンクション』の模索』（国際書院、2013年）、「北東アジアの『永い平和』：なぜ戦争は回避されたか』（勁草書房、2012年）、「『グローバル・イシュー』としての人権とアジア：新たな国際規範をめぐる国際社会の確執に注目して』『グローバリゼーションとアジア地域統合』（勁草書房、2012年）、「“Smart Sanctions” by United Nations and Financial Sanctions,” United Nations Financial Sanctions (Routledge, 2020), “Coordination challenges for the UN-initiated peace-building architecture Problems in locating ‘universal’ norms and values on the local,” Complex Emergencies and Humanitarian Response (Union Press, 2018), “The Role of UN Sanctions against DPRK in the Search of Peace and Security in East Asia: Focusing on the Implementation of UN Resolution 1874,” East Asia and the United Nations: Regional Cooperation for Global Issues (Japan Association for United Nations Studies, 2010) などがある。執筆した主な教科書として、『国際機構論 活動編』（国際書院、2020年）、『国際機構論 総合編』（国際書院、2015年）、『国際学のすすめ』（東海大学出版会、2013年）などがある。

【Outline and objectives】

This course is designed for the students in the PhD course. Students are expected to acquire academic skills indispensable for writing doctoral thesis and complete the thesis.

POL500A3

政治学特別講義 1

犬塚 元

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学研究や政治思想研究の基礎となるスキルと知識を修得するために、英語で書かれた学術論文を丁寧に輪読する。Zoomを用いたオンライン授業を予定している。（本年度は、隔週で2時限連続開講となります。）

【到達目標】

（1）英語で書かれた学術論文を正確に読解・理解する。（2）政治思想・政治理論研究の基礎知識や基礎的方法論を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

指定文献を少しずつ読解する。各回は、担当者による報告と、ディスカッションによって構成される。報告者のみならず、すべての参加者が文献を精読していることを前提にして授業は行われる。Zoomを用いたオンライン授業を予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の方法と内容
第2回	文献読解	文献1（1）
第3回	文献読解	文献1（2）
第4回	文献読解	文献1（3）
第5回	文献読解	文献1（4）
第6回	文献読解	文献2（1）
第7回	文献読解	文献2（2）
第8回	文献読解	文献2（3）
第9回	文献読解	文献2（4）
第10回	文献読解	文献3（1）
第11回	文献読解	文献3（2）
第12回	文献読解	文献3（3）
第13回	文献読解	文献3（4）
第14回	まとめ	前期の学習の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【参考】大学設置基準に鑑みた場合、準備・復習時間は講義及び演習（2単位）では1回につき4時間以上、実験、実習及び実技（1単位）では1回につき1時間以上が標準となる。

【テキスト（教科書）】

たとえば、The Oxford Handbook of Political Theory (2008)、The Oxford Handbook of the History of Political Philosophy (2013)、The Oxford Handbook of Political Philosophy (2016) などから、受講者の問題関心や研究テーマに即して講読文献を選定する。

【参考書】

使用するテキストに掲載された文献リストを参照。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100点）。

【学生の意見等からの気づき】

受講者のニーズに応じてカスタマイズしたプログラムとします。

【学生が準備すべき機器他】

Zoomに接続するための情報機器。

【その他の重要事項】

他専攻所属の学生の履修可。

【担当教員の専門分野等】

専門領域：政治学史、ヨーロッパ政治思想史

主要研究業績：『デイヴィッド・ヒュームの政治学』（著書）東京大学出版会、2004、『岩波講座政治哲学2』（編著書）岩波書店、2014、ヒューム『自然宗教をめぐる対話』（翻訳）岩波文庫、2020 など

【Outline and objectives】

political thought (special lecture)

POL500A3

政治学特別講義 2

犬塚 元

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学研究、政治思想研究の基礎となるスキルと知識を修得するために、英語で書かれた学術論文を丁寧に輪読する。政治思想・政治理論分野における入門レベルの授業である。Zoomを用いたオンライン授業を予定している。（本年度は、隔週で2時間連続開講となります。）

【到達目標】

（1）英語で書かれた学術論文を正確に読解・理解する。（2）政治思想・政治理論研究の基礎知識や基礎的方法論を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

指定文献を少しずつ読解する。各回は、担当者による報告と、ディスカッションによって構成される。報告者のみならず、すべての参加者が文献を精読していることを前提にして授業は行われる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の方法と内容
第2回	文献読解	文献1（1）
第3回	文献読解	文献1（2）
第4回	文献読解	文献1（3）
第5回	文献読解	文献1（4）
第6回	文献読解	文献2（1）
第7回	文献読解	文献2（2）
第8回	文献読解	文献2（3）
第9回	文献読解	文献2（4）
第10回	文献読解	文献3（1）
第11回	文献読解	文献3（2）
第12回	文献読解	文献3（3）
第13回	文献読解	文献3（4）
第14回	まとめ	前期の学習の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【参考】大学設置基準に鑑みた場合、準備・復習時間は講義及び演習（2単位）では1回につき4時間以上、実験、実習及び実技（1単位）では1回につき1時間以上が標準となる。

【テキスト（教科書）】

たとえば、The Oxford Handbook of Political Theory (2008)、The Oxford Handbook of the History of Political Philosophy (2013)、The Oxford Handbook of Political Philosophy (2016) などから、受講者の問題関心や研究テーマに即して講読文献を選定する。

【参考書】

使用するテキストに掲載された文献リストを参照。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100点）。

【学生の意見等からの気づき】

受講者のニーズに応じてカスタマイズしたプログラムとします。

【担当教員の専門分野等】

専門領域：政治学史、ヨーロッパ政治思想史

主要研究業績：『デイヴィッド・ヒュームの政治学』（著書）東京大学出版会、2004、『岩波講座政治哲学2』（編著書）岩波書店、2014、ヒューム『自然宗教をめぐる対話』（翻訳）岩波文庫、2020 など

【Outline and objectives】
political thought (special lecture)

POL500A3

政治学特別講義 1

山口 二郎

備考（履修条件等）：修士「政治学特殊演習1」と合同開講

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の民主政治において政策が立案、決定、実施される過程を理解するための基本的な理論枠組み、概念を理解する。

【到達目標】

日本の民主政治の特徴を理解することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

講義。

授業を補完するために課題を出しますので、提出してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	序章	冷戦崩壊とグローバル化によって、日本の戦後はどう変わったのかを論じる。
第2回	1 政治とは何か	政治という活動の定義を明らかにする。
第3回	1 政治とは何か2	政府の仕事とは何か、他のシステムとの対比で明らかにする。
第4回	1 市場と政府	市場に対する政府の任務を明らかにする。
第5回	2 政治に参加すること	政治参加と民主主義を論じる。
第6回	2 政治に参加すること	多数決と民主主義の関係について考える。
第7回	3 人間の不完全性と民主政治	人間の不完全性と民主政治－人間の認識におけるステレオタイプと言葉の問題について考える。
第8回	4 民主政治の理念とは何か	政治と生命の関係を考える。
第9回	4 民主政治の理念とは何か2	政治における自由と平等について考える。
第10回	4 民主政治の理念とは何か3	政治における共同体と国家について考える。
第11回	5 民主政治の基本的な原理と構成	民主政治と議会政治について考える。
第12回	5 民主政治の基本的な原理と構成2	民主政治における政党と政治家、官僚制について考える。
第13回	6 政治はどのように展開されるのか	政策形成の動態について観察し、そのメカニズムを明らかにする
第14回	7 民主政治のこれから	これからの民主政治の可能性について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

山口二郎 今を生きるための政治学 岩波書店

【参考書】

文献リストを配布する

【成績評価の方法と基準】

課題レポートと期末レポートの総合による

【学生の意見等からの気づき】

双方向的な議論の時間を確保したい

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムから講義の資料をあらかじめダウンロードしておくこと。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>政治学、行政学

<研究テーマ>現代日本の政策過程、政官関係

<主要研究業績>

内閣制度（東京大学出版会、2007年）

政権交代とは何だったのか（岩波書店、2012年）

【Outline and objectives】

This lecture aims at providing basic theoretical framework and concepts to understand dynamics of modern democracy.

POL500A3

政治学特別講義 2

山口 二郎

備考（履修条件等）：修士「政治学特殊演習2」と合同開講

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカの代表的政治理論家、ロバート・ダールの主著を読むことを通して、現代民主主義に関する理論の探求を行う

【到達目標】

20世紀後半の欧米の政治学における民主主義論について、全体像を把握できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

英文テキストを精読する方式

なお、受講生の関心、能力によって、変更することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	Robert Dahl, Democracy and its Critics, Yale University Press, 1989 Chap 10	英語テキスト訳読と解釈
第2回	Chap 11	英語テキスト訳読と解釈
第3回	Chap 12	英語テキスト訳読と解釈
第4回	Chap 12	英語テキスト訳読と解釈
第5回	Chap 13	英語テキスト訳読と解釈
第6回	Chap 14	英語テキスト訳読と解釈
第7回	Chap 15	英語テキスト訳読と解釈
第8回	Chap 16	英語テキスト訳読と解釈
第9回	Chap 17	英語テキスト訳読と解釈
第10回	Chap 18	英語テキスト訳読と解釈
第11回	Chap 19	英語テキスト訳読と解釈
第12回	Chap 20	英語テキスト訳読と解釈
第13回	Chap 21	英語テキスト訳読と解釈
第14回	Chap 22,23	英語テキスト訳読と解釈

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回事前にテキストを読み、翻訳を準備すること。予習には標準とされる2時間を越える相当な時間が必要となるので覚悟のうえで参加すること。

【テキスト（教科書）】

Robert Dahl, Democracy and its Critics, Yale University Press, 1989

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

授業における課題の遂行状況を評価する

【学生の意見等からの気づき】

受講者の関心によってテキストを追加することもある。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

【Outline and objectives】

This seminar aims at understanding the basic arguments and concepts about contemporary democracy.

POL600A4-1000

国際政治理論

森 聡

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義の目的は、国際政治学に関する基礎知識を修得するとともに、専門知識を体系的に学習するための準備を行うことにある。

複雑さを増してやまない国際社会の諸問題を、広い視野から理解したり説明したりするのに必要な国際政治学や国際関係論と呼ばれる学問分野の基本概念や理解・認識の枠組み（パラダイムないしリサーチ・プログラム）を解説する。現在進行中の国際政治経済、国際安全保障の話題を随時取り上げる。

【到達目標】

次の三つの到達目標を目指して、＜国際政治学ないし国際関係論の主要パラダイム＞について学ぶ。

第一に、国際政治学における基本的な用語・概念や主要なテーマについての知識を身につける。

第二に、国際政治学ないし国際関係論を捉えるための分析枠組みにまつわる諸々のポイントを正確に理解する。

第三に、現実の国際社会の諸事象を、基本的な概念や分析枠組みを使って理解し、諸資料を活用しながら実証的に説明できる初歩的な能力を修得する。

また、2年次以降に、国際政治の専門的なテーマに関する理論を扱う学術論文を正確に理解するための基礎理解力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

春学期は、Zoomによるライブ形式での開講とする。

授業計画を変更する場合には、学習支援システムでその都度告知する。学習支援システムからの授業に関する通知メールを確認されたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	国際政治学のあゆみ	主要パラダイムの概観。学問としての国際政治学の発展の歴史。
2	国際政治学における分析の枠組み	理論とは何か。分析レベルの問題。リサーチ・プログラムとは何か。
3	競争の国際政治—理論編	リアリズムの中核概念。古典的リアリズムとは何か。構造的リアリズムとは何か。攻撃的・防衛的リアリズム。
4	競争の国際政治—事例編	米中対立、米露対立の原因と展開。
5	協調の国際政治—理論編	リベラリズムの中核概念。観念的・商業的・共和的リベラリズムとは何か。ネオリベラル制度論とは何か。ネオ・ネオ論争。リベラリズムへの批判。
6	協調の国際政治—事例編	国際貿易・金融システムの仕組み。気候変動をめぐる国際政治。
7	観念の国際政治—理論編	コンストラクティビズムの中核概念。適切性の論理と結果の論理とは何か。規範と文化に関する諸理論。コンストラクティビズムへの批判。

8	観念の国際政治—事例編	人権と制裁・介入の国際政治。
9	中間レビュー	前半の諸理論の振り返り
10	対外政策の理論—「点」からみる国際政治	対外政策を動かす国内要因を理解する。指導者、政党、利益集団、世論など。
11	対外政策の事例	第三次世界大戦を回避した米ソの危機外交
12	国際秩序の理論—「面」からみる国際政治	国家が共通の規則や制度に拘束されていると考えている時に生まれる国際関係を理解する。
13	国際秩序の事例	冷戦終結後の大国間秩序の変容
14	総括	学期中の主要課題に関する解説・講評を行う。学期末レポート課題の説明など。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は2時間程度を目安とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しない。学習支援システムで講義用資料を配信する。

【参考書】

必要に応じて授業中に示す。以下を購入する義務はないが、要すれば適宜参照されたい。

- ・田中明彦・中西寛編『新・国際政治経済の基礎知識（新版）』、有斐閣ブックス、2004年、2400円。
- ・小笠原高雪・栗栖薫子・広瀬佳一・宮坂直史・森川幸一編『国際関係・安全保障用語辞典』、ミネルヴァ書房、2013年、3000円。
- ・世界地図。

【成績評価の方法と基準】

成績は、レポート課題により評価する予定。

【学生の意見等からの気づき】

- ・毎回、授業の冒頭で、前回後半の講義内容を振り返って、記憶を喚起する。
- ・複雑な概念を扱う際には、二回の講義を利用して説明を行う。

【学生が準備すべき機器他】

講義用アウトライン（見出し入りレジュメ）を学習支援システムにアップロードするので、履修者は各自でそれをダウンロードして、授業に持参するとよい。アウトラインに、授業で使用するパワーポイントや講義の内容を書き込んでいくとよい。

【国際政治学、現代アメリカの対外政策】

<専門領域> 国際政治学、戦後アメリカの外交と安全保障
<研究テーマ> 先端技術と国際政治、パワーシフトと国際秩序、現代アメリカのインド太平洋戦略など

<主要研究業績>

- ・川島真・森聡編著『アフターコロナ時代の米中関係と世界秩序』、東京大学出版会、2020年。
 - ・"US Technological Competition with China: The Military, Industrial and Digital Network Dimensions," *Asia Pacific Review*, Vol.26, No.1 (2019), pp.77-120.
 - ・"U.S. Defense Innovation and Artificial Intelligence," *Asia Pacific Review*, Vol.25, No.2 (Fall 2018), pp.16-44.
 - ・「統合作戦構想と太平洋軍—マルチ・ドメイン・バトル構想の開発と導入」、土屋大洋編著、『アメリカ太平洋軍の研究—インド・太平洋の安全保障』、千倉書房、2018年7月。
 - ・「リベラル国際主義への挑戦—アメリカの二つの国際秩序観の起源と融合」、『レヴァイアサン』第58号（2016年4月）、23-48頁。
 - ・「アメリカのアジア戦略と中国」、北岡伸一・久保文明監修『希望の日米同盟—アジア太平洋の海洋安全保障』、中央公論社、2016年、39-91頁。
 - ・『ヴェトナム戦争と同盟外交—英仏の外交とアメリカの選択 1964-1968年』、東京大学出版会、2009年（日本アメリカ学会清水博賞受賞）。
- など

【Outline and objectives】

This is an introductory course on international politics. The objective of this course is to gain knowledge of basic concepts of international relations in order to lay the foundation for systematically learning advanced theories of international relations. Students would be exposed to the main paradigms or research programs relating to international politics.

POL600A4-1010

アメリカ外交史

森 聡

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカの建国から第二次世界大戦までの政治と外交の歴史について、国内政治上の変化が対外政策にいかなる変化を生じさせたのかを解説する。また、アメリカの対外関与が、いかなる国際的な要因の変化を受けながら射程を広げていったのかを説明する。さらに、資料を活用しながら、重要な歴史的局面における政策転換に作用した諸要因を明らかにする。

【到達目標】

次の到達目標を目指す。第一に、アメリカの政治制度の特徴と由来についての専門的な知識を習得する。第二に、アメリカ外交を国内政治と対外政策との相互連関という視点から理解できる能力を身につける。

また、授業で紹介する資料について、その文脈や位置づけについて考察する能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

学期開始当初は、オンライン（Zoomによるライブ授業）で開始する予定であるが、具体的な授業方法などは、学習支援システムで告知する。学習支援システムの「お知らせ」サイトを随時確認されたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	合衆国憲法の政治制度	連邦制と三権分立。
2	大統領と連邦議会の外交権限	大統領の権限。連邦議会の権限。官僚機構の役割。
3	独立革命	植民地から合衆国憲法の制定まで。
4	フランス革命への対応と1812年の米英戦争	米国内における権力闘争と外交。
5	モンロー・ドクトリン	欧州諸国との駆け引き。
6	南北戦争と対外関係	南北戦争と米国の外交
7	領土拡張と門戸開放政策	西方への拡張。アジアへの関与。
8	革新主義と対アジア政策	ローズヴェルト、タフト、ウィルソンの時代の政治と外交。
9	第一次世界大戦とパリ講話会議	第一次世界大戦への参戦過程と戦後処理。
10	1920年代の共和党政権の内政と外交、中南米での善隣外交	戦間期の政治。ドル外交の展開。
11	大恐慌とニューディール	1930年代の政治。ニューディール連合の結成。
12	1930年代のアジアとヨーロッパ	台頭する日本とドイツへの対応。
13	第二次世界大戦をめぐる外交と戦略	レンド・リース法の制定。戦争準備。日米交渉。
14	戦時体制と終戦外交	第二次世界大戦期の内政と外交。学期中の主要課題に関する解説・講評を行う。学期末レポート課題の説明など。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

斎藤真、古矢旬『アメリカ政治外交史（第二版）』、東京大学出版会、2012年。

斎藤真、久保文明編『アメリカ政治外交史教材・英文資料選（第二版）』、東京大学出版会、2008年。

【成績評価の方法と基準】

成績は、レポート課題により評価する予定。

【学生の意見等からの気づき】

前回の授業のポイントを、今回の講義の冒頭で確認のために解説する。

【現代アメリカ外交、国際政治学】

<専門領域> 国際政治学、戦後アメリカの外交と安全保障

<研究テーマ> 先端技術と国際政治、パワーシフトと国際秩序、現代アメリカのインド太平洋戦略など

<主要研究業績>

・川島真・森聡編著『アフターコロナ時代の米中関係と世界秩序』、東京大学出版会、2020年。

・"US Technological Competition with China: The Military, Industrial and Digital Network Dimensions," *Asia Pacific Review*, Vol.26, No.1 (2019), pp.77-120.

・"U.S. Defense Innovation and Artificial Intelligence," *Asia Pacific Review*, Vol.25, No.2 (Fall 2018), 16-44.

・「統合作戦構想と太平洋軍—マルチ・ドメイン・バトル構想の開発と導入」、土屋大洋編著、『アメリカ太平洋軍の研究—インド・太平洋の安全保障』、千倉書房、2018年7月。

・「リベラル国際主義への挑戦—アメリカの二つの国際秩序観の起源と融合」、『レヴァイアサン』第58号（2016年4月）、23-48頁。

・「アメリカのアジア戦略と中国」、北岡伸一・久保文明監修『希望の日米同盟—アジア太平洋の海洋安全保障』、中央公論社、2016年、39-91頁。

・『ヴェトナム戦争と同盟外交—英仏の外交とアメリカの選択 1964-1968年』、東京大学出版会、2009年（日本アメリカ学会清水博賞受賞）。

など

【Outline and objectives】

This is a lecture course on the history of American politics and diplomacy covering the period from the founding of the nation to the Second World War. It will shed light on how domestic political factors and international factors affected U.S. foreign engagement. Documents will be used from time to time to explain how historically significant decisions were influenced by various factors.

POL600A4-1001

政治理論研究 1

杉田 敦

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治理論上の重要問題について、英語文献を講読し議論することで、知見を深める。

【到達目標】

権力、民主政治など政治理論上の重大な問題について、研究に必要な知識の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

毎回、英語文献を講読して議論する。対面で行う予定だが、感染症の状況次第では遠隔で実施することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	文献講読 1	テキストを読んでディスカッションする 1
第 2 回	文献講読 2	テキストを読んでディスカッションする 2
第 3 回	文献講読 3	テキストを読んでディスカッションする 3
第 4 回	文献講読 4	テキストを読んでディスカッションする 4
第 5 回	文献講読 5	テキストを読んでディスカッションする 5
第 6 回	文献講読 6	テキストを読んでディスカッションする 6
第 7 回	文献講読 7	テキストを読んでディスカッションする 7
第 8 回	文献講読 8	テキストを読んでディスカッションする 8
第 9 回	文献講読 9	テキストを読んでディスカッションする 9
第 10 回	文献講読 10	テキストを読んでディスカッションする 10
第 11 回	文献講読 11	テキストを読んでディスカッションする 11
第 12 回	文献講読 12	テキストを読んでディスカッションする 12
第 13 回	文献講読 13	テキストを読んでディスカッションする 13
第 14 回	文献講読 14	テキストを読んでディスカッションする 14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自が必要とする時間を用いて、事前にテキストを熟読し、事後に論点を整理する。

【テキスト（教科書）】

その都度指定する。

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

参加状況、知識の獲得状況を総合的に判断し、平常点100点。

【学生の意見等からの気づき】

今後、アンケートをふまえて対応する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>政治学
<研究テーマ>政治理論
<主要研究業績>
『権力論』、『境界線の政治学 増補版』（いずれも岩波現代文庫）

【Outline and objectives】

This class aims to help you have advanced knowledges in political theory through reading academic literature in English.

POL600A4-1002

政治理論研究 2

杉田 敦

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治理論上の重要問題について、英語文献を講読し議論することで、知見を深める。

【到達目標】

権力、民主政治など政治理論上の重大な問題について、研究に必要な知識の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

毎回、英語文献を講読して議論する。対面で行う予定であるが、感染症の状況次第では、遠隔に切り替える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	文献講読 1	テキストを読んでディスカッションする 1
第 2 回	文献講読 2	テキストを読んでディスカッションする 2
第 3 回	文献講読 3	テキストを読んでディスカッションする 3
第 4 回	文献講読 4	テキストを読んでディスカッションする 4
第 5 回	文献講読 5	テキストを読んでディスカッションする 5
第 6 回	文献講読 6	テキストを読んでディスカッションする 6
第 7 回	文献講読 7	テキストを読んでディスカッションする 7
第 8 回	文献講読 8	テキストを読んでディスカッションする 8
第 9 回	文献講読 9	テキストを読んでディスカッションする 9
第 10 回	文献講読 10	テキストを読んでディスカッションする 10
第 11 回	文献講読 11	テキストを読んでディスカッションする 11
第 12 回	文献講読 12	テキストを読んでディスカッションする 12
第 13 回	文献講読 13	テキストを読んでディスカッションする 13
第 14 回	文献講読 14	テキストを読んでディスカッションする 14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自が必要とする時間を用いて、事前にテキストを熟読し、事後に論点を整理する。

【テキスト（教科書）】

その都度、指定する。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

参加状況、知識の獲得状況を総合的に判断し、平常点100点。

【学生の意見等からの気づき】

今後、アンケートをふまえて対応する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>政治学
<研究テーマ>政治理論
<主要研究業績>
『権力論』、『境界線の政治学 増補版』（いずれも岩波現代文庫）

【Outline and objectives】

This class aims to help you have advanced knowledges in political theory through reading academic literature in English.

POL600A4-1005

国際公共政策研究 1

坂根 徹

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この国際公共政策研究1では、「グローバル・リージョナルな国際公共政策：Global and Regional International Public Policy」をテーマとする。そして以下の諸項目で記載した要領で学んでいくことを通して、標記のテーマに関して、関連の専門知識を得るとともに、政策的思考力も涵養していくことを目的とする。

【到達目標】

本科目の到達目標は、国際公共政策について、グローバル・リージョナルな見地から理解を深めた上で、各自が関心を持つ具体的なテーマや課題について調査研究を行い、その考察結果を発表し議論するとともに文章にまとめることができるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

まずガイダンスで、本科目のテーマや進め方について説明した後、各自の問題関心や関連科目・文献等の既習状況を確認する。そして、国際公共政策に関して全般的な説明を行い、これを歴史的視点からみていく。その後、国際公共政策の推進主体としてよく取り上げられる国連システム・EUと、推進する上で必要となる資金・人材という代表的な資源について検討する。また、履修者が各自の関心に基づき選定したテーマについて、調査研究を行い、その中間及び最終結果を発表して議論するとともに、レポートを完成させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本科目のテーマや進め方について説明した後、各自の問題関心を述べる
2	国際公共政策	グローバル・リージョナルな国際公共政策の概説についての検討
3	国際公共政策の歴史	国際公共政策の史的展開の概説
4	調査研究テーマの選定	調査研究テーマについての各自の説明を踏まえた選定
5	調査研究テーマの中間発表に向けての検討	各自の調査研究テーマに関する中間発表に向けての検討
6	国際公共政策の推進主体	国連システムについての検討
7	国際公共政策の推進主体	EUについての検討
8	調査研究テーマの中間発表	各自の調査研究テーマに関する進捗状況についての中間発表
9	調査研究テーマの最終発表に向けての検討	各自の調査研究テーマに関して中間発表を踏まえて最終発表に向けての検討
10	国際公共政策の必要資源	資金についての検討
11	国際公共政策の必要資源	人材についての検討
12	調査研究テーマの最終発表	各自の調査研究テーマに関する最終発表
13	調査研究テーマの議論	各自の調査研究テーマに関して最終発表を受けての議論

14 調査研究テーマの議論 各自の調査研究テーマに関して最終発表を受けてレポート完成に向けての検討や全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回授業テーマの学習に加えて、特に調査研究発表とレポート提出に向けての事前準備にまとまった時間を充ちてしっかり行うこと。本授業の準備・復習に要する時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

福田耕治・坂根徹『国際行政の新展開：国連・EUとSDGsのグローバル・ガバナンス』法律文化社、2020年。

【参考書】

開講時やその後の授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度（出席等）・平常点を50%、発表・レポートを50%として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【学生が準備すべき機器他】

該当なし。

【その他の重要事項】

上記の授業計画は、実際の授業の進捗、履修生の数や関心テーマ等により修正・変更されることがある。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>国際公共政策・国連研究・行政学等

<研究テーマ>国際公共政策・国連システムの行財政・国際行政・調達行政等

<研究業績の例（単著論文から3篇を抜粋）>

・「国連システム諸機関の財政の変容—加盟国からの財政収入に焦点を当てた分析」（日本国際連合学会編『変容する国際社会と国連』国連研究第20号、国際書院、2019年に所収）

・「国連PKOの財政支出構造と政府・企業からの調達」（日本国際連合学会編『日本と国連—多角的視点からの再考』国連研究第13号、国際書院、2012年に所収）

・“Public Procurement in the United Nations System” (in Khi V. Thai ed., International Handbook of Public Procurement, Taylor and Francis, 2008)

【Outline and objectives】

Main theme of this course (International Public Policy 1) is to learn and consider about global and regional international public policy. By taking this course, students are expected to acquire related specialized knowledge and also foster the ability to consider and analyze various policies.

POL600A4-1006

国際公共政策研究 2

坂根 徹

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この国際公共政策研究2では、「国際公共政策分野：International Public Policy Areas」をテーマとする。そして以下の諸項目で記載した要領で学んでいくことを通して、標記のテーマに関して、関連の専門知識を得るとともに、政策的思考力も涵養していくことを目的とする。

【到達目標】

本科目の到達目標は、国際公共政策について、複数の政策分野を取り上げ理解を深めた上で、各自が関心を持つ具体的なテーマや政策分野について調査研究を行い、その考察結果を発表し議論するとともに文章にまとめることができるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

まずガイダンスで、本科目のテーマや進め方について説明した後、各自の問題関心や関連科目・文献等の既習状況を確認する。そして、具体的な国際公共政策分野について関係する国連システム諸機関に注目して日本との関係を含めて検討する。また、履修者が各自の関心に基づき選定したテーマについて、調査研究を行い、その中間及び最終結果を発表して議論するとともに、レポートを完成させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本科目のテーマや進め方について説明した後、各自の問題関心を述べる
2	国際公共政策分野	持続可能な開発 (SDGs) 政策についての検討
3	国際公共政策分野	地球環境・エネルギー政策についての検討
4	調査研究テーマの選定と検討	調査研究テーマの選定と調査の進め方の検討
5	調査研究テーマの中間発表に向けての検討	各自の調査研究テーマに関する中間発表に向けての検討
6	国際公共政策分野	防災・人道・危機管理政策についての検討
7	国際公共政策分野	国際安全保障政策についての検討
8	調査研究テーマの中間発表	各自の調査研究テーマに関する進捗状況についての中間発表
9	調査研究テーマの最終発表に向けての検討	各自の調査研究テーマに関して中間発表を踏まえて最終発表に向けての検討
10	国際公共政策分野	国際保健衛生政策についての検討
11	国際公共政策分野	国際教育・文化・電気通信政策についての検討
12	調査研究テーマの最終発表	各自の調査研究テーマに関する最終発表
13	調査研究テーマの議論	各自の調査研究テーマに関して最終発表を受けての議論
14	調査研究テーマの議論の継続と全体のまとめ	各自の調査研究テーマに関して最終発表を受けてレポート完成に向けての検討や全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回授業テーマの学習に加えて、特に調査研究発表とレポート提出に向けての事前準備にまとまった時間を充ちてしっかり行うこと。本授業の準備・復習に要する時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

福田耕治・坂根徹『国際行政の新展開：国連・EUとSDGsのグローバル・ガバナンス』法律文化社、2020年。

【参考書】

開講時やその後の授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度（出席等）・平常点を50%、発表・レポートを50%として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【学生が準備すべき機器他】

該当なし。

【その他の重要事項】

上記の授業計画は、実際の授業の進捗、履修生の数や関心テーマ等により修正・変更されることがありうる。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>国際公共政策・国連研究・行政学等

<研究テーマ>国際公共政策・国連システムの行財政・国際行政・調達行政等

<研究業績の例（単著論文から3篇を抜粋）>

・「国連システム諸機関の財政の変容—加盟国からの財政収入に焦点を当てた分析」（日本国際連合学会編『変容する国際社会と国連』国連研究第20号、国際書院、2019年に所収）

・「国連PKOの財政支出構造と政府・企業からの調達」（日本国際連合学会編『日本と国連—多面的視点からの再考』国連研究第13号、国際書院、2012年に所収）

・“Public Procurement in the United Nations System” (in Khi V. Thai ed., International Handbook of Public Procurement, Taylor and Francis, 2008)

【Outline and objectives】

Main theme of this course (International Public Policy 2) is to learn and consider about international public policy areas. By taking this course, students are expected to acquire related specialized knowledge and also foster the ability to consider and analyze various policies.

POL600A4-1007

国際協力政策研究 1

武貞 稔彦

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義のテーマは貧困削減のための国際協力、開発援助のありようである。SDGs（持続可能な開発目標）に示されているように、戦後国際社会の大きな課題の一つ「貧困」に立ち向かうために行われている営みである開発援助や国際協力は、どのような動機や意図をもって行われ、どのような効果をこれまでもたらしてきたかを検討し、将来の国際協力のあり方、さらには国際社会のあり方についても議論する。

【到達目標】

授業の到達目標は、(1) 現代の国際社会の中で行なわれる様々な国際協力や援助、特に、貧困、開発、環境をめぐる国際協力や援助の歴史と制度について基礎的な知識を獲得すること、(2) 国際協力や援助をめぐる現代の主要なトピックに関する基礎的な知識を獲得すること、および、(3) 誰が何のためにどのような国際協力や援助を行なっているのか、について批判的に見る目を養うことである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

各回の講義は、①教員による講義、②基本的な文献に関する学生の報告、③ディスカッションで構成する。事前に指定された文献を読んで各回の授業に参加することが必須であり、予習に十分な時間を割くことが必要となる。ただし、講義の方法や内容については、受講者の数や関心などに応じて変更する可能性がある。

報告対象とする文献については、2021年度秋学期開始前に学習支援システム（Hoppii）を通じて通知／配布予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期前半

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 国際協力はなぜ行なわれるのか	国際協力という取り組みが必要とされる理由や背景—途上国の貧困と先進国との格差—について概観する
第2回	国際協力をめぐる歴史と制度 (1) 経済成長と国際協力	第二次世界大戦後の国際社会秩序形成と、その後 1970 年代までの国際協力の取り組みを、国際社会の政治／歴史の文脈に位置づけて概観する。
第3回	国際協力をめぐる歴史と制度 (2) 経済成長路線から人間開発路線へ	1980 年代、90 年代の国際協力の変遷をたどり、基本的な考え方／取り組みの重点の変化を概観する。
第4回	国際協力をめぐる歴史と制度 (3) 環境と持続可能な開発	2000 年代以降の国際協力の変遷を国際社会における課題設定や変動の中に位置づける
第5回	日本による国際協力	日本による国際協力の歴史と制度について概観する。そのうえで、その成果および評価を検討する。
第6回	「開発」とは何か：開発と文化、社会科学	現在すすめられている開発の到達目標（行き着く先）について文化や社会科学の方法論の観点も含め批判的に検討する。
第7回	アフリカ	国際協力における近年の「大きな課題（問題）」であるアフリカについて、何が「問題」となっているのか、その由来や対応を含めて概観する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

斎藤文彦『国際開発論』（日本評論社）、下村恭民他『国際協力』（有斐閣）、外務省『日本の経済協力』（ODA 白書）を基本書とします。他は適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、期末レポート（50%）、各回の担当報告の内容（30%）、授業やディスカッションへの貢献（20%）を総合的に判断して行う。

【学生の意見等からの気づき】

過去には議論の時間の充実（拡大）を求める声があったことから、授業運営には留意することとする。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 開発の自然環境・社会環境への影響、開発援助、開発と倫理
<研究テーマ> 「望ましい（望ましくない）「開発」とは何か」「ダム建設に伴う立ち退きと補償、生活再建」

<主要研究業績>

"Japanese Experience of Involuntary Resettlement: Long-Term Consequences of Resettlement for the Construction of the Ikawa Dam," *International Journal of Water Resources Development*, Routledge, Vol. 25, Issue 3, September 2009, pp. 419- 430.

『開発介入と補償：ダム立ち退きをめぐる開発と正義論』勁草書房 2012 年、"Participation and diluted stakes in river management in Japan: the challenge of alternative constructions of resource governance" in Sato, J. ed., *Governance of Natural Resources: Uncovering the social purpose of materials in nature*. United Nations University Press, pp.141-161, July 2013

【実務経験のある教員による授業】

担当者は、途上国への経済協力に携わっていた経験がある。本講義においては、途上国駐在も含めた経済協力実務で得られた知見が活用されている。

【Outline and objectives】

This course is an advanced course for International Development and Development Assistance. Development is one of the global issues in the current world as shown in the Sustainable Development Goals (SDGs). International Development Assistance has been perceived not only as a strong tool for development of many societies and/or economies but also as a way to strengthen world peace. The class consists of lectures and readings focusing on the history and the objectives of international development efforts and relationship between rich countries and poor countries putting a special emphasis on Japan's role in the international society.

Completing the course, students are expected;

- 1) to acquire basic knowledge on history and institutions in international development efforts,
- 2) to acquire basic knowledge on current/important issues in international development, and
- 3) to critically analyze who engages in international development efforts and why.

POL600A4-1012

非伝統的安全保障研究

本多 美樹

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、現在の国際社会を理解するうえで不可欠な「非伝統的安全保障研究」の最前線について学ぶ。非伝統的安全保障研究とは、多くは非軍事的ではあるが、国家や人にとって「安全を脅かす」とみなされる事象について、事象の性質を見極めたうえで、どのような視点から分析できるかを考察する研究分野である。主権国家を単位とする近代の国際社会において、安全保障はもともと重要視される価値のひとつであるが、その概念はもともと状況依存的であることから、国際秩序の状況に応じて対象となる問題領域は変化してきた。とくに冷戦後は、経済危機、環境、難民・避難民、感染症などが安全保障上の重要な問題として顕在化したことによって安全保障をめぐる概念は多義化し、民主主義、人権、責任などの価値の広がりや背景に大きく変容してきた。授業では、変容してきた安全保障概念について整理した後、「誰が誰をどのような脅威からどう守るのか」という点に注目して、非軍事的で越境的な脅威とそれらに取り組み国際社会がどのように研究されてきたのかを考察する。

【到達目標】

- ・変容する安全保障概念について理解する。
- ・非伝統的安全保障問題の分析方法について学ぶ。
- ・非伝統的安全保障を扱った研究論文を通じて、現在の安全保障研究の最前線を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

担当教員が理論の整理などを行ったあと、受講生がそれぞれ関心のある非伝統的安全保障問題を選択し、報告を行い、議論を持つ。事前の文献購読（英書）を必須とする。

対面での授業を予定しているが、新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては zoom で授業を行う可能性もある。詳しくは、Hoppii でお知らせする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方と講読文献についての説明
第2回	安全保障概念の変遷	安全保障概念の多義化と再構築への試み
第3回	非伝統的安全保障とは何か	非伝統的安全保障問題と研究の系譜
第4回	非伝統的安全保障問題へのアプローチ I	理論と方法①
第5回	非伝統的安全保障問題へのアプローチ II	理論と方法②
第6回	民族紛争と安全保障	理論と事例
第7回	貧困と経済の安全保障	理論と事例
第8回	環境と安全保障	理論と事例
第9回	食糧と安全保障	理論と事例
第10回	エネルギーと安全保障	理論と事例
第11回	人の移動と安全保障	理論と事例
第12回	グローバル・ヘルスと安全保障	理論と事例
第13回	組織犯罪と安全保障	理論と事例
第14回	テロリズムと安全保障	理論と事例

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に指定された文献を必ず購読してから授業に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

Mely Caballero-Anthony, "Negotiating Governance on Non-Traditional Security in Southeast Asia and Beyond" (Columbia Univ Press, 2018)

【参考書】

Barry Buzan, Ole Wæver, and Jaap De Wilde, "Security: A New Framework for Analysis" (Lynne Rienner Publishers, 1997), Mely Caballero-Anthony, "An Introduction to Non-Traditional Security Studies: A Transnational Approach" (SAGE Publications, 2016), 篠田英朗『国際社会の秩序』（東京大学出版、2007年）。その他、授業内で随時、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

発表報告（40%）、議論への参加（10%）と期末レポート（50%）から総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

関連科目として、「地球規模課題政策研究」を秋学期に開講する。「地球規模課題政策研究」は、国家や国際機構、市民社会などのさまざまなアクターがグローバル・イシューを解決するために取り組んでいる政策と実践について、国際機構論の視点から考察するものである。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

国際関係論、国際機構論、伝統的・非伝統的安全保障研究、国連研究

<研究テーマ>

国際社会による「平和」のための協働と確執、アジア太平洋地域の

伝統的・非伝統的安全保障

<主要研究業績>

主な著書として、「国連による『スマート・サンクション』と金融制裁：効果の追求と副次的影響の回避を模索して」『国連の金融制裁：法と実務』（東信堂、2018年）、「平和構築の新たな潮流と『人間の安全保障』：ジェンダー視座の導入に注目して」『東南アジアの紛争予防と『人間の安全保障』』（明石書店、2016年）、「国連による経済制裁と人道上の諸問題：『スマート・サンクション』の模索」（国際書院、2013年）、「北東アジアの『永い平和』：なぜ戦争は回避されたか」（勁草書房、2012年）、「『グローバル・イシュー』としての人権とアジア：新たな国際規範をめぐる国際社会の確執に注目して」『グローバル・イシューとアジア地域統合』（勁草書房、2012年）、「“Smart Sanctions” by United Nations and Financial Sanctions,” United Nations Financial Sanctions (Routledge, 2020), “Coordination challenges for the UN-initiated peace-building architecture Problems in locating ‘universal’ norms and values on the local,” Complex Emergencies and Humanitarian Response (Union Press, 2018), “The Role of UN Sanctions against DPRK in the Search of Peace and Security in East Asia: Focusing on the Implementation of UN Resolution 1874,” East Asia and the United Nations: Regional Cooperation for Global Issues (Japan Association for United Nations Studies, 2010) などがある。執筆した主な教科書として、『国際機構論 活動編』（国際書院、2020年）、『国際機構論 総合編』（国際書院、2015年）、『国際学のすすめ』（東海大学出版会、2013年）などがある。

【Outline and objectives】

Who secures safety of whom from what kinds of threats and how? – Concept of security has changed with the times. The objective of this course is to know the changes in security concepts from the historical perspective and to learn "securitization theory." With the end of the Cold War era, the international community met the decrease in interstate conflicts but the increase in intrastate conflicts originated from religious/ethnic frictions. And states have faced newly-emerged threats, so-called non-military issues or "non-traditional" security issues which include infectious diseases, environment degradation, and displaced persons. States recognize those non-traditional issues as "threats" to their national safety, and politicize them, and then securitize them by formulating national policies. This course analyzes non-traditional issues by using securitization theory to know usefulness and limitations of the theory.

POL600A4-0100

Academic Reading (初級)

アラン メドウズ

実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This lower-level graduate course aims to help students acquire the skills needed to be able to read texts related to Global Politics in English with increasing levels of efficiency, comprehension and critical judgement.

【到達目標】

Although the main focus will be on reading, the course will enable students to develop all four language skills: speaking, listening, writing and reading.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」「DP2」は特に強く関連、「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

The course is thematically organised, thereby enabling concepts, topics and vocabulary to be recycled and reinforced. A wide variety of sources, including magazine and newspaper articles, essays and papers published in academic journals will be studied. The aim throughout will be to boost academic reading and critical thinking skills, together with the acquisition, and active use of, the academic vocabulary necessary to function at this level of study. Interaction with classmates in pair, small group and whole class activities will offer ample opportunity to exchange information and opinions. Students will also undertake reading exercises leading to a variety of oral and written assignments to be submitted throughout the course.

* Important: Depending upon the COVID-19 situation, part or all of this course may be conducted online. As such, this syllabus is flexible and changes may occur. It is your responsibility to check for updates and announcements both (i) on the course page within Hoppii, and (ii) in emails sent to your registered email address.

If classes are conducted online, Zoom will be the main platform used. Students will need a device that is connected to the internet and familiarity with Zoom protocol.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	Course Orientation and Introductions	Overview of course.
2	How to be an Active Reader	Advice on practical reading skills. Introduction to the Academic Word List.
3	Reading Theme I: Learning Styles	Reading based on analysis of different learning styles.
4	Reading Theme II: College Life	Readings based on overseas student life at universities in the English speaking world.
5	Reading Theme II: College Life (continued)	Readings based on overseas student life at universities in the English speaking world
6	Reading Theme III: Political Science	Readings on issues related to Political Science

7	Reading Theme IV: Environmental Science	Readings on issues related to Environmental Science.
8	Reading Theme: To be announced	Reading on a global political issue.
9	Reading Theme: To be announced	Reading on a global political issue.
10	Reading Theme: To be announced	Reading on a topical global political issue.
11	Reading Theme: To be announced	Reading on a topical global political issue.
12	Reading Theme: To be announced	Reading on a topical global political issue.
13	Make-up Class (if necessary)	Reading on a topical global political issue.
14	Make-up class (if necessary)	Reading on a topical global political issue

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

There is no set text for this course.

【参考書】

Materials will be provided by the instructor or accessible via the internet or through the university library / bookshop.

【成績評価の方法と基準】

Grades will be based on a combination of attendance, attitude, in-class quizzes and the quality of the submitted work, both oral and written.

Further details relating to the grading criteria will be provided during the first lesson.

Students are expected to play an active role in all aspects of this class in order to foster and maintain an academically challenging environment throughout the course.

【学生の意見等からの気づき】

None

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

English Language Education.
Environmental Politics.

<研究テーマ>

Environmental Politics

<主要研究業績>

The International Politics of Whaling

POL600A4-0101

Academic Reading（上級）

ザヘル・ハスン

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This higher-level graduate course aims to help students improve the skills needed to be able to read texts related to Global Politics in English with increasing levels of efficiency, comprehension and critical judgement.

【到達目標】

The main focus is to improve student's reading comprehension, critical thinking skills regarding the content and vocabulary development through interaction with increasingly complex reading material.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」「DP2」は特に強く関連、「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

The course will attempt to utilize and improve all four language skills to increase comprehension and vocabulary development through interaction with increasingly complex reading material. The course is thematically organised, thereby enabling concepts, topics and vocabulary to be recycled and reinforced. A wide variety of media, including magazine and newspaper articles, essays and papers published in academic journals and web-based material will be utilized and studied with the aim of boosting academic reading and critical thinking skills, along with vocabulary acquisition. Interaction with classmates in pair work, small group and whole class activities will offer ample opportunities to exchange information and opinions in an interactive manner. Reading circles will be used for discussions based on reading material with group member having various responsibilities to perform.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	Course Orientation	Explanation of course content and introductions
第2回	Presentation/Debate simulation	Debate and presentation principles
第3回	Preparation for Debate	Preparation and research for debate
第4回	Proposals in Debate and Negotiation	Proposals and the debate process
第5回	Bargaining and Presentation	Bargaining and presentation of debate results
第6回	Debate Topic I	Debate Topic I - Preparation stage
第7回	Debate Topic I (continued)	Debate Topic I - Debate stage
第8回	Debate Topic I (continued)	Debate Topic I - Proposal stage
第9回	Debate Topic I (continued)	Debate Topic I - Final Bargain and Presentations
第10回	Global Politics Reading Theme II	Action Plans and global and local problems

第 11 回	Global Politics Reading Theme II (continued)	Action Plans and global and local problems
第 12 回	Global Politics Reading Theme II (continued)	Action Plans and global and local problems
第 13 回	Global Politics Reading Theme II (continued)	Action Plans and global and local problems
第 14 回	Global Politics Reading Theme II Final Presentations Final Essay exam	Action Plans and global and local problems Final exam and course feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

There is no set text for this course

【参考書】

Relevant materials will be provided by the instructor in the early stages of the course. Students will be responsible for gathering and organizing their own research materials as the course proceeds.

【成績評価の方法と基準】

30% Advanced academic reading and negotiation.

20% Action Plans on global and local problems

30% Active class participation and homework.

20% Final Essay Exam

【学生の意見等からの気づき】

This course will focus on cooperative learning. Students will research and prepare papers, action plans and presentations on various topics and learn from each other.

POL600A4-0102

Thesis Writing（初級）

アラン メドウズ

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is the lower-level GSGP Thesis Writing course.

【到達目標】

The course aims to help students acquire the fundamental skills needed to write an academic thesis in English

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」「DP2」は特に強く関連、「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

This lower-level graduate course will enable students to become familiar with the fundamentals of the writing process: from brainstorming and note-making, through the organisational stages to the final editing and proofreading of a completed piece of work. During the course, students will be expected to hone their writing skills by submitting regular summaries and discussion documents on topical global political issues. Regular 'language clinics' will help to minimize common organizational, grammatical and stylistic errors. Most of the actual writing will be done outside of the classroom, with time set aside during the lessons for discussion, peer group evaluation and a variety of other activities.

* Important: Depending upon the COVID-19 situation, part or all of this course may be conducted online. As such, this syllabus is flexible and changes may occur. If online, Zoom will be the main platform used. Students will need a device that is connected to the internet and familiarity with Zoom protocol.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	Course Orientation	Explanation of the course requirements and self-introductions.
2	The Writing Process I	Narrowing down a topic and writing an outline.
3	The Writing Process II	Writing the introduction. Working on the thesis statement.
4	The Writing Process III	Writing the conclusion
5	Paragraph Structure I	Unity within a paragraph.
6	Paragraph Structure II	Unity between paragraphs.
7	Supports I	Illustrative examples.
8	Supports II	Paraphrasing.
9	Supports III	Summarising.
10	Supports IV	Quotations.
11	Supports V	Facts and statistics. In-text citations and the bibliography.
12	Academic Style I	Formality
13	Academic Style II	Hedging and tentative language
14	Academic Style III Course Wrap up	Synonyms and modal verbs.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

There is no set text for this course.

【参考書】

Relevant materials will be provided by the instructor.

【成績評価の方法と基準】

60% Classwork, in-class quizzes and homework assignments
40% Report

Students are expected to play an active role in all aspects of this class in order to foster and maintain an academically challenging environment throughout the course.

【学生の意見等からの気づき】

None

【その他の重要事項】

This syllabus is flexible and subject to change in line with the ability level and particular needs of the students, as assessed by the instructor.

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

English Language Education.

Environmental Politics.

<研究テーマ>

Environmental Politics

<主要研究業績>

The International Politics of Whaling

POL600A4-0103

Thesis Writing（上級）

ザヘル・ハスン

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This higher-level graduate course will guide students from the fundamentals of the writing process; pre-writing including brainstorming and note-making, paragraph structure, and concepts of unity and coherence to more complex written structures; paraphrasing and summarizing and argumentation.

【到達目標】

The goal of this course is to help students expand and formalize the skills needed to write an academic thesis in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」「DP2」は特に強く関連、「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

During the course, students will be expected to develop their writing skills by submitting regular summaries and discussion documents on topical global political issues. Grammatical mini-clinics will attempt to minimize common stylistic, grammatical and organizational errors. Much of the actual writing will be done outside of the classroom, with time set aside during the lessons for discussion, self and peer group evaluation and a variety of other activities.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Course Orientation	Overview of the course and self-introductions
第 2 回	Pre-writing	Topic generation and brainstorming
第 3 回	Writing the Introduction	The Thesis Statement
第 4 回	Paragraph Structure	Review of the three parts of a paragraph
第 5 回	Unity and Coherence	How to unify the content within a paragraph
第 6 回	Supporting Details	How to find and explain facts quotations and statistics
第 7 回	Facts vs. Opinions	How to decide what is fact and what is opinion
第 8 回	Paraphrasing and Quotations	The differences between paraphrasing and quoting
第 9 回	Summarizing	How to state the main idea in your own words
第 10 回	Argumentation	Investigating collecting generating and evaluating evidence
第 11 回	Types of sentences	Writing dependent and independent clauses
第 12 回	Parallel Structures	Showing how two or more ideas have the same level of importance
第 13 回	Opposition Clauses	Focusing on adverb clauses showing unexpected results

第14回 Participial Phrases How to make your sentences
Course Review and more powerful and richer
Evaluation Summary of ideas covered and
individual conferences

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

There is no set text for this course

【参考書】

Relevant materials will be provided by the instructor in the early stages of the course. Students will be responsible for gathering and organizing their own research materials as the course proceeds.

【成績評価の方法と基準】

Grades will be based on a combination of attendance, in-class participation, and the quality of in-class and submitted written work. Further details relating to the grading criteria will be announced during the first class.

The final Thesis product will comprised 50% of the final grade

【学生の意見等からの気づき】

This course will focus on cooperative learning. Students will research and prepare debates and presentations on various topics and learn from each other.

The syllabus is flexible and subject to change. The choice of topics to be studied may change in line with the particular interests of the students. Please be aware of such changes along with date for homework assignments and in-class activities and quizzes.

POL600A4-0104

Presentation & Debate（初級）

アラン メドウズ

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is the lower-level GSGP Presentation and Debate course. The course will present students with a range of topical global issues that lend themselves to discussion, debate and formal presentations. It is designed to give students the ability to identify, analyze, explain, summarize and evaluate the key arguments that underpin a variety of global political issues. Practical advice will be given on how to give academic presentations. Students will learn the mechanics of debate and how to hone their analytical and delivery skills so as to more effectively defend their case within an academically challenging environment.

【到達目標】

This course aims to develop students' presentation and debating skills so that they are able to exchange opinions and enhance critical thinking and reasoned decision making abilities. The focus will be on building, presenting and evaluating arguments.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」「DP2」は特に強く関連、「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

A variety of topical issues related to global politics will be examined, with students given the opportunity to investigate topics related to their own particular interests as the course progresses. Students will be offered guidance in their research and information gathering activities, instruction in using appropriate language and delivery techniques, and help in developing their critical listening and evaluation skills.

By the end of the course students will have an improved understanding of the procedures and constrictions of making academic presentations and should be able to conduct debates with increased confidence and effectiveness.

* Important: Depending upon the COVID-19 situation, part or all of this course may be conducted online. As such, this syllabus is flexible and changes may occur. If online, Zoom will be the main platform used. Students will need a device that is connected to the internet and familiarity with Zoom protocol.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	Course Orientation	Explanation of the course requirements and self-introductions.
2	Key Presentation and Debate Skills	Voice control, body language, content. Organizing, explaining and supporting opinions. Challenging supports and organizing your refutation.
3	News briefs (1)	Presentation on a topical news story in the field of global politics.

4	News briefs (2)	Presentation on a topical news story in the field of global politics.
5	Case Study	Examination of the arguments relating to a debate topic to be decided in consultation with the students.
6	Case Study	Continuation of the previous lesson.
7	In-class Debate	Debate.
8	Presentation and/or Debate	Topic to be decided in consultation with students.
9	Presentation and/or Debate	Topic to be decided in consultation with students.
10	Presentation and/or Debate	Topic to be decided in consultation with students.
11	Presentation and/or Debate	Topic to be decided in consultation with students.
12	Presentation and/or Debate	Topic to be decided in consultation with students.
13	Presentation and/or Debate	Continuation of previous lessons.
14	Course wrap up	Reflection of progress made during the course

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

There is no set text for this class.

【参考書】

All necessary materials will be provided by the instructor. More information will be given during the course orientation.

【成績評価の方法と基準】

A total of two graded presentations and two graded debates each worth a maximum of 20% =80%.

Class participation 20%.

Students are expected to play an active role in all aspects of this class in order to foster and maintain an academically challenging environment throughout the course.

【学生の意見等からの気づき】

None.

【その他の重要事項】

Note: This syllabus is flexible and subject to change. The amount of time needed for the class to complete assignments and each round of presentations and debates is difficult to predict. Stay alert in class for precise dates for assignments.

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

English Language Education.

Environmental Politics.

<研究テーマ>

Environmental Politics

<主要研究業績>

The International Politics of Whaling

POL600A4-0105

Presentation & Debate（上級）

ザヘル・ハスン

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This higher-level graduate course aims to help students practice fluency, formulate and exchange opinions and enhance critical thinking and reasoned decision making skills through the study of debate and presentation.

【到達目標】

For students to develop critical thinking skills regarding the global political environment. Cooperative learning will be a main focus with students learning about various content areas from each other. Teamwork, autonomy, and research skills will be developed.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」「DP2」は特に強く関連、「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

A variety of topical issues related to Global Politics will be examined, with students given the opportunity to investigate topics related to their own particular interests as the course progresses. In the early stages of the course, students will prepare for the debate process through topic identification, research into that topic, both for and against a position, write either affirmative or negative case positions and anticipate problems with their positions and then present their position in formal class debates and presentations. Following the debates, specific proposals will be written, discarding some of the weaker aspects of their position and incorporating some of the stronger aspects of the opposition. Finally, formalized debates will take place with a goal of seeking a solution agreeable to the interests of both parties.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	Course Orientation	Explanation of course content and introductions
第2回	Presentation 1	Three greatest accomplishments
第3回	Presentation 1 (cont.)	Three greatest accomplishments
第4回	Presentation 2 preparation	Future Nobel Peace Prize winners
第5回	Presentation 2	Future Nobel Peace Prize winners
第6回	Presentation 2 (cont.)	Future Nobel Peace Prize winners
第7回	Persuasive Presentations	Persuasive presentations introduction
第8回	Persuasive Presentations (cont.)	Persuasive presentations
第9回	Persuasive Presentations (cont.)	Persuasive presentations
第10回	Problem solving presentations	Problem solving presentations

第 11 回	Problem solving presentations (cont.)	Problem solving presentations
第 12 回	Problem solving presentations (cont.)	Problem solving presentations
第 13 回	Final Presentation Preparation	Final Presentation Preparation
第 14 回	Final Presentations	Final Presentations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

There is no set text for this course.

【参考書】

Relevant materials will be provided by the instructor in the early stages of the course. Students will be responsible for gathering and organizing their own research materials as the course proceeds.

【成績評価の方法と基準】

20% First In-Class debate and presentation.
20% Second In-Class debate and presentation.
20% Third In-Class debate and presentation.
20% Fourth In-Class debate and presentation.
20% Active class participation and homework.

【学生の意見等からの気づき】

This course will focus on cooperative learning. Students will research and prepare debates and presentations on various topics and learn from each other. The syllabus is flexible and subject to change. The choice of topics to be studied may change in line with the particular interests of the students. Please be aware of such changes along with date for homework assignments and in-class activities and quizzes.

POL600A4-2203

国際公共調達研究 2

坂根 徹

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この国際公共調達政策 2 では、「国連システムの公共調達政策：Public Procurement Policy of the United Nations System」をテーマとする。そして以下の諸項目で記載した要領で学んでいくことを通して、標記のテーマに関して、関連の専門知識を得るとともに、政策的思考力も涵養していくことを目的とする。

【到達目標】

本科目の到達目標は、国際公共調達政策について、特に国連システムに焦点を当てて理解を深めた上で、各自が関心を持つ具体的なテーマや課題について調査研究を行い、その考察結果を発表し議論するとともに文章にまとめることができるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

まずガイダンスで、本科目のテーマや進め方について説明した後、各自の問題関心や関連科目・文献等の既習状況を確認する。そして、国連システムに関して全般的な説明を行い、国連システムの物資・サービスの調達について概説する。その後、個別機関の調達政策に関して、国連の PKO、WFP の食糧援助、UNICEF の保健衛生支援、UNHCR の難民支援等を具体例として取り上げて検討する。また、履修者が各自の関心に基づき選定したテーマについて、調査研究を行い、その中間及び最終結果を発表して議論するとともに、レポートを完成させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本科目のテーマや進め方について説明した後、各自の問題関心を述べる
2	国連システム	国連システムの概説
3	国連システムの調達	国連システムの調達の概説
4	調査研究テーマの選定	調査研究テーマについての各自の説明を踏まえた選定
5	調査研究テーマの中間発表に向けての検討	各自の調査研究テーマに関する中間発表に向けての検討
6	個別機関の調達政策	国連の PKO に関する調達政策についての検討
7	個別機関の調達政策	WFP の食糧支援に関する調達政策についての検討
8	調査研究テーマの中間発表	各自の調査研究テーマに関する進捗状況についての中間発表
9	調査研究テーマの最終発表に向けての検討	各自の調査研究テーマに関して中間発表を踏まえて最終発表に向けての検討
10	個別機関の調達政策	UNICEF の保健衛生支援に関する調達政策についての検討
11	個別機関の調達政策	UNHCR の難民支援に関する調達政策についての検討
12	調査研究テーマの最終発表	各自の調査研究テーマに関する最終発表
13	調査研究テーマの議論	各自の調査研究テーマに関して最終発表を受けての議論

- 14 調査研究テーマの議論 各自の調査研究テーマに関して最
の継続と全体のまとめ 終発表を受けてレポート完成に向
けての検討や全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回授業テーマの学習に加えて、特に調査研究発表とレポート提出
に向けての事前準備にまとまった時間を充当してしっかり行うこと。
本授業の準備・復習に要する時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

開講時やその後の授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度（出席等）・平常点を50%、発表・レポー
トを50%として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【学生が準備すべき機器他】

該当なし。

【その他の重要事項】

上記の授業計画は、実際の授業の進捗、履修生の人数や関心テーマ・
予備知識等により修正・変更されることがある。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>国際公共政策・国連研究・行政学等
<研究テーマ>国際公共政策・国連システムの行財政・国際行政・
調達行政等
<研究業績の例（単著論文から3篇を抜粋）>
・「国連システムにおける調達行政の意義と企業・NGOの役割」（日
本国際連合学会編『国連研究の課題と展望』国連研究第10号、国
際書院、2009年に所収）
・“Public Procurement in the United Nations System” (in
Khi V. Thai ed., *International Handbook of Public Procurement*,
Taylor and Francis, 2008)
・「国連PKOにおける民間企業の役割と課題—調達の側面に焦点を
当てて」（国際安全保障学会編『国際安全保障』第35巻第2号、内
外出版、2008年に所収）

【Outline and objectives】

Main theme of this course (International Public Procurement
Policy 2) is to learn and consider about public procurement
policy of the United Nations System. By taking this course,
students are expected to acquire related specialized knowledge
and also foster the ability to consider and analyze various
policies.

POL600A4-2222

地球規模課題政策研究

本多 美樹

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、国際機構論の視点から、国際機構、地域的機構、企
業、市民社会などの重要な行為主体（アクター）が、国際社会の秩序
を回復・維持するためにどのような工夫を凝らして機能してきたの
か、あるいは機能してこなかったのかについて考察する。授業では
安全保障をめぐる問題、開発問題、貧困問題、環境問題、感染症問
題などの地球規模の問題（グローバル・イシューあるいはトランス
ナショナル・イシュー）を取り上げ、それらを解決するための各ア
クターの役割と機能、政策、課題について考察する。その際に、各
アクター間の協働と確執について注目し、各問題領域で形成されつ
つある「ガバナンス」の現状と今後の課題を展望する。

【到達目標】

- ・時代とともに変容してきた国際機構、企業、市民社会の役割・機能
についての知識を身に付ける。
- ・地球規模の問題を解決するために、協働と確執を繰り返しながら
取り組むさまざまなアクターの政策と活動について理解する。
- ・国際社会が直面する地球規模の問題に対して自分の問題意識を明
確にし、自分なりの意見を持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針 に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に
「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

講義を中心に進めるが、受講者間で議論する時間を毎回設ける。
対面での授業を予定しているが、新型コロナウイルス感染症の拡大
状況によってはZoomを利用して行う。詳しくは、Hoppiiでお知
らせする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の目的と進め方
第2回	国際社会の平和と安全 への協働①	国連とその他の国際機構の協力 への協働①
第3回	国際社会の平和と安全 への協働②	国際機構と企業、市民社会の協力 への協働②
第4回	国連による集団安全保 障①	軍事的措置と非軍事的措置
第5回	国連による集団安全保 障②	平和構築
第6回	核不拡散	政策と実践
第7回	軍備管理と軍縮	政策と実践
第8回	人権と民主主義	人権の国際的保障をめぐる政策と 実践
第9回	人の移動	難民・避難民、就労移民をめぐる 政策と実践
第10回	感染症	政策と実践
第11回	開発協力①	政策と実践
第12回	開発協力②	政策と実践
第13回	環境保護	政策と実践
第14回	資源の管理	政策と実践

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

詳しくは授業内で提示する。

【参考書】

渡部茂己・望月康恵編著『国際機構論 総合編』国際書院、2015年。
吉村祥子・望月康恵編著『国際機構論 活動編』国際書院、2021年。
その他、各回の関連文献・資料については、授業の際に随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内での議論への参加（30％）と期末レポート（70％）から総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

関連科目として、「非伝統的安全保障研究」を春学期に開講する。「非伝統的安全保障研究」は、伝統的安全保障との考え方の違いや分析アプローチの違いに重きを置いた内容であり、「人間の安全保障」や「保護する責任」など国際規範についてもより深く考察する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

国際関係論、国際機構論、伝統的・非伝統的安全保障研究、国連研究
<研究テーマ>

国際社会による「平和」のための協働と確執、アジア太平洋地域の伝統的・非伝統的安全保障

<主要研究業績>

主な著書として、「国連による『スマート・サンクション』と金融制裁：効果の追求と副次的影響の回避を模索して」『国連の金融制裁：法と実務』（東信堂、2018年）、「平和構築の新たな潮流と『人間の安全保障』：ジェンダー視座の導入に注目して」『東南アジアの紛争予防と『人間の安全保障』』（明石書店、2016年）、「国連による経済制裁と人道上の諸問題：『スマート・サンクション』の模索」（国際書院、2013年）、「北東アジアの『永い平和』：なぜ戦争は回避されたか」（勁草書房、2012年）、「『グローバル・イシュー』としての人権とアジア：新たな国際規範をめぐる国際社会の確執に注目して」『グローバリゼーションとアジア地域統合』（勁草書房、2012年）、「“Smart Sanctions” by United Nations and Financial Sanctions,” United Nations Financial Sanctions (Routledge, 2020), “Coordination challenges for the UN-initiated peace-building architecture Problems in locating ‘universal’ norms and values on the local,” Complex Emergencies and Humanitarian Response (Union Press, 2018), “The Role of UN Sanctions against DPRK in the Search of Peace and Security in East Asia: Focusing on the Implementation of UN Resolution 1874,” East Asia and the United Nations: Regional Cooperation for Global Issues (Japan Association for United Nations Studies, 2010) などがある。執筆した主な教科書として、『国際機構論 活動編』（国際書院、2020年）、『国際機構論 総合編』（国際書院、2015年）、『国際学のすすめ』（東海大学出版会、2013年）などがある。

【Outline and objectives】

The international community faces diversified transnational issues such as security issues, poverty, refugees, human rights abuse, organized crimes, financial crisis and so on. No single nation can control them anymore. And those issues cannot be understood within the nation-centered narratives. This course provides students with opportunities to become acquainted with "global issues" and learn that diversified actors have made efforts to tackle with the issues. Students will know that nations make contributions to the settlement of those issues in cooperation with regional and international institutions, businesses, civil society, and other entities. These efforts and social movements by the diversified actors can be called "global governance." Students will understand how the international community tries to formulate and manage "global governance."

POL600A4-2304

戦略と政策

森 聡

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

戦略に関する専門的な知識を習得することを目的とする。テキストを講読していく。安全保障論に関する基本的な概念と素養を身につけていることを求める。なお、履修登録者の研究テーマに応じて、担当教員の判断で、本授業のテーマや使用文献を変更する可能性がある。

【到達目標】

古来から現代に至る戦略論に関する専門知識を身につけ、現代の様々な国際問題に関係するアクターが、特定の課題についていかなる戦略を追求しているかについて、自分なりの仮説を立てられるようになることを目標とする。なお、履修登録者の研究テーマに応じて、担当教員の判断で、本授業のテーマや使用文献を変更する可能性がある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

オンライン授業（Zoomによるライブ形式）を前提に実施する。受講者が授業で指定される文献の担当部分について、レジュメを使ってその要旨を発表し、受講者全員で論点を特定して、議論を行う。ある授業回の後半にレジュメ発表を行い、課題を決める。その課題について、次週の授業までに考えをまとめてきて、授業前半で議論を行う。（同授業の後半で、レジュメ発表を行い、同じプロセスを繰り返す。）

発表用レジュメは、前日17時までに受講生に配信しなければならない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
第1回	戦略の起源（1）	概念の定義、暴力と戦略。
第2回	戦略の起源（2）—旧約聖書	威圧的な戦略、ダビデとゴリアテ。
第3回	戦略の起源（3）—古代ギリシャ	トュキュディデスとプラトンの語った戦略。
第4回	戦略の理論化	孫子とマキャベリ。
第5回	新たな戦略の科学	ナポレオンの戦略など。
第6回	クラウゼヴィッツの時代	ジョミニとクラウゼヴィッツ。
第7回	殲滅戦略と消耗戦略	アメリカ南北戦争、マハンとコーベット。
第8回	頭脳と腕力、間接的アプローチ	エアパワー、機甲戦、チャーチルの戦略。
第9回	核の時代	新しい戦略家とゲーム理論。
第10回	非合理的合理性	シェリングと抑止。
第11回	ゲリラ戦	毛沢東、ザップ、反乱鎮圧。
第12回	監視と情勢判断	OODA ループと作戦技術。
第13回	軍事における革命	非対称戦争と情報戦。
第14回	総括	学期中の主要課題に関する解説・講評を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は約2時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

ローレンス・フリードマン著、貫井佳子訳、『戦略の世界史（上）』、日本経済新聞出版社、2018年、(3,500円+税)を使用する予定。しかし、開講時までに購入する必要はない。最終的には、履修者と相談して決める。

【参考書】

Thomas G. Mahnken and Joseph A. Maiolo, *Strategic Studies: A Reader*, 2d edition, Routledge, 2014. (購入する必要はない。)

【成績評価の方法と基準】

文献報告の完成度（50%）と討議への貢献度（50%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生たちが議論を行って、翌週までの課題を決定する。

【その他の重要事項】

学習支援システムに必ず登録すること。Zoomのミーティングリンクは、学習支援システムで、本科目に登録した学生にのみ配信される。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 国際政治学、戦後アメリカの外交と安全保障

<研究テーマ> 先端技術と国際政治、パワーシフトと国際秩序、現代アメリカのインド太平洋戦略など

<主要研究業績>

・川島真・森聡編著『アフターコロナ時代の米中関係と世界秩序』東京大学出版会、2020年。

・"US Technological Competition with China: The Military, Industrial and Digital Network Dimensions," *Asia Pacific Review*, Vol.26, No.1 (2019), pp.77-120.

・"U.S. Defense Innovation and Artificial Intelligence," *Asia Pacific Review*, Vol.25, No.2 (Fall 2018), 16-44.

・「統合作戦構想と太平洋軍—マルチ・ドメイン・バトル構想の開発と導入」、土屋大洋編著、『アメリカ太平洋軍の研究—インド・太平洋の安全保障』、千倉書房、2018年7月。

・「リベラル国際主義への挑戦—アメリカの二つの国際秩序観の起源と融合」、『レヴァイアサン』第58号（2016年4月）、23-48頁。

・「アメリカのアジア戦略と中国」、北岡伸一・久保文明監修『希望の日米同盟—アジア太平洋の海洋安全保障』、中央公論社、2016年、39-91頁。

・『ヴェトナム戦争と同盟外交—英仏の外交とアメリカの選択 1964-1968年』、東京大学出版会、2009年（日本アメリカ学会清水博賞受賞）。

など

【Outline and objectives】

The objective of the course is to acquire advanced knowledge regarding the study of strategy. Class participants will read an assigned textbook on strategy and engage in discussion. A thorough understanding of the basic concepts and knowledge regarding security studies is a prerequisite for all participants.

POL600A4-2310

ロシア政治外交研究 1

溝口 修平

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1980年代から90年代にかけて、世界中で民主化する国が増加し、その現象は民主化の「第三の波」と呼ばれました。しかし、現在ではむしろロシアや中国をはじめとして多くの国で権威主義体制が強化されていることに注目が集まっています。本科目では、政治体制の類型や変動に関する比較政治学の理論的研究を学ぶとともに、旧ソ連諸国を中心とするポスト社会主義諸国の政治変動が比較政治学の方野でどのように説明されてきたのかを学びます。

【到達目標】

- 1 現代の権威主義体制がどのような特徴を持ち、どのように維持されているかを理論的に説明することができる。
- 2 21世紀に入って、旧ソ連諸国の政治体制に起きた変化がなぜ起きたのか、そして国ごとの発展経路の違いがなぜ生じているのかを理解し、説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

教員による簡単な講義の後に、比較政治学の理論や旧ソ連諸国の政治変動に関する著作や論文（主に英語文献）を参加者全員で講読します。担当者が論文の内容を簡単に報告し、その内容について全員で議論する形で授業は進めます。また、課題等に対するフィードバックは各回の授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要説明、論文入手の方法、各回の発表担当者決め
第2回	民主化研究とその問題点	1980年代以降の民主化研究の概要に関する講義
第3回	権威主義という概念	フランツ（2021）第1章を読む
第4回	権威主義体制の世界的拡大	フランツ（2021）第2,3章を読む
第5回	権威主義的統治のあり方	フランツ（2021）第4,5章を読む
第6回	権威主義体制の誕生と持続	フランツ（2021）第6,7章を読む
第7回	権威主義体制の崩壊	フランツ（2021）第8,9章を読む
第8回	民主主義の後退と権威主義の強化	世界中で民主主義の後退が生じているという主張について
第9回	旧ソ連諸国の政治変動（1）	旧ソ連諸国の多様な政治体制をどのように説明するか？
第10回	旧ソ連諸国の政治変動（2）	旧ソ連諸国の多様な政治体制をどのように説明するか？
第11回	カラー革命（1）	2000年代に旧ソ連諸国で起きた政治変動（カラー革命）の原因について
第12回	カラー革命（2）	2000年代に旧ソ連諸国で起きた政治変動（カラー革命）がもたらした帰結について
第13回	ロシアの政治体制（1）	ロシアの政治体制の変化と安定性について
第14回	ロシアの政治体制（2）	ロシアの政治体制の変化と安定性について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された文献を読み、その文献に対するコメントを用意した上で授業に参加すること。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

エリカ・フランツ『権威主義：独裁政治の歴史と変貌』白水社、2021年。
その他の授業で扱う論文は、できる限り dropbox などを使って受講者の間で電子ファイルを共有します。

【参考書】

久保慶一ほか『比較政治学の考え方』有斐閣、2016年。

【成績評価の方法と基準】

提出課題の完成度（30％）

文献に関する報告（20％）

授業中の討論への貢献（50％）

【学生の意見等からの気づき】

当該分野のこれまでの研究の流れがわからないと専門的な英語論文を十分に理解できないという意見があったので、教員が研究史の概要を説明する回を設けました。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>比較政治学、旧ソ連諸国の政治外交

<研究テーマ>旧ソ連諸国の体制転換、権威主義体制における憲法の役割

<主要研究業績>

①「大統領任期延長の正統性—旧ソ連諸国における長期独裁政権の誕生」『国際政治』第201号、114-129頁、2020年。

②『ロシア連邦憲法体制の成立—重層的転換と制度選択の意図せざる帰結』北海道大学出版会、2016年。

③『連邦制の逆説？—効果的な統治制度か』ナカニシヤ出版、2016年（共編著）。

など

【Outline and objectives】

Why do some authoritarian countries endure, but others collapse? What will happen once an autocratic leader is ousted by a coup or a popular protest movement? These are the questions explored in this course. The course offers a comparative outlook to the study of authoritarianism, focusing on political institutions such as election, the factors sustaining or breaking it down, as well as global resilience of authoritarianism. The course will then analyze the political dynamics of authoritarian regimes in the former Soviet countries.

All students in the course are expected to come to each seminar having read and prepared to discuss a considerable portion of the reading for each week. In addition, each student will be asked at least once to present and/or comment upon some of reading.

POL600A4-2311

ロシア政治外交研究2

溝口 修平

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、ロシアは欧米諸国との対立を深めています。クリミア併合に代表されるように旧ソ連諸国に対する介入を強める一方で、これらの国々でおこる政治変動に対しては「西側の陰謀」として強く反発しており、国際社会からは「国際秩序への挑戦者」とみなされています。

このようなロシアの行動は、国際社会からは民主主義や人道的介入などの「国際規範」に反するとされますが、それではロシア自身は、どのような論理によって自身の行動を正当化しているのでしょうか。本科目では、ロシア外交に関する近年の主要文献を購読しながら、この問題について考察します。

【到達目標】

- 1) 冷戦終結後のロシア外交の変化について説明することができる。
- 2) 近年の欧米諸国との対立について、ロシアがどのような論理に基づいて行動しているかを説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

教員による簡単な講義の後に、ロシア外交に関する著作や論文（主に英語文献）を参加者全員で講読します。担当者が論文の内容を簡単に報告し、その内容について全員で議論する形で授業を進めます。また、課題等に対するフィードバックは各回の授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要説明、論文入手の方法、各回の発表担当者決め
第2回	ロシア外交の基礎	冷戦終結後のロシア外交の展開に関する講義
第3回	ロシアの2つの「主権」観	関連する英語論文を読む
第4回	ロシアと欧米諸国との関係（1）	関連する英語論文を読む
第5回	ロシアと欧米諸国との関係（2）	関連する英語論文を読む
第6回	ロシアと旧ソ連諸国との関係（1）	Toal(2017), Introduction を読む
第7回	ロシアと旧ソ連諸国との関係（2）	Toal(2017), ch.1 を読む
第8回	ロシアと旧ソ連諸国との関係（3）	Toal(2017), ch.2 を読む
第9回	ロシアと旧ソ連諸国との関係（4）	Toal(2017), ch.3 を読む
第10回	ロシアと旧ソ連諸国との関係（5）	Toal(2017), ch.4 を読む
第11回	ロシアと旧ソ連諸国との関係（6）	Toal(2017), ch.5 を読む
第12回	ロシアと旧ソ連諸国との関係（7）	Toal(2017), ch.6 を読む
第13回	ロシアと旧ソ連諸国との関係（8）	Toal(2017), ch.7 を読む
第14回	ロシアと旧ソ連諸国との関係（9）	Toal(2017), ch.8 を読む

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された文献を読み、その文献に対するコメントを用意した上で授業に参加すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Gerald Toal, (2017), Near Abroad: Putin, the West, and the Contest over Ukraine and the Caucasus, Oxford: Oxford U.P.

【参考書】

授業中に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

提出課題の完成度（30％）

文献に関する報告（20％）

授業中の討論への貢献（50％）

【学生の意見等からの気づき】

当該分野のこれまでの研究の流れがわからないと専門的な英語論文を十分に理解できないという意見があったので、教員が研究史の概要を説明する回を設けました。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>比較政治学、旧ソ連諸国の政治外交

<研究テーマ>旧ソ連諸国の体制転換、権威主義体制における憲法の役割

<主要研究業績>

①「大統領任期延長の正統性—旧ソ連諸国における長期独裁政権の誕生」『国際政治』第201号、114-129頁、2020年。

②『ロシア連邦憲法体制の成立—重層的転換と制度選択の意図せざる帰結』北海道大学出版会、2016年。

③『連邦制の逆説？—効果的な統治制度か』ナカニシヤ出版、2016年（共編著）。

など

【Outline and objectives】

This course aims to understand the logic of Russia's foreign policy, which has experienced deep conflict with the "standard" norms of the international community, such as democracy and humanitarian intervention.

All students in the course are expected to come to each seminar having read and prepared to discuss a considerable portion of the reading

for each week. In addition, each student will be asked at least once to

present and/or comment upon some of reading.

POL600A4-2312

国際地域研究（中国）（1）

熊倉 潤

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国の政治及び現代史について学ぶ。中国の政治・社会の特徴、歴史的形成過程等についてゼミ形式で論じ、認識を深める。

【到達目標】

本授業の目標は、中国語の研究書、論文等の読解を通じて、中国政治、現代史に関する学術論文を執筆する基礎的な力を養うことにある。また中国語がネイティブでない学生の中国語力、日本語がネイティブでない学生の日本語力を高めることにある。研究者を目指す学生に関しては、特に本授業での学問的修練を経て、次代の中国地域研究を担う人材となることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

本授業は演習（ゼミ）形式で、【授業計画】に沿って中国語、日本語の研究書、論文等を輪読する。

授業形式は、ひとまず対面授業を想定する（新型コロナウイルス感染状況、学生の人数等によっては、オンラインに変更する可能性もある）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
第1回	初回ガイダンス	講義の進行方法／受講者の研究テーマの紹介
第2回	受講者による文献の読解と報告（1）	中国共産党の成立（1）
第3回	受講者による文献の読解と報告（2）	中国共産党の成立（2）
第4回	受講者による文献の読解と報告（3）	中国共産党とコミンテルン（1）
第5回	受講者による文献の読解と報告（4）	中国共産党とコミンテルン（2）
第6回	受講者による文献の読解と報告（5）	中華人民共和国の建国（1）
第7回	受講者による文献の読解と報告（6）	中華人民共和国の建国（2）
第8回	受講者による文献の読解と報告（7）	中ソ同盟下の中国（1）
第9回	受講者による文献の読解と報告（8）	中ソ同盟下の中国（2）
第10回	受講者による文献の読解と報告（9）	中ソ同盟下の中国（3）
第11回	受講者による文献の読解と報告（10）	中ソ同盟下の中国（4）
第12回	受講者による文献の読解と報告（11）	中ソ同盟下の中国（5）
第13回	受講者による文献の読解と報告（12）	中ソ同盟下の中国（6）
第14回	フィールドワーク（学外図書館での調査研究）	アジア経済研究所図書館を訪問し、その実地研修を予定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

以下の重要文献から抜粋を配布する。価格は参考まで。
沈志主『中关系史：1917-1991』北京：新出版社、2007年、55.80元。

【参考書】

参考書は指定しないが、参考となる論文等については授業内で適宜必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

報告の内容（50%）、議論への参加度（50%）

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

履修に際しては、中国政治、現代史に関する基礎的な文献を読んでおくこと。また中国語の文献を扱うため、中国語が読めることが望ましい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>中国、旧ソ連の政治、現代史
<研究テーマ>中ソ関係、民族問題
<主要研究業績>『民族自決と民族団結——ソ連と中国の民族エリート』東京大学出版会、2020年。

【Outline and objectives】

In this class, we will study Chinese politics and modern history, and discuss characteristics of Chinese politics and society, and the historical process.

POL600A4-2313

国際地域研究（中国）（2）

熊倉 潤

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国の政治及び現代史について学ぶ。中国の政治・社会の特徴、歴史的形成過程等についてゼミ形式で論じ、認識を深める。

【到達目標】

本授業の目標は、中国語の研究書、論文等の読解を通じて、中国政治、現代史に関する学術論文を執筆する基礎的な力を養うことにある。また中国語がネイティブでない学生の中国語力、日本語がネイティブでない学生の日本語力を高めることにある。研究者を目指す学生に関しては、特に本授業での学問的修練を経て、次代の中国地域研究を担う人材となることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

本授業は演習（ゼミ）形式で、【授業計画】に沿って中国語、日本語の研究書、論文等を輪読する。

授業形式は、ひとまず対面授業とする（新型コロナウイルス感染状況、学生の人数等によっては、オンラインに変更する可能性もある）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
第1回	初回ガイダンス	講義の進行方法／受講者の研究テーマの紹介
第2回	受講者による文献の読解と報告（1）	中ソ対立下の中国（1）
第3回	受講者による文献の読解と報告（2）	中ソ対立下の中国（2）
第4回	受講者による文献の読解と報告（3）	中ソ対立下の中国（3）
第5回	受講者による文献の読解と報告（4）	中ソ対立下の中国（4）
第6回	受講者による文献の読解と報告（5）	中ソ対立下の中国（5）
第7回	受講者による文献の読解と報告（6）	中ソ対立下の中国（6）
第8回	受講者による文献の読解と報告（7）	中ソ対立下の中国（7）
第9回	受講者による文献の読解と報告（8）	1980年代以降の中国（1）
第10回	受講者による文献の読解と報告（9）	1980年代以降の中国（2）
第11回	受講者による文献の読解と報告（10）	1980年代以降の中国（3）
第12回	受講者による文献の読解と報告（11）	1980年代以降の中国（4）
第13回	受講者による文献の読解と報告（12）	1980年代以降の中国（5）
第14回	フィールドワーク（学会図書館を訪問しての実地研修）	外図書館での調査研究を予定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

以下の重要文献から抜粋を配布する。価格は参考まで。
沈志主『中关系史：1917-1991』北京：新出版社、2007年、55.80元。

【参考書】

参考書は指定しないが、参考となる論文等については授業内で適宜必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

報告の内容（50%）、議論への参加度（50%）

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

履修に際しては、中国政治、現代史に関する基礎的な文献を読んでおくこと。また中国語の文献を扱うため、中国語が読めることが望ましい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>中国、旧ソ連の政治、現代史
<研究テーマ>中ソ関係、民族問題
<主要研究業績>『民族自決と民族団結——ソ連と中国の民族エリート』東京大学出版会、2020年。

【Outline and objectives】

In this class, we will study Chinese politics and modern history, and discuss characteristics of Chinese politics and society, and the historical process.

POL600A4-2314

国際地域研究（朝鮮半島）（1）

権 鎬淵

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、地域研究課目の一環として、韓国における政治社会の諸問題を検討する。
大統領選挙の仕組と投票分析、リベラル勢力と保守派の対立、慶尚道と全羅道間の地域対立、兵役制度の仕組みと社会的影響、経済制度の特徴、北に対する認識と政策、反共教育、歴史認識、市民運動などを取り上げ、その実態を分析するとともに、それに対する政治社会的な施策を比較検討する。

【到達目標】

学生は、韓国における政治社会の諸問題の存在とその対処方法などを見て、それらを自国の例と比較検討しながら教訓を得ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

教員による授業が行われたあと、院生側が事前に用意してきた論点や疑問点が発表され、それらについて自由討議を行う。
なるべく対面授業を原則とするが、感染状況によって ZOOM のようなリモート会議システムを利用することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	韓国政治の特徴	渦巻型構造論（中央集権、首都集中、科挙制の影響）
第2回	大統領選挙の仕組み、歴史、投票分析	5年1期だけ制度の長短所 改憲の歴史、地域基盤の差異
第3回	国会議員選挙の仕組み、歴史、投票分析	国会の権限を含む
第4回	リベラル勢力1（政治勢力）	リベラル勢力の変遷を含む
第5回	リベラル勢力2（市民運動）	市民運動、学生運動
第6回	保守派の分析	自由党、共和党、民正党、ハンナラ党、自由韓国党
第7回	地域対立問題	慶尚道と全羅道の反目
第8回	兵役制度の仕組みと社会的影響	兵役の歴史を含む
第9回	教育制度の問題点	入試制度
第10回	不動産問題	価格高騰及び格差や少子化への影響
第11回	経済制度1（就職・雇用関係）	就職状況と賃金、正規職と非正規職
第12回	経済制度2（年金、弱者対策）	貧困対策、老人政策を含む
第13回	少子化問題	少子化の原因と対策
第14回	北朝鮮・南北統一に関する認識	世論調査をみる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

院生は事前に指定テキストを2回以上熟読し、討論したいテーマと質問事項を1枚の紙にまとめ、授業開始の際に教員に伝達する必要がある。

【テキスト（教科書）】

開講の際に開示する

【参考書】

開講の際に開示する

【成績評価の方法と基準】

出席 40 %、討論参加度 30 %、レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【担当教員の専門分野等】

日本の防衛政策

南北朝鮮情勢

東アジアの軍事情勢

【Outline and objectives】

This course introduces the political and social issues of contemporary South Korea. It includes the issue of basic political structure, the analysis of presidential elections, the confrontation of liberals and conservatives, the social influence of compulsory military service, the perception of North Korea issues, etc.

The aim of this course is to help students understand the political and social issues in Korea, compare them with similar issues in Japan and get a good idea to cope with those issues.

POL600A4-2315

国際地域研究（朝鮮半島）（2）

権 鎬淵

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、地域研究課目の一環として、北朝鮮における政治社会の諸問題を検討する。

朝鮮労働党、行政府、軍の3者関係と「先軍政治」、核やミサイル戦力の現状と配置状況、兵役制度の仕組みと社会的影響、食糧事情、エネルギー（特に電気）事情、ジャンマダン（市場）経済の状況、通常軍事力の陳腐化、歴史認識などを取り上げ、その実態を分析するとともに、それに対する政治社会的な施策を比較検討する。

【到達目標】

学生は北朝鮮の社会構造の基本とその問題点を学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

教員による授業が行われたあと、院生側が事前に用意してきた論点や疑問点が発表され、それらについて自由討議を行う。

なるべく対面授業を原則とするが、感染状況によって ZOOM のようなりモット会議システムを利用することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	権力機関の構成	国家保衛省・人民武力省・人民保安省
第2回	朝鮮労働党、行政府、軍の3者関係	役割分担と相互関係
第3回	兵役制度の仕組みと社会的影響	10年説、13年説？ 女性の兵役は？
第4回	教育制度	学年制、カリキュラム、学費について
第5回	経済制度1	就職・雇用・住宅・配給・老後政策
第6回	経済問題1	食糧事情、ジャンマダン経済の状況
第7回	経済問題2	工業生産、エネルギー事情
第8回	改革開放の経済政策の試み	特区制度、農業制度、利益配分システム、私営企業
第9回	国連による経済制裁	経済制裁の内容と効果
第10回	核・ミサイル戦力の状況	戦力分析
第11回	通常戦力の状況	通常戦力の南北比較
第12回	韓国や南北統一に関する認識	権力者と一般人の認識
第13回	米国、中国に対する政策	対ロシア政策も
第14回	日本に対する政策	対日政策の歴史も含む

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

院生は指定テキストを2回以上熟読し、討論したいテーマと質問事項を1枚の紙にまとめ、授業開始の際に教員に伝達する必要がある。

【テキスト（教科書）】

開講の際に開示する

【参考書】

開講の際に開示する

【成績評価の方法と基準】

出席 40 %、討論参加度 30 %、レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【担当教員の専門分野等】

日本の防衛政策

南北朝鮮情勢

東アジアの軍事情勢

【Outline and objectives】

This course introduces the political and social issues of contemporary North Korea. It includes the issue of basic political structure, the analysis of communist party, government and military. Recent situation of North Korea's nuclear weapon capability, ballistic missiles and conventional weapons will be checked. It also will check current social and economic situation; food and energy situation, the social influence of compulsory military service, the perception of unification issues, etc.

The aim of this course is to help students understand the political and social issues in North Korea, compare them with similar issues in Japan and get a good idea to cope with those issues.

POL600A4-2316

国際地域研究（ロシア・中央アジア）（1）

片桐 俊浩

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在のロシア・中央アジア各国の政治的・経済的な大枠を作っているのは 16 世紀以降のロシアによる領土の急拡大であり、20 世紀の大半をソ連型の社会主義体制下で過ごした経験である。経済成長を資源輸出に頼りがちであるとか、それも原因で製造業が余り発達しないというロシアの経済的な問題も、「広大な領土（資源）の存在」、「ソ連から引き継いだ経済基盤の問題」の 2 つが絡み合って表出したものである。ロシアを形作る 3 つ目の重要な要素として、「ソ連崩壊という“帝国”の喪失経験」という意識も見逃せない。ロシアという国は、このような特徴と意識を抱えながら中央アジア各国（「近い外国」）、それ以外の諸国（「遠い外国」）に対してそれぞれ異なった態度で接している。

この問題意識を軸にして、広大な地域であるロシアと中央アジア各国について、ゼミ形式で議論を深める。

なお、新型コロナウイルス感染状況に鑑みて、初回以降の授業を Zoom 利用によりオンラインで行う（感染状況及び受講者の都合に応じてキャンパスでの授業に変更することがある）。

【到達目標】

ロシア・中央アジア地域に関して、特にロシアを軸とした政治的・経済的な重要論点を把握し、独自の見解を抱いて議論に参加できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

演習（ゼミ）形式の授業として、事前の論文等（書籍、記事を含む。以下同）読解に基づく発表と議論の積み重ねで進める。受講者の関心に応じて読解すべき論文等を決める。授業では本シラバスに示したテーマ全てを扱うが、論文等の内容に応じて各回のテーマの入れ替え等の変更を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業方針の説明、ロシア・中央アジアの概要（講義形式）、第 2 回授業について
第 2 回	ロシア・中央アジア史（1）	ロシアの地理的な拡大の歴史とその意義
第 3 回	ロシア・中央アジア史（2）	ソ連時代の政治制度、経済状態について
第 4 回	現代ロシア政治（1）	エリツィン政権期の政情と経済問題
第 5 回	現代ロシア政治（2）	プーチン政権下における政治制度の変容
第 6 回	現代ロシア政治（3）	プーチン政権による外交政策の推移
第 7 回	ロシア経済（1）	資源依存経済の問題（製造業の発達不全、オイルマネー分配の不平等感、資源採掘企業と政権との癒着等）
第 8 回	ロシア経済（2）	軍需産業、核閉鎖都市
第 9 回	中央アジア（1）	カザフスタン
第 10 回	中央アジア（2）	ウズベキスタン、クルグズスタン
第 11 回	中央アジア（3）	トルクメニスタン、タジキスタン

- 第12回 その他の「近い外国」 ウクライナ、ベラルーシ
(1)
- 第13回 その他の「近い外国」 南コーカサス 3 国
(2)
- 第14回 「遠い外国」 域外諸国（特に日米中印欧）との
関係

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・発表対象の論文等（書籍、記事を含む）を事前に読み込む。
 - ・ロシア・中央アジアに関連する報道内容を毎週把握する。
- ※本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・事前に指定するテキスト（教科書）：なし。
- ・受講者の関心事項に応じてテキストを決める。

【参考書】

- (ロシア関連)
- 下斗米伸夫編著『ロシアの歴史を知るための 50 章』明石書店、2016年。
- (中央アジア関連)
- 帯谷知可編著『ウズベキスタンを知るための 60 章』明石書店、2018年。
- ティムール・ダダバエフ『社会主義後のウズベキスタン—変わる国と揺れる人々の心』アジア経済研究所、2008年。
- 松井啓『初代大使が見たカザフスタン』めるくまーる、2007年。
- 宇山智彦・藤本透子編著『カザフスタンを知るための 60 章』明石書店、2015年。
- 湯浅剛『現代中央アジアの国際政治——ロシア・米欧・中国の介入と新独立国の自立』明石書店、2015年。

【成績評価の方法と基準】

- ・担当分野のレジュメ作成・発表 (50%)。
- ・授業中の質疑・議論への参加 (50%)。

【学生の意見等からの気づき】

- ・特になし。

【学生が準備すべき機器他】

- ・発表の形式は自由（プリント配布の有無、コンピュータ・スクリーンの使用等）。

【担当教員の専門分野等】

- <専門領域>ソ連・ロシア・コーカサス
- <研究テーマ>ソ連史（都市建設、核開発）、ロシア政治、アゼルバイジャン内外政・経済・社会
- <主要研究業績>
- ・下斗米伸夫・島田博編著『現代ロシアを知るための 60 章【第 2 版】』明石書店、2012 年（第 12 章「民族問題とロシア政治」(pp.88-92)、第 21 章「現代のモスクワ」(pp.135-139)）。
 - ・廣瀬陽子編著『アゼルバイジャンを知るための 67 章』明石書店、2018 年（第 36 章「産業分野の現状と今後の課題—浮かび上がる人事育成の重要性」(214-218 頁)、第 37 章「金融と通過—油価下落の直撃を受けた銀行業界」(222-227 頁)、第 59 章「政治の中のスポーツ行事—国際イベントを通じた国の知名度の向上」(350-354 頁)、第 61 章「アゼルバイジャンと日本の関係—両国間に根付きつつある相手国への関心と敬意」(364-369 頁)、コラム「海上の楼閣ハザルアイランド」(219-221 頁)）。
 - ・片桐俊浩「国際的な輸送回廊構築におけるアゼルバイジャンの位置付け」、『法学志林』(第一一七 卷第三・四号合併号)、2020 年 (161 - 196 頁)。
 - ・Тосихиро Катагири, Такаси Хирано, Ясуси Томосигэ, «Экспортный потенциал продвижения азербайджанской нефти в Украину и Беларусь; взгляд трех стран по поиску «украинского маршрута»». С.101-126. «Философия экономики; история и современность», Национальная Академия наук Азербайджана Институт философии, 2017. С.544.

【Outline and objectives】

In a historical context, three political perspectives can be found in the geographical spread of Russia and Central Asia. First, Russia as an empire expanded its territory rapidly; second, the countries spent most of the 20th century in the Soviet socialist system; and third, the collapse of the Soviet Union left Russia with a "loss of empire" experience. Even the resource-dependent economy and the resulting underdevelopment of the manufacturing industries are the flip side of these two legacies: territory (i.e., resources) and the Soviet socialist economy. Based on the sense of ex-"empire" that only Russia possesses, Russia changes its approach in its diplomacy towards Central Asia and towards other countries. Using the three perspectives mentioned above as a starting point, the class will be conducted in a seminar format on Russia and Central Asian countries.

POL600A4-2317

国際地域研究（ロシア・中央アジア）（2）

片桐 俊浩

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中央アジア地域におけるロシアの強い存在感を軸に据えて、ロシア・中央アジアの「南北関係」を考える。本授業で「南北関係」と言う場合、経済面、軍事面等におけるロシアによる中央アジアへの（ほぼ一方的な）影響力の行使を指す。但し、ユーラシアを巡る国際的なプロジェクトにおいて、「ロシア外し」の色彩の濃い南ガス回廊パイプライン建設や東西輸送回廊構築計画などの動きも一部にはある。ロシアによる影響力行使、「ロシア外し」（ロシア迂回）の諸相を追う。

なお、新型コロナウイルス感染状況に鑑みて、初回以降の授業をZoom 利用によりオンラインで行う（感染状況及び受講者の都合に応じてキャンパスでの授業に変更することがある）。

【到達目標】

中央アジア・コーカサス地域における「ロシア外し」の国際プロジェクトの存在、中国によるこの地域への関心について留意することで、ロシアによる旧ソ連圏の再統合の動きについて深みをもって議論できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

演習（ゼミ）形式の授業として、事前の論文等（書籍、記事を含む。以下同）読解に基づく発表と議論の積み重ねで進める。受講者の関心に応じて読解すべき論文等を定める。授業では本シラバスに示したテーマ全てを扱うが、論文等の内容に応じて各回のテーマの入れ替え等の変更を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	ロシア・中央アジア概要	授業の概要説明。ロシア・中央アジア概要（講義形式）、第2回授業の方針説明
第2回	ロシアの対外認識（1）	領土面：領土及び安全保障に関してロシアの権力者及び民衆が抱く認識、ソ連崩壊によるロシア人の「帝国」喪失感について
第3回	ロシアの対外認識（2）	軍事面：過剰防衛の思考。核兵器の保有を「強いられた」とする、被害者意識に基づく安全保障観を事例として
第4回	ロシアの対外認識（3）	中央アジアに対する政策と（政治家、一般人の）認識
第5回	ロシアの対外認識（4）	米国、NATO に対する敵愾心と対抗的政策
第6回	「南北関係」（1）	中央アジアにおけるロシア語、ロシア系住民
第7回	「南北関係」（2）	中央アジアからロシアへの出稼ぎ労働者
第8回	「南北関係」（3）	テュルク系諸国、ロシア国内のテュルク系共和国
第9回	「南北関係」（4）	ロシアを中心にした再統合の動き
第10回	地域における新たな枠組み（1）	カスピ海を巡る各国の立場、カスピ海の法的地位問題

第11回	地域における新たな枠組み（2）	南北輸送回廊、東西輸送回廊、「一带一路」構想
第12回	地域における新たな枠組み（3）	南ガス回廊パイプライン建設。中央アジア産石油・ガスのロシア迂回ルートによる欧州への輸送の可能性
第13回	地域における新たな枠組み（4）	ロシア・中央アジア各国と中国との関係
第14回	まとめ	変容するロシア・中央アジア関係

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・発表対象の論文等（書籍、記事を含む）を事前に読み込む。
・ロシア・中央アジアに関連する報道内容を毎週把握する。
※本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

事前に指定するテキスト（教科書）：なし。
受講者の関心事項に応じてテキストを決める。

【参考書】

（ロシア関連）
下斗米伸夫・島田博編著『現代ロシアを知るための60章【第2版】』明石書店、2012年。
（中央アジア関連）
秋野豊『ユーラシアの世紀——民族の争乱と新たな国際システムの出現』日本経済新聞社、2000年。
宇山智彦・樋渡雅人編著『現代中央アジア-政治・経済・社会』日本評論社、2018年。
宇山智彦編著『中央アジアを知るための60章【第2版】』明石書店、2010年。
小松久男編著『テュルクを知るための61章』明石書店、2016年。

【成績評価の方法と基準】

・担当分野のレジュメ作成・発表（50%）。
・授業中の質疑・議論への参加（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

発表の形式は自由（プリント配布の有無、コンピュータ・スクリーンの使用等）。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>ソ連・ロシア・コーカサス
<研究テーマ>ソ連史（都市建設、核開発）、ロシア政治、アゼルバイジャン内外政・経済・社会
<主要研究業績>
・下斗米伸夫・島田博編著『現代ロシアを知るための60章【第2版】』明石書店、2012年（第12章「民族問題とロシア政治」（pp.88-92）、第21章「現代のモスクワ」（pp.135-139））。
・廣瀬陽子編著『アゼルバイジャンを知るための67章』明石書店、2018年（第36章「産業分野の現状と今後の課題—浮かび上がる人事育成の重要性」（214-218頁）、第37章「金融と通過—油価下落の直撃を受けた銀行業界」（222-227頁）、第59章「政治の中のスポーツ行事—国際イベントを通じた国の知名度の向上」（350-354頁）、第61章「アゼルバイジャンと日本の関係—両国間に根付きつつある相手国への関心と敬意」（364-369頁）、コラム「海上の楼閣ハザルアイランド」（219-221頁））。
・片桐俊浩「国際的な輸送回廊構築におけるアゼルバイジャンの位置付け」、『法学志林』（第一一七巻第三・四号合併号）、2020年（161-196頁）。
・Тосихиро Катагири, Такаси Хирано, Ясуси Томосигэ, «Экспортный потенциал продвижения азербайджанской нефти в Украину и Беларусь: взгляд из трех стран по поиску «украинского маршрута»», С.101-126. «Философия экономики; история и современность», Национальная Академия наук Азербайджана Институт философии, 2017. С.544.

【Outline and objectives】

In considering the "North-South relations" between Russia and Central Asia, we will focus on Russia's strong presence in the Central Asian region. When we refer to "North-South relations" in this class, we are referring to Russia's (almost unilateral) exercise of influence over Central Asia, mainly in the economic and military spheres. However, there are various trends of "excluding Russia" from international projects in Eurasia, such as the construction of the Southern Gas Corridor pipeline or the East-West Transportation Corridor project. In this seminar, we will analyze Russia's use of influence in the Central Asian region and the moves of the countries in the region to distance themselves from Russia.

POL600A4-2318

国際地域研究（東南アジア）（1）

浅見 靖仁

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

受講生が社会科学的地域研究を行うのに必要な理論やスキルを習得することを目的とします。第2次大戦後の東南アジア諸国の経済発展や政治変動を主な考察対象としますが、他の地域を研究する大学院生が履修しても、社会科学の議論の組み立て方やデータを分析するための基本的なスキルを習得できる授業構成にします。

【到達目標】

受講生が東南アジア諸国、あるいはそれ以外の地域の経済発展や政治変動について、自分自身で分析する能力を獲得することを目標とします。そのために、経済発展や政治変動についての基本理論と経済的な統計データの分析方法を学んでもらいます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

初回の授業はオンラインで行います。この授業の履修を希望する人は、できるだけ早めに（学期開始前でもかまいません）、担当教員（浅見：asami@hosei.ac.jp）に連絡してください。オンライン授業に参加するために必要なURLとパスワードは「学習支援システム」のこの授業に関するページにも記載します。

授業は一般理論について学ぶ回と、それを使って東南アジア諸国の実例を受講生が分析する回を交互に行います。授業中には受講生に積極的に発言してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	地域研究にとっての方法論の重要性と社会科学の基本的な考え方について説明します。
第2回	独立、ナショナリズム、民主主義	独立とナショナリズムについての一般理論について学びます。
第3回	東南アジア諸国のナショナリズム	東南アジア諸国の独立とナショナリズム、民主主義の関係について考察します。
第4回	工業化、貿易、投資	途上国の工業化と貿易、投資についての一般理論について学びます。
第5回	東南アジア諸国の工業化と貿易政策	第2次大戦後の東南アジアの工業化と貿易政策の特徴について考察します。
第6回	国家主義と市場主義	国家主導の経済開発と民間企業主導の経済開発に関するさまざまな考え方について学びます。
第7回	東南アジア諸国における国家の市場介入	東南アジア諸国において、国家による市場介入がどのようなかたちで行われてきたのか、それは何故かについて考察します。
第8回	経済開発と民主化	経済開発と民主化についての一般理論について学びます。
第9回	東南アジアの社会変容と政治変動	経済成長によって東南アジア諸国の社会がどのように変化し、それがどのような政治変動をもたらしたかを考察します。

第10回	民族アイデンティティと国民統合	民族アイデンティティと国民統合に関する一般理論について学びます。
第11回	東南アジアの国民統合とエスニック・マイノリティー	東南アジア諸国における国民統合の特徴と、エスニック・マイノリティーの置かれている状況について考察します。
第12回	経済統計分析	経済に関する統計の解釈や分析方法について学びます。
第13回	東南アジア諸国の経済発展の比較(1)	具体的な統計数字を用いて受講生に東南アジア諸国の経済発展の比較を行ってもらいます。
第14回	東南アジア諸国の経済発展の比較(2)	受講生による具体的な統計数字を用いた東南アジア諸国の経済発展の分析の問題点や改善方法について考察します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成したプリントを pdf ファイルとして配布します。教科書を購入する必要はありません。

【参考書】

片山裕・大西裕編『アジアの政治経済・入門』有斐閣、2006年／末廣昭編『岩波講座東南アジア史第9巻「開発」の時代と「模索」の時代』岩波書店、2002年／赤木攻・安井三吉編『講座東アジア近現代史第5巻 東アジア政治のダイナミズム』青木書店、2002年／古田元夫編『岩波講座世界歴史第26巻 経済成長と国際緊張：1950年代～70年代』岩波書店、1999年／古田元夫編『＜南＞から見た世界 02 東南アジア・南アジア：地域自立の模索と葛藤』大月書店、1999年。

【成績評価の方法と基準】

授業中に行うプレゼンテーション及び討議への貢献度 20%、期末試験 80%のウェイトで成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

これまでの受講生たちから寄せられた、東南アジアの政治や経済についての知識を得るだけでなく、社会科学的分析を行うための基礎的なスキルも身に付けたいという要望に応えるために、政治学や経済学、社会学などの基礎的な理論の紹介にも重点を置いた授業構成にしました。

【学生が準備すべき機器他】

経済統計の分析を行う回には、エクセルなどの表計算用ソフトがインストールされた PC が必要になります。

【Outline and objectives】

This course aims to provide students with basic knowledge and skills to conduct their own research on political and economic changes in Southeast Asia. Basic theories and statistical skills taught in this course will be useful for those who study about the other parts of the world as well. Prior knowledge about statistics or Southeast Asia is not required.

POL600A4-2319

国際地域研究（東南アジア）（2）

浅見 靖仁

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

東南アジア諸国の国際関係について多面的に理解し、自分自身でも分析を行うことができるようになることを目的とします。特に東南アジアと日本、中国との関係を重点的に取り上げます。時代的には第2次大戦直後から最現代までを扱いますが、2000年以降の新しい動きに重点を置きます。

【到達目標】

受講生が東南アジア諸国を取り巻く国際関係について自分自身で分析できるようになることを目標とします。基礎知識の習得だけでなく、貿易や投資に関する統計の分析手法も身につけることを目指します。先行研究や報道記事を批判的に分析し、見方の分かれる論点についても、根拠と確率論的な考え方に基づいて社会科学的分析を行うことができるようになることも目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

秋学期の前半の授業では、受講生は毎週課題文献を読んだ上で授業に出ることが求められます。秋学期前半の授業は、教員が課題文献に関する質問を受験生に投げかけ、それに対する受講生の回答に教員や他の受講生がコメントをするというかたちで行います。秋学期後半は、各受講生が東南アジア諸国をめぐる国際関係に関するテーマを1つ選び、それについて発表を行い、他の受講生や教員がコメントをするゼミ形式で授業を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	不確実な「事実」や不確実な未来に対して、確率論的な思考を行うことの重要性についての講義。
第2回	東南アジア諸国の外交政策(1)：1980年代以前	第2次大戦後から1980年代末までの東南アジア諸国間の国際関係について学びます。
第3回	東南アジア諸国の外交政策(2)：1990年代以降	1990年代以降の東南アジア諸国間の国際関係とASEANの役割について学びます。
第4回	東南アジア諸国と日本の関係(1)：貿易	東南アジア諸国と日本の間の貿易について、具体的な統計数字を使って分析してもらいます。
第5回	東南アジア諸国と日本の関係(2)：投資	日本から東南アジア諸国への投資について、具体的な統計数字を使って分析してもらいます。
第6回	東南アジア諸国と日本の関係(3)：外交	東南アジア諸国と日本の外交関係について学びます。
第7回	東南アジア諸国と中国の関係(1)：貿易	東南アジア諸国と中国の間の貿易について、具体的な統計数字を使って分析してもらいます。
第8回	東南アジア諸国と中国の関係(2)：投資	中国から東南アジア諸国への投資について、具体的な統計数字を使って分析してもらいます。
第9回	東南アジア諸国と中国の関係(3)：外交	東南アジア諸国と中国の外交関係について学びます。

- 第10回 ケーススタディー (1) 東南アジアの政治、経済、社会に関するテーマを受講生の1つずつ選んでもらい、そのテーマに関する先行研究について報告してもらいます。
- 第11回 ケーススタディー (2) 受講生が選んだ研究テーマに関する統計数字の分析を受講生に行ってもらいます。
- 第12回 ケーススタディー (3) 受講生が選んだ研究テーマについての研究構想について発表してもらいます。
- 第13回 ケーススタディー (4) 各受講生の研究構想の問題点や改善方法について考えます。
- 第14回 授業のまとめ この授業のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回異なる文献を課題文献とします。課題文献のリストは、学習支援システムに掲載します。

【参考書】

川中豪・川村晃一編『教養の東南アジア現代史』ミネルヴァ書房、2020年／トラン・ヴァン・トウ『中所得国の暹と中国・ASEAN』勁草書房、2019年／加納雄大『東南アジア外交：ポスト冷戦期の軌跡』信山社、2020年

【成績評価の方法と基準】

授業中に行うプレゼンテーション及び討議への貢献度30%、期末試験70%のウェイトで評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

これまでの受講生たちから寄せられた、東南アジアの国内政治や国内経済だけでなく、東南アジア諸国間や東南アジアと日本や中国との間の関係についても学びたいという要望に応えるために、東南アジアの国際関係を多面的に学ぶ構成にしました。

【学生が準備すべき機器他】

ExcelがインストールされたPCが必要です。

【Outline and objectives】

This course aims to deepen students' understanding of international relations among Southeast Asian countries and their relations with Japan and China. It covers diplomatic relations, trade, investment, and territorial conflicts.

POL600A4-2322

国際地域研究（ヨーロッパ）（1）

宮下 雄一郎

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の概要：一次史料としての外交文書の分析

授業の目的：本講義の目的は、ヨーロッパ国際関係の問題について歴史的観点から研究する際に必須となる史料読解に習熟することである。

【到達目標】

本授業の目標は、国際関係史に関する学術論文を執筆するに際し、一次史料を利用できるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

原則、履修者による報告によって講義を実施する。

新型コロナウイルス感染症の蔓延にともない、状況の改善が見込まれるまで、オンラインを軸とする講義を行う。Zoomを使う予定である。

なお、最終回の講義では、春学期に扱った史資料に関する説明、そしてレポートなどに対する講評を実施する予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の進行方法／受講者の研究テーマの紹介
第2回	受講者による史料読解・報告(1)	戦間期に関する外交①
第3回	受講者による史料読解・報告(2)	戦間期に関する外交②
第4回	受講者による史料読解・報告(3)	戦間期に関する外交③
第5回	受講者による史料読解・報告(4)	戦間期に関する外交④
第6回	受講者による史料読解・報告(5)	戦間期に関する外交⑤
第7回	受講者による史料読解・報告(6)	第二次世界大戦期の外交①
第8回	受講者による史料読解・報告(7)	第二次世界大戦期の外交②
第9回	受講者による史料読解・報告(8)	第二次世界大戦期の外交③
第10回	受講者による史料読解・報告(9)	第二次世界大戦期の外交④
第11回	受講者による史料読解・報告(10)	第二次世界大戦期の外交⑤
第12回	受講者による史料読解・報告(11)	第二次世界大戦期の外交⑥
第13回	受講者による史料読解・報告(12)	第二次世界大戦期の外交⑦
第14回	講義で扱った史資料に関する説明／レポートに関する講評	国際関係史と史料分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各国の外交文書からの抜粋（Foreign Relations of the United States, Documents diplomatiques français, 『日本外交文書』など）

【参考書】

瀬畑源『公文書をつかう—公文書管理制度と歴史研究』（青弓社、2011年）

【成績評価の方法と基準】

報告の内容（70%）、議論への参加度（30%）

【学生の意見等からの気づき】

学術論文を執筆する際に、必要となる技法の習得に直結する講義の実施

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

履修する際には、国際関係史・国際政治史・外交史の基礎的な文献を読んでおくこと。

なお、報告に際し、利用する外交文書の言語は、日本語・英語・フランス語のいずれかであることが望ましい。その他の言語の利用も可能だが、事前に相談すること。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>国際関係史／戦争史

<研究テーマ>フランス外交史／ヨーロッパ統合論

<主要研究業績>『フランス再興と国際秩序の構想—第二次世界大戦期の政治と外交』（勁草書房、2016年）など

【Outline and objectives】

Outline: Analyzing diplomatic papers

Objectives: The aim of this course is to learn how to use archival materials, which is the most important skill for research of international relations based on historical methods.

POL600A4-2323

国際地域研究（ヨーロッパ）（2）

宮下 雄一郎

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の概要：一次史料としての外交文書の分析

授業の目的：本講義の目的は、ヨーロッパ国際関係の問題について歴史的観点から研究する際に必須となる史料読解に習熟することである。国際地域研究（ヨーロッパ）（1）をすでに履修していることを前提とする。

【到達目標】

本授業の目標は、国際関係史に関する学術論文を執筆するに際し、必須となる一次史料の利用に習熟することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

授業は、履修者の報告に基づく演習形式で実施する。

なお、先行き不透明だが、新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴う事態に変化が見られない場合、オンラインでの演習とする。Zoomを引き続き利用する予定である。

最終回の演習で、秋学期に扱った史資料の解説や履修者が執筆したレポートなどに関する講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の進行方法／報告者の順番決め
第2回	受講者による史料読解・報告（1）	第二次世界大戦終焉直後のヨーロッパ統合構想①
第3回	受講者による史料読解・報告（2）	第二次世界大戦終焉直後のヨーロッパ統合構想②
第4回	受講者による史料読解・報告（3）	第二次世界大戦終焉直後のヨーロッパ統合構想③
第5回	受講者による史料読解・報告（4）	冷戦期の外交①
第6回	受講者による史料読解・報告（5）	冷戦期の外交②
第7回	受講者による史料読解・報告（6）	冷戦期の外交③
第8回	受講者による史料読解・報告（7）	冷戦期の外交④
第9回	受講者による史料読解・報告（8）	冷戦期の外交⑤
第10回	受講者による史料読解・報告（9）	脱植民地化と外交①
第11回	受講者による史料読解・報告（10）	脱植民地化と外交②
第12回	受講者による史料読解・報告（11）	脱植民地化と外交③
第13回	受講者による史料読解・報告（12）	脱植民地化と外交④
第14回	史資料に関する解説／レポートなどに関する講評	外交史研究の動向

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各国の外交文書からの抜粋（Foreign Relations of the United States, Documents diplomatiques français, 『日本外交文書』など）

【参考書】

モーリス・ヴァイス（細谷雄一・宮下雄一郎監訳）『戦後国際関係史—二極化世界から混迷の時代へ』（慶應義塾大学出版会、2018年）

【成績評価の方法と基準】

報告の内容（70%）、議論への参加度（30%）

【学生の意見等からの気づき】

秋学期に開催する授業ということもあり、修士論文の執筆を念頭に置いた演習を実施する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

報告に際し、利用する外交文書の言語は、日本語・英語・フランス語のいずれかであることが望ましい。その他の言語の利用も可能だが、事前に相談すること。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>国際関係史／戦争史

<研究テーマ>フランス外交史／ヨーロッパ統合論

<主要研究業績>『フランス再興と国際秩序の構想—第二次世界大戦期の政治と外交』（勁草書房、2016年）など

【Outline and objectives】

Outline: Analyzing diplomatic papers

Objectives: The aim of this course is to learn how to use archival materials, which is the most important skill for research of international relations based on historical methods. It is required to take "International Area Studies (Europe) (1)" in the spring semester.

POL600A4-2324

日本政治外交研究 1

高橋 和宏

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、外交文書公開の進展や政治家等に対するオーラルヒストリーの蓄積により、戦後日本の政治外交史上の様々な争点を実証的に解明されつつある。本講義では、戦後日本外交に関する文献講読を通じて、こうした研究の最前線を理解するとともに一次史料の利用方法といった方法論を学ぶことを目的とする。

【到達目標】

戦後日本外交の主要な論点について一次史料に基づく専門知識を習熟する。また、そうした論点が現代の外交課題にどのようにつながっているのかを考える学問的素養を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

演習方式。講読対象文献を基に議論する。当該テーマに関する一次史料の読解を課題に課すことがある。

学生による報告に対して教員からコメントや質疑を行い、その問題点や評価点をフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方、評価方法、講読文献の紹介
第2回	方法論（1）	戦後日本外交史の研究動向
第3回	方法論（2）	史料の使い方
第4回	文献講読（1） （受講生による報告）	戦後外交の始まりと再軍備 （教科書① 第1部第1～2章）
第5回	文献講読（2） （受講生による報告）	外交三原則と戦後処理外交 （教科書① 第1部第3～4章）
第6回	文献講読（3） （受講生による報告）	安保改定と沖縄返還 （教科書① 第1部第5～6章）
第7回	文献講読（4） （受講生による報告）	日中国交正常化 （教科書① 第1部第7～8章）
第8回	文献講読（5） （受講生による報告）	冷戦終結と湾岸戦争 （教科書① 第1部第9～10章）
第9回	文献講読（6） （受講生による報告）	サンフランシスコ講和体制 （教科書② 第1部1）
第10回	文献講読（7） （受講生による報告）	対ソ外交 （教科書② 第1部4）
第11回	文献講読（8） （受講生による報告）	対アジア外交 （教科書② 第2部6）
第12回	文献講読（9） （受講生による報告）	朝鮮半島外交 （教科書② 第2部8）
第13回	文献講読（10） （受講生による報告）	核軍縮・不拡散外交 （教科書② 第3部10）
第14回	総括	戦後日本外交の研究上の論点について総括的に議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習に要する時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

- ① 栗山尚一『戦後日本外交 軌跡と課題』岩波書店、2016年
- ② 波多野澄雄編『日本の外交 第2巻 外交史 戦後編』岩波書店、2013年

【参考書】

授業において随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業での報告及び議論への参加（100 %）

【学生の意見等からの気づき】

学生の関心に応じて、国内外の外交文書やその他の一次史料の具体的な入手方法を説明する。また、それらを用いた学術論文の執筆についても指導を行う。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

受講生に応じて、授業計画を調整することがある。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>日本外交史、経済外交論、国際関係史
<研究テーマ>冷戦期の日米関係、国際経済秩序をめぐる日本外交
<主要研究業績>『ドル防衛と日米関係 高度成長期日本の経済外交 1959~1969年』（千倉書房、2018年）など。

【Outline and objectives】

This course aims to help students acquire an understanding of the political and diplomatic history of Japan since the end of the Second World War. Through intensive documents reading, students will learn the latest research findings as well as basic research methodology on historical archives.

POL600A4-2325

日本政治外交研究 2

高橋 和宏

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、外交と内政との連関という視点から冷戦期の日米関係史を展望し、その特質を理解することを目的とする。戦後日米関係は占領期という特殊な時期を起点として、政治、経済、安全保障、文化と多層的な関係を築いてきた。経済摩擦や基地問題の例に顕著にみられるように、この間のプロセスは外交と内政とが密接に絡み合うものであり、双方の視点からその歴史的位置を見定めることが必要である。講義ではまた、実践的な史料の使い方や研究の方法論についても議論していく。

【到達目標】

戦後日米関係史上の主要な論点について専門的知識を習熟するとともに、そうした論点が現代日本の政治外交にどう繋がっているかを実証的に考察できる学術的知見を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

演習方式。博士論文をベースとして刊行された戦後日米関係（日米安保体制の確立、安保条約改定、沖縄返還、核、経済摩擦）に関する研究書を輪読する。一つの研究書を2回の授業で読了していく。対象とする研究書の選定は初回のガイダンスに行う。学生による報告に対して教員からコメントや質疑を行い、その問題点や評価点をフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方、評価方法、講読文献の紹介
第2回	方法論(1)	戦後日米関係史の研究動向
第3回	方法論(2)	史料の使い方
第4回	文献講読(1) (受講生による報告)	日米安保体制の確立①
第5回	文献講読(2) (受講生による報告)	日米安保体制の確立②
第6回	文献講読(3) (受講生による報告)	安保条約改定①
第7回	文献講読(4) (受講生による報告)	安保条約改定②
第8回	文献講読(5) (受講生による報告)	沖縄返還①
第9回	文献講読(6) (受講生による報告)	沖縄返還②
第10回	文献講読(7) (受講生による報告)	核をめぐる諸問題①
第11回	文献講読(8) (受講生による報告)	核をめぐる諸問題②
第12回	文献講読(9) (受講生による報告)	経済摩擦①
第13回	文献講読(10) (受講生による報告)	経済摩擦②
第14回	総括	戦後日米関係の研究上の論点について総括的に議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習に要する時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講読対象文献については初回の授業の際に確定する。

【参考書】

授業において随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業での報告及び議論への参加（100％）

【学生の意見等からの気づき】

学生の関心に応じて、国内外の外交文書やその他の一次史料の具体的な入手方法を説明する。また、それらを用いた学術論文の執筆についても指導を行う。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

受講生に応じて、授業計画を調整することがある。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>日本外交史、経済外交論、国際関係史
<研究テーマ>冷戦期の日米関係、国際経済秩序をめぐる日本外交
<主要研究業績>『ドル防衛と日米関係 高度成長期日本の経済外交 1959~1969年』（千倉書房、2018年）など。

【Outline and objectives】

The main purpose of this course is to provide basic perspective on Japan-U.S. relationship during the Cold War era, with a special focus on the links between diplomacy and domestic politics. The following topics are to be covered: formulation of the security arrangements, amendment of the Security Treaty, Okinawa reversion, nuclear problems, and economic friction.

POL600A4-2403

総合講座・外交総合講座

本多 美樹

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的は、日本と国際社会の主要なカウンターパートの外交関係の現状と課題を知るとともに、軍縮問題、移民問題、開発や環境問題といった国際社会が共に直面する越境的な諸問題について、日本の政府のみならず、企業や市民社会もどのように他国の多様なアクターと取り組んでいるのかについても理解を深めることにある。各回の授業に、実務家、ジャーナリスト、研究者、民間企業やNGOからの有識者に講義していただき、質疑応答も活発に行うことによって、政府間関係からでは知りえない広義の「外交」への理解を深める。

【到達目標】

- ・国際社会の主要なカウンターパートと日本の外交関係の現状と課題について基本的な知識を身に付ける。
- ・国際社会が直面する地球規模の諸問題に対して日本がどのような政策を取り、他の主体（アクター）とどのように協働して取り組んでいるのか、現状と課題を知る。
- ・日本の各分野の政策における課題に気づき、自分なりの意見を持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」「DP2」は特に強く関連、「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

政府間関係だけではない広義の「外交」の最前線への理解を促すため、ゲストスピーカーによる講義の後には毎回、質疑応答の場を設ける。（*ゲストスピーカーの予定と調整を行うため、授業の順序とトピックは多少変更する可能性あり。）

毎回の授業後には講義への理解を確認するため、Hoppiiを通じて課題の提出を求める。課題に対するフィードバックは個々に行うとともに、授業の初めに、前回の授業で提出された質問からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックも行う。

対面での授業を予定しているが、新型コロナウイルス感染症の拡大状況によって判断する。詳しくは、Hoppiiでお知らせする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の目的と進め方の説明
2	日本の対アジア外交	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
3	日本の対米外交	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
4	日本の対欧外交	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
5	日本の対アフリカ外交	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
6	日本の対 UN 外交	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
7	メディアから見た日本の外交①	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
8	メディアから見た日本の外交②	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
9	日本の民間外交	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
10	核軍縮と日本の政策	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
11	移民と日本の政策	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答

12	人権と日本の政策	ゲストスピーカーによる講義と質疑 応答
13	開発と日本の政策	ゲストスピーカーによる講義と質疑 応答
14	環境問題と日本の政策	ゲストスピーカーによる講義と質疑 応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、講義に関連する資料を事前に読んでから授業に臨むこと。授業後には支援システムを利用して課題の提出を必ず行うこと。詳しくは初回の授業で説明する。

【テキスト（教科書）】

特になし。関連資料は毎回事前に配布する。

【参考書】

関連資料は随時授業時に知らせる。

【成績評価の方法と基準】

講義や質疑応答への活発な参加などの平常点（40%）と課題の提出（60%）から総合的に判断する。なお、4回以上課題の提出を怠った学生には単位の授与はないので気を付けること。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

受講生は日々のニュースをフォローするなど、国際社会での出来事に関心を寄せること。関連するセミナーやシンポジウムへの参加が望ましい。これについても随時紹介する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

国際関係論、国際機構論、伝統的・非伝統的安全保障研究、国連研究
<研究テーマ>

国際社会による「平和」のための協働と確執、アジア太平洋地域の
伝統的・非伝統的安全保障

<主要研究業績>

主な著書として、「国連による『スマート・サンクション』と金融制裁：効果の追求と副次的影響の回避を模索して」『国連の金融制裁：法と実務』（東信堂、2018年）、「平和構築の新たな潮流と『人間の安全保障』：ジェンダー視座の導入に注目して」『東南アジアの紛争予防と『人間の安全保障』』（明石書店、2016年）、「国連による経済制裁と人道上の諸問題：『スマート・サンクション』の模索」（国際書院、2013年）、「北東アジアの『永い平和』：なぜ戦争は回避されたか」（勁草書房、2012年）、「『グローバル・イシュー』としての人権とアジア：新たな国際規範をめぐる国際社会の確執に注目して」『グローバリゼーションとアジア地域統合』（勁草書房、2012年）、「“Smart Sanctions” by United Nations and Financial Sanctions,” United Nations Financial Sanctions (Routledge, 2020), “Coordination challenges for the UN-initiated peace-building architecture Problems in locating ‘universal’ norms and values on the local,” Complex Emergencies and Humanitarian Response (Union Press, 2018), “The Role of UN Sanctions against DPRK in the Search of Peace and Security in East Asia: Focusing on the Implementation of UN Resolution 1874,” East Asia and the United Nations: Regional Cooperation for Global Issues (Japan Association for United Nations Studies, 2010) などがある。執筆した主な教科書として、『国際機構論 活動編』（国際書院、2020年）、『国際機構論 総合編』（国際書院、2015年）、『国際学のすすめ』（東海大学出版会、2013年）などがある。

【Outline and objectives】

This course provides students with the basic information and challenges of the Japan's policy toward her major counterparts including the United States, Asian nations, European nations, African nations and international institutions. The foreign policy will be analyzed from a wide variety of interdisciplinary perspectives – historical, political, economic, and security relations – and through diverse paradigmatic lenses. The course invites officials from Japanese ministries, journalists, political scientists, experts from businesses and NGOs. Through lectures by guest speakers and question-and-answer sessions, students are expected to gain a better understanding of the Japanese foreign policy from broader perspective and to form their own ideas towards it.

